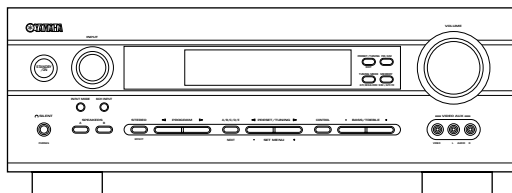
DSP AVアンプ

NATURAL SOUND AV AMPLIFIER

DSP-AX540
DSP-AX440

取扱説明書

ヤマハ DSP AVアンプDSP-AX540/DSP-AX440をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

■本機の優れた性能を十分に発揮させると共に、永年支障なくお使いいただくために、ご使用前にこの取扱説明書と保証書をよくお読みください。お読みになったあとは、保証書と共に大切に保管し、必要に応じてご利用ください。

■保証書は、「お買上げ日、販売店名」などの記入を必ず確かめ、販売店からお受け取りください。

保証書別添付

目次

はじめに

準備する

音声や映像を楽しむ

音場プログラムを使いこなす

使用環境にあわせて設定する

リモコンを使いこなす

その他の情報

音楽を楽しむエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を充分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまいます。適当な音量を心がけ、窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。音楽はみんなで楽しむもの、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。

- 本書はDSP-AX540とDSP-AX440の取扱説明書です。それぞれの特有の機能を説明している箇所では機種名を記載しています。
  - DSP-AX540 :DSP-AX540の機能です。
  - DSP-AX440 :DSP-AX440の機能です。
- は操作上のアドバイスなど補足的な説明です。
- 本取扱説明書は製品開発に先がけ印刷されております。その後、操作性の向上、その他の理由により、製品仕様の一部が変更となることがあります。その場合は製品自体の仕様が優先されます。
- 説明の便宜上、文中のイラスト等が実際の製品と異なる場合があります。

安全上のご注意（安全に正しくお使いいただくために）

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

この「安全上のご注意」に書かれている内容には、お客様が購入された製品に含まれないものも記載されています。

絵表示の例

気をつけなければならない内容を表しています。
たとえば⚠は「感電注意」を示しています。

してはいけない行為を表しています。
たとえば🛇は「分解禁止」を示しています。

必ずしなければならない行為を表しています。
たとえば●は「電源プラグをコンセントから抜くこと」を示しています。

警告

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

プラグを抜く

下記の場合には、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く。
- 異常なにおいや音がする。 • 煙が出る。
- 内部に水や異物が混入した。

そのまま使用すると、火災や感電の原因となります。

禁止

電源コードを傷つけない。
- 重いものを上に載せない。
- ステープルで止めない。
- 加工をしない。
- 熱器具には近づけない。
- 無理な力を加えない。

芯線がむき出しのまま使用すると、火災や感電の原因となります。

水ぬれ禁止

本機を下記の場所には設置しない。
- 浴室･台所･海岸･水辺
- 加湿器を過度にきかせた部屋
- 雨や雪、水がかかるところ

水滴の混入により火災や感電の原因となります。

接触禁止

雷がなりはじめたらアンテナや電源プラグには触れない。

感電の原因となります。

分解禁止

分解･改造は厳禁。キャビネットは絶対に開けない。

火災や感電の原因となります。
修理･調整は販売店にご依頼ください。

禁止

放熱のため本機を設置する際には：
- 布やテーブルクロスをかけない。
- じゅうたん･カーペットの上には設置しない。
- あおむけや横倒しには設置しない。
- 通気性の悪い狭いところへは押し込まない。

本機の内部に熱がこもり火災の原因となります。

警告

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

禁止

本機のACアウトレットに、指定された供給電力を超えた機器を接続しない。また、供給電力内であっても電熱器・ドライヤー・電子調理器等は接続しない。

火災の原因となります。

禁止

電池を充電しない。

電池の破裂や液もれにより火災やけがの原因となります。

禁止

電池からもれ出た液には直接触れない。

液が目や口に入ったり、皮膚についたりした場合はすぐに水で洗い流し、医師に相談してください。

必ず行う

本機を落としたり、本機が破損した場合には、必ず販売店に点検を依頼してください。

そのまま使用すると火災や感電の原因となります。

必ず行う

必ずAC100V(50/60Hz)の電源電圧で使用する。

それ以外の電源電圧で使用すると、火災や感電の原因となります。

必ず行う

電源プラグのゴミやほこりは定期的にとり除く。

ほこりがたまったまま使用を続けるとプラグがショートして火災や感電の原因となります。

禁止

本機にものを入れたり、落としたりしない。

火災や感電の原因となります。

禁止

本機の上には、花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・薬品・ロウソクなどを置かない。

- 水や異物が中に入ると、火災や感電の原因となります。
- 接触面が経年変化を起こし、本機の外装を損傷する原因となります。

注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損傷のみの発生が想定される内容を示しています。

禁止

不安定な場所や振動する場所には設置しない。
本機が落下や転倒してけがの原因となることがあります。

禁止

直射日光のあたる場所や温度が異常に高くなる場所(暖房機のそばなど)には設置しない。
本機の外装が変形したり内部回路に悪影響が生じて、火災の原因となることがあります。

必ず行う

再生を始める前には、音量(ボリューム)を最小にする。
突然大きな音が出て聴力障害等の原因となることがあります。

プラグを抜く

長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。
火災や感電の原因となることがあります。

接触禁止

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。
感電の原因となることがあります。

禁止

電源プラグを抜くときは、電源コードをひっぱらない。
コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。

プラグを抜く

移動をするときには、本機(または接続機器)の電源スイッチを切り、すべての接続を外す。
- 機器が落下や転倒してけがの原因となることがあります。
- コードが傷つき火災や感電の原因となることがあります。

禁止

長時間音が歪んだ状態で使用しない。
スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。

禁止

大きな音で長時間ヘッドホンを使用しない。
聴力障害の原因となることがあります。

注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損傷のみの発生が想定される内容を示しています。

必ず行う

電池は極性表示(プラス⊕とマイナス⊖)に従って、正しく入れる。

間違えると破裂や液もれにより火災やけがの原因となることがあります。

禁止

指定以外の電池は使用しない。また種類の異なる電池や新しい電池と古い電池をいっしょに混ぜて使用しない。

破裂や液もれにより火災やけがの原因となることがあります。

禁止

電池と金属片をいっしょにポケットやバッグなどに入れて携帯、保管しない。

電池がショートし破裂や液もれにより火災やけがの原因となることがあります。

禁止

電池を加熱・分解したり、火や水の中へ入れない。

破裂や液もれにより火災やけがの原因となることがあります。

禁止

ほこりや湿気の多い場所に設置しない。

ほこりの堆積によりショートして、火災や感電の原因となることがあります。

プラグを抜く

手入れをするときには、必ず電源プラグを抜いて行う。

感電の原因となることがあります。

注意

本機はデジタル信号を扱います。他の電気製品に障害をあたえるおそれがあります。

それらの製品とはできるだけ離して設置してください。

必ず行う

電源プラグはコンセントに根もとまで確実に差し込む。

差し込みが不充分のまま使用すると感電したり、プラグにほこりが堆積して発熱や火災の原因となることがあります。

禁止

電源プラグを差し込んだときゆるみがあるコンセントは使用しない。

感電や発熱・火災の原因となることがあります。

注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損傷のみの発生が想定される内容を示しています。

注意

環境温度が急激に変化したとき、本機に結露が発生することがあります。

正常に動作しないときには、電源を入れたままましばらく放置してください。

禁止

薬物厳禁
ベンジン・シンナー・合成洗剤等で外装をふかない。また接点復活剤を使用しない。

外装が傷んだり、部品が溶解することがあります。

必ず行う

屋外アンテナ工事には、技術と経験が必要です。販売店にご依頼ください。

注意

年に一度くらいは内部の掃除を販売店にご依頼ください。

ほこりがたまったまま使用を続けると、火災や故障の原因となることがあります。

必ず行う

重いので、開梱や持ち運びは必ず2人以上で行う。

けがの原因となることがあります。

本機の電源を切っても（電源コードをコンセントから抜いた状態）、選択した入力ソース、音量、セットメニューの設定、プリセットされた放送局などは本機に記憶されています。ただし、電源を切った状態が1週間以上続くと、記憶内容が消去されることがあります。

DOLBY DIGITAL・EX PRO LOGIC II

ドルビーラボラトリーズからの実施権により製造されています。「ドルビー」、「PRO LOGIC」およびダブルD記号は、ドルビーラボラトリーズの商標です。

dts ES NEO:6

DTS、DTS-ES Extended SurroundおよびNeo:6はデジタルシアターシステムズの登録商標です。

AACロゴマーク はドルビーラボラトリーズの商標です。
以下はパテントナンバーです。

08/937,950	5,633,981	5,227,788	5,299,239
5848391	5 297 236	5,285,498	5,299,240
5,291,557	4,914,701	5,481,614	5,197,087
5,451,954	5,235,671	5,592,584	5,490,170
5 400 433	07/640,550	5,781,888	5,264,846
5,222,189	5,579,430	08/039,478	5,268,685
5,357,594	08/678,666	08/211,547	5,375,189
5 752 225	98/03037	5,703,999	5,581,654
5,394,473	97/02875	08/557,046	05-183,988
5,583,962	97/02874	08/894,844	5,548,574
5,274,740	98/03036	5,299,238	08/506,729

本機の特長

高音質ハイパワー6チャンネルアンプを搭載

◆ 定格出力(6Ω、20Hz〜20kHz、歪率0.09%)

DSP-AX540

メインL/Rチャンネル: 80W + 80W
センターチャンネル: 80W
リアL/Rチャンネル: 80W + 80W
リアセンターチャンネル: 80W

DSP-AX440

メインL/Rチャンネル: 75W + 75W
センターチャンネル: 75W
リアL/Rチャンネル: 75W + 75W
リアセンターチャンネル: 75W

「シネマDSPエンジン」内蔵のマルチモードDSP

◆ ドルビープロロジックデコーダー /ドルビープロロジックIIデコーダー
◆ ドルビーデジタルデコーダー /ドルビーデジタルEXデコーダー
◆ DTSデコーダー /DTS-ESマトリクス6.1、ディスクリート6.1デコーダー/DTS Neo:6デコーダー
◆ AACデコーダー
◆ シネマDSP: ヤマハが誇るDSPと、ドルビープロロジックやドルビーデジタル、DTS(デジタルシアターシステムズ)、AAC(アドバンストオーディオコーディング)の融合
◆ 少ないスピーカーでもマルチチャンネル再生を仮想的に再現できるバーチャルシネマDSP機能
◆ ヘッドホン使用時でも音場効果を体感できるサイレントシアター機能

高機能FM/AMステレオチューナー

◆ 40局まで登録可能なプリセット選局
◆ オートプリセット選局
◆ プリセットされた放送局のエディット機能内蔵

AVアンプにふさわしい多機能構成

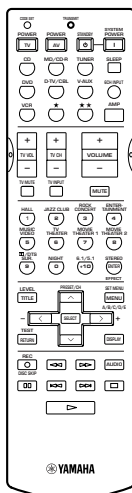
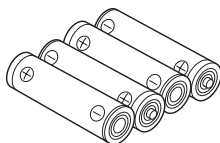
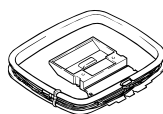
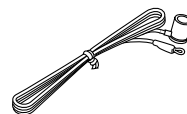
◆ 96-kHz/24-bit D/Aコンバーター
◆ 音場効果を最大限に引き出すための設定ができるセットメニュー
◆ 複数のスピーカーの音量バランス調節を容易にするテストトーン
◆ DVDオーディオやその他のデコーダーにも対応できる6CH INPUT端子
◆ OPTICAL(光)デジタル入力端子とCOAXIAL(同軸)デジタル入力端子
◆ スリープタイマー
◆ メーカーコード設定機能付リモコン
◆ D4ビデオ入出力端子

DSP-AX540

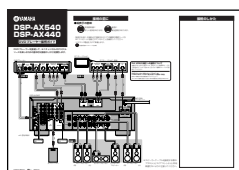
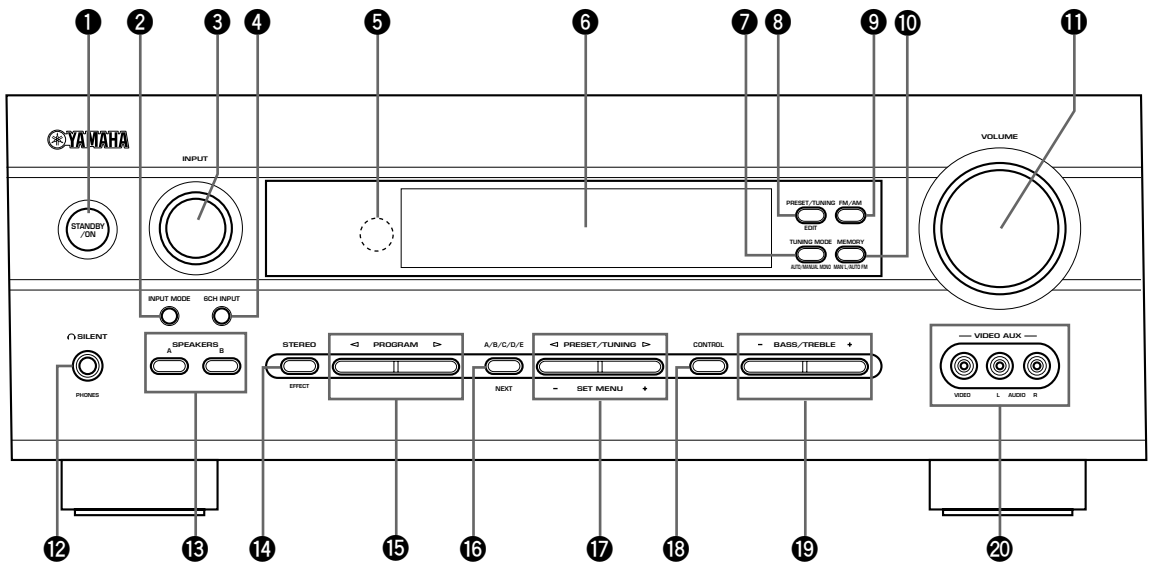
◆ OPTICAL(光)デジタル出力端子
◆ Sビデオ入出力端子
◆ ビデオ信号変換機能:Sビデオ⇔ビデオ(コンポジットビデオ)

付属品を確認する

同梱されている付属品を確認してください。

リモコン

単4乾電池(4本)

AMループアンテナ

FM簡易アンテナ

簡易接続ガイド

各部の名称とはたらき

前面

❶ STANDBY/ONスイッチ
本機の電源の入/待機(スタンバイ)を切り替えます。
なお、電源を入れて数秒間は音が出ません。
スタンバイモード中は、リモコンからの赤外線信号を受信するために、少量ながら電力を消費します。

❷ INPUT MODEキー
同じ機器をデジタル/アナログ両方の入力端子に接続している場合に、入力信号の優先順位を設定できます(33ページ)。

❸ INPUTセレクター
再生したい入力ソースを選びます(31ページ)。

❹ 6CH INPUT キー
6CH INPUT端子に入力されている信号を選びます。
INPUTセレクターやリモコンの入力選択キーで選んだ入力ソースよりも優先されます(31ページ)。

❺ リモコン受光窓
リモコンからの信号を受信します。

❻ ディスプレイ
プログラムの名称や、設定値などを表示します(14ページ)。

❼ TUNING MODE(AUTO/MAN'L MONO)キー
手動(マニュアル)選局または自動(オート)選局を選びます。
自動選局する場合は、このキーを押してAUTOインジケーターを点灯させます。手動選局する場合は、AUTOインジケーターを消します(34ページ)。

❽ PRESET/TUNING(EDIT)キー
選局するときに、あらかじめ登録(プリセット)した局から選ぶか、または周波数から選局するのかを切り替えます。
また、登録した局の入れ替えもこのキーで行います(37ページ)。

❾ FM/AMキー
FM放送、 AM放送受信を切り替えます。

❿ MEMORY(MAN'L/AUTO FM)キー
受信した放送局を登録(プリセット)します。3秒以上押すと、オートプリセット機能を利用できます(35、36ページ)。

⓫ VOLUMEコントロール
本機の音量を調節します。
録音用のOUT(REC)端子の音量には影響しません。

⑫ PHONES端子

ヘッドホンを接続します。ヘッドホンを接続すると、すべてのスピーカーから音が出ませんので、深夜に音声を楽しまれる際は、ヘッドホンをお使いくださるようお勧めします。ヘッドホン接続時は、サイレントシアターで音声を楽しめます（43ページ）。

⑬ SPEAKERS A/Bスイッチ

音声を出力するメインスピーカーの系統（AとB）を選びます（31ページ）。

⑭ STEREO/EFFECTキー

ステレオ音声（2チャンネル）と音場効果を加えた音声を切り替えます。
STEREOを選択すると、音場効果を加えない音声がメインL/Rスピーカーから出力されます（43ページ）。

⑮ PROGRAM ◁/▷ キー

音場プログラムを選びます（40ページ）。

⑯ A/B/C/D/Eキー

FM/AM放送を聴くときに、プリセットグループ（A、B、C、D、E）を選びます。

NEXTキー

入力がTUNER以外のとき、セットメニューを呼び出します。

⑰ PRESET/TUNING ◁/▷ キー

聴く放送局を選択します。1－8の登録（プリセット）した局から選ぶか、周波数で選局してください（34、37ページ）。

SET MENU ＋/－キー

入力がTUNER以外のとき、セットメニューの設定に使用します。

⑱ CONTROLキー

音色を調節する音域を切り替えます。キーを押すごとにBASS（低音域）とTRBL（高音域）が切り替わります。

⑲ BASS/TREBLE ＋/－キー

CONTROLキーを押して選んだ音域を調節します。＋側を押すと選んだ音域が強調され、－側を押すと減衰します。

ご注意

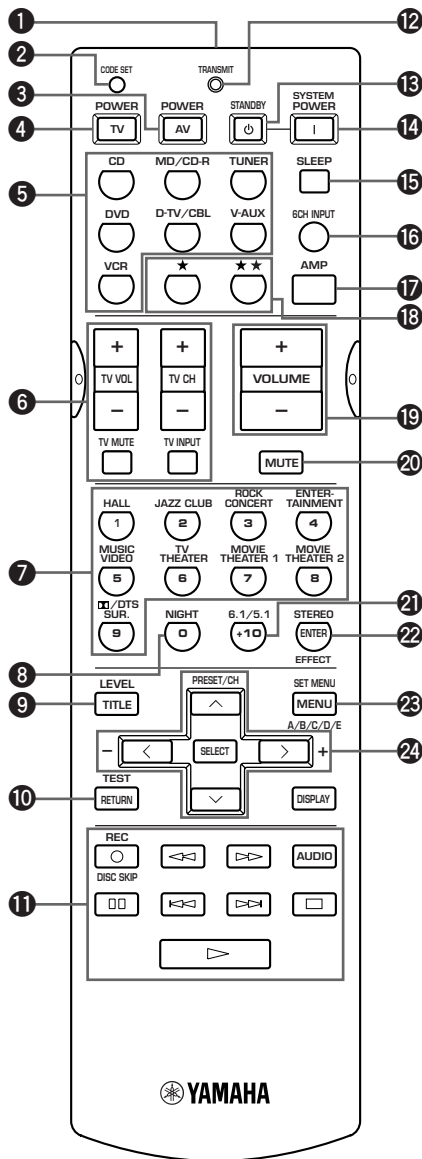
トーンコントロールにより、メインチャンネルを極端にブースト（増強）、またはカット（減衰）した場合、メインL/Rとセンター、リア（エフェクト）スピーカーの間で、音のつながりが悪くなることがあります。

⑳ VIDEO AUX端子

ゲーム機やビデオカメラレコーダーなどを接続する予備入力端子です。
この端子から信号を入力する場合には、INPUTセレクター、またはリモコンの入力選択キーにて「V-AUX」を選んでください。

背面については16ページを参照してください。

リモコン

複数の名称、シンボルがついているキーについては黄色で書かれた本機操作用の機能について説明します。緑と白で書かれた機能については選んだ機器で異なります(65ページ)。

❶ 赤外線送信部
リモコン操作用の赤外線信号を送信します(15ページ)。

❷ CODE SET(コード セット)ボタン
メーカーコードを設定するときに押します(64ページ)。

❸ AV POWER(パワー)キー
入力選択キーで選んだ機器のメーカーコードが設定されている場合、その機器の電源を入/切します(65ページ)。

❹ TV POWER(テレビ パワー)キー
メーカーコードを設定したテレビ(モニター)の電源を入/切します(65ページ)。

❺ 入力選択キー
再生したい入力ソースを選びます(31ページ)。入力ソースにあわせて、リモコンの機能も切り替わります。

❻ テレビ操作キー
メーカーコードを設定したテレビ(モニター)の操作を行います(65ページ)。

❼ 音場プログラムキー
音場プログラムを選びます(40ページ)。

プリセット番号キー
入力選択キーでTUNERを選択している場合、1−8の登録(プリセット)局番号を直接選択します。

❽ NIGHT(ナイト)キー
夜間など、小音量で音声を楽しむときに押します(32ページ)。

❾ LEVEL(レベル)キー
各スピーカー(メインL/R、センター、リアL/R、リアセンター、サブウーファー)レベルの調節モードに入ります。

❿ TEST(テスト)キー
テストトーンを出力します(30、62ページ)。

⓫ オペレーションセクション
入力選択キーで選んだ機器のメーカーコードが設定されている場合、その機器の基本操作を行います(65ページ)。

⓬ TRANSMIT(トランスミット)インジケーター
リモコン操作用の赤外線信号を送信しているときに、点灯します。

⓭ STANDBY(スタンバイ)キー
本機の電源をスタンバイ(待機状態)にします。

⑭ SYSTEM POWERキー
本機の電源を入れます。

⑮ SLEEPキー
スリープタイマーを設定します（39ページ）。

⑯ 6CH INPUTキー
6CH INPUT端子に入力されている信号を選びます。本体のINPUTセレクターやリモコンの入力選択キーで選んだ入力ソースよりも優先されます（31ページ）。

⑰ AMPキー
リモコンの機能を本機の操作用に切り替えます。

⑱ ★/★★キー
リモコンの機能を★/★★キーに設定した機器の操作用に切り替えます（63ページ）。

⑲ VOLUME ＋/－キー
本機の音量を調節します。
録音用のOUT(REC)端子の音量には影響しません。

⑳ MUTEキー
音量を下げます。音量を下げている間はディスプレイのMUTEインジケーターが点滅します。
もう1度押すと、元の音量に戻ります（32ページ）。

㉑ 6.1/5.1キー
ドルビーデジタルやDTSなどの5.1チャンネルソフトを6.1チャンネルで再生するときに押します（41ページ）。

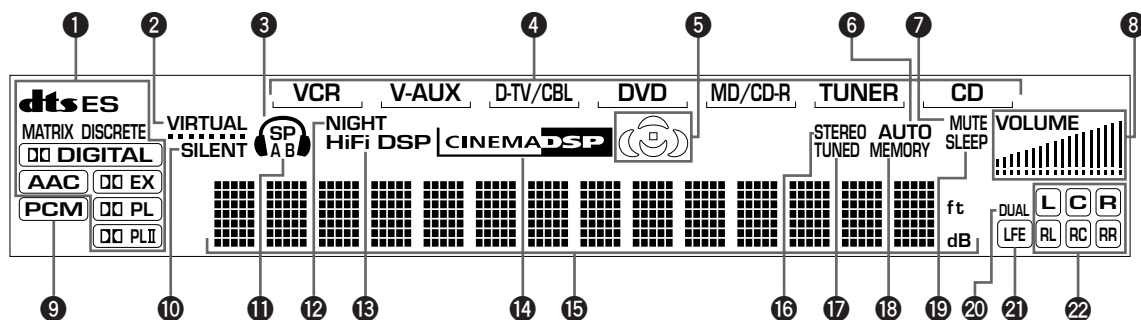
㉒ STEREO/EFFECTキー
ステレオ音声（2チャンネル）と音場効果を加えた音声を切り替えます。STEREOを選択すると、音場効果を加えない音声がメインL/Rスピーカーから出力されます（43ページ）。

㉓ SET MENUキー
セットメニューモードを選択します。

A/B/C/D/Eキー
入力選択キーでTUNERを選択している場合、プリセットグループ（A、B、C、D、E）を選びます（37ページ）。

㉔ カーソルキー（∧/∨/</>）
セットメニューや音場プログラムのパラメーターの選択/設定に使います。

PRESET/CHキー
入力選択キーでTUNERを選択した場合、1－8の登録（プリセット）局番号を選択します（37ページ）。

ディスプレイ

❶ デコーダーインジケーター
本機内蔵のデコーダーが作動中に、それぞれのインジケーターが点灯します。

❷ VIRTUALインジケーター
バーチャルシネマDSP時に点灯します。

❸ ヘッドホンインジケーター
PHONES端子にヘッドホンを接続すると点灯します。

❹ 入力ソースインジケーター
現在のソース表示下部に ＿＿＿ が点灯します。

❺ 音場インジケーター
DSP音場プログラム使用時に、どのような音場処理をしているかを表示します。

❻ AUTOインジケーター
チューナーをオート選局にすると点灯します。

❼ MUTEインジケーター
MUTEキーを押して、音量を下げている間点滅します。

❽ VOLUMEインジケーター
現在の音量を表示します。音量が大きくなるにつれて右側にインジケーターが増えていきます。

❾ PCMインジケーター
PCM信号再生時に点灯します。

❿ SILENTインジケーター
サイレントシアター時に点灯します。

⓫ SP A/Bインジケーター
SPEAKERS A/Bスイッチ（31ページ）で選んだメインスピーカーを表示します。

⓬ NIGHTインジケーター
ナイトリスニングモード時に点灯します。

⓭ HiFi DSPインジケーター
Hi-Fi DSP音場プログラム選択時に点灯します。

⓮ CINEMA DSPインジケーター
CINEMA DSP音場プログラム選択時に点灯します。

⓯ マルチインフォメーションディスプレイ
音場プログラム名や各種設定値、放送局の周波数やプリセット番号を表示します。

⓰ STEREOインジケーター
AUTO表示が点灯しているときに、電波の強いFMステレオ放送を受信すると点灯します。

⓱ TUNEDインジケーター
FM/AM放送が受信されたときに点灯します。

⓲ MEMORYインジケーター
放送局を登録（プリセット）するときに点滅します。

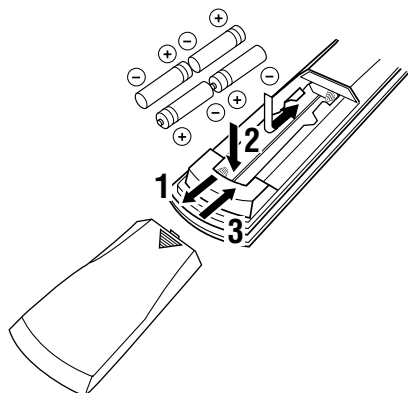
⓳ SLEEPインジケーター
スリープタイマーの作動中に点灯します。

⓴ DUALインジケーター
ドルビーデジタル、DTSおよびAACのDUAL MONOまたはMULTI MONOなど、音声多重モノラルのデジタル信号入力時に点灯します。

㉑ LFEインジケーター
入力信号にLFEが含まれているときに点灯します。

㉒ 入力信号チャンネルインジケーター
再生ソースのデジタル信号に含まれる、音声チャンネルに対応したインジケーターが点灯します。

リモコンを準備する

■ リモコンに電池を入れる

1 リモコンの裏ぶたの ▽ マークを押しながら、電池カバーを取りはずす。

2 付属の単4乾電池（4本）を、リモコンの電池ケース内の表示にあわせて、プラス（＋）とマイナス（－）の向きを間違えないように、正しく入れる。

3 裏ぶたを閉じる。

■ リモコンの乾電池についてのご注意

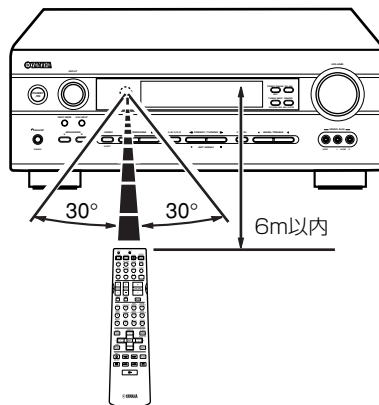
- 消耗した乾電池は早めに交換してください。
- 新しい乾電池と、1度使用した乾電池を混ぜて使用しないでください。
- 種類の異なる乾電池（アルカリとマンガンなど）を混ぜて使用しないでください。同じ形状でも性能の異なるものがあります。

■ 乾電池が消耗したときは、交換してください

乾電池が消耗すると、リモコンを操作できる距離が極端に短くなったり、キーを押してもインジケーターが点灯しなくなったりします。このような場合は、すべて新しい乾電池に交換してください。

ご注意

- 乾電池が液漏れした場合は、液に触れないよう注意して破棄してください。液が目や口に入ったり、皮膚についたりした場合はすぐに水で洗い流し、医師に相談してください。新しい乾電池を入れる前に電池ケース内をきれいにふいてください。
- 電池を外したまましばらく（2分以上）放置したり、消耗した乾電池をリモコンにそのまま入れておくと、リモコンに設定したメーカーコードなどのメモリー内容が消えてしまうことがあります。このような場合は、乾電池を新しいものに交換して、メーカーコードを設定してください。

■ リモコンの使用範囲

リモコンは直進性の強い赤外線を使っています。本体の受光部に向けて正しく操作してください。

■ リモコンの取り扱いについてのご注意

- 水やお茶をこぼしたり、落としたりしないでください。
- リモコンを落とさないでください。
- 下記のような場所には置かないよう、ご注意ください。
  - ストーブのそばや風呂場など、温度·湿度の高いところ。
  - ほこりの多いところ。
  - 極端に寒いところ。

接続する

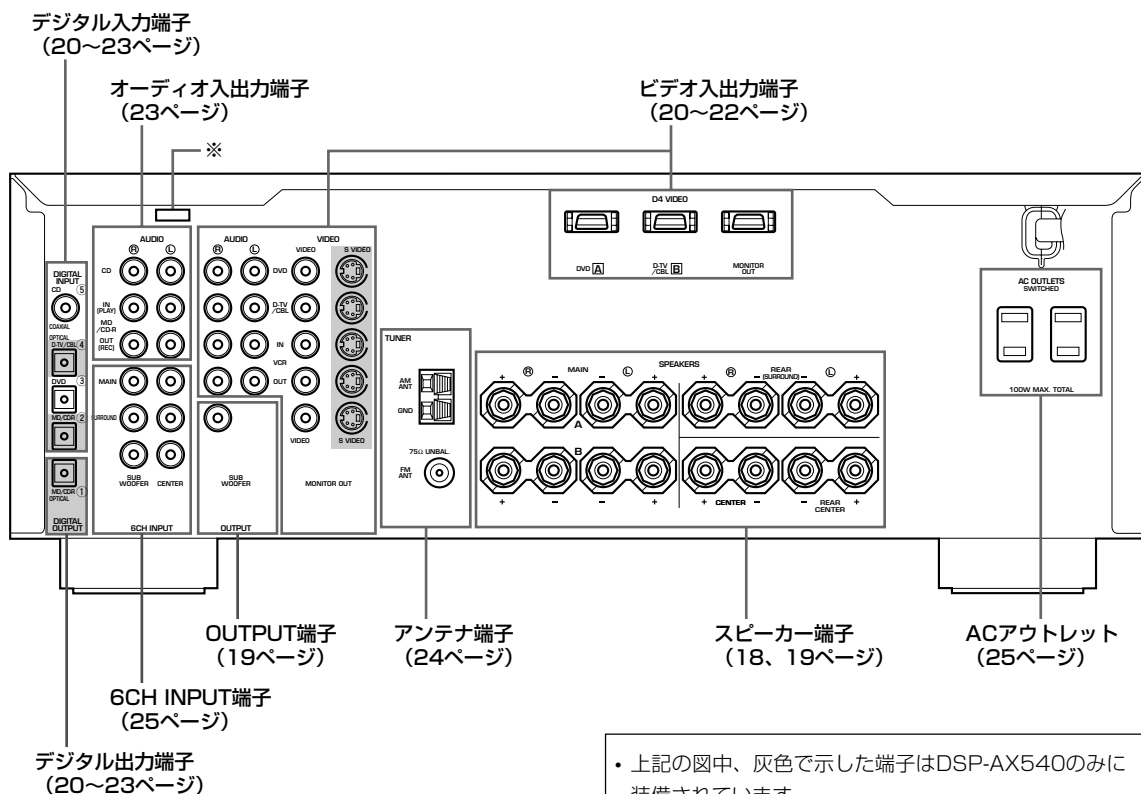
■ 接続に関しての注意

- 接続する前に、本機および接続する機器の電源コードがACコンセントに接続されていないことを確認してください。
- 右チャンネル(R)、左チャンネル(L)、入力(IN)、出力(OUT)などを確認して正しく接続してください。接続する機器によっては接続方法や端子の名前が異なることがあります。接続する機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。
- 端子名は入力選択キーに対応しています。

■ デジタル端子の接続

本機は、同軸ケーブルや光ファイバーケーブル経由で、デジタル信号を直接伝送できるデジタル端子(COAXIAL または OPTICAL)を装備しています。デジタル端子はPCM、ドルビーデジタル、DTS、AAC兼用です。COAXIAL端子とOPTICAL端子から同時にデジタル信号が入力されると、COAXIAL端子からの入力信号を優先します。本機のデジタル入力端子は、サンプリング周波数32kHzの衛星放送AモードからCDやMDディスクの44.1kHz、衛星放送BモードとDVDディスクの48kHzに対応しています。また、DVDディスクの96kHzにも対応しています。

ご注意

- 本機のデジタル信号回路とアナログ信号回路は独立しているため、アナログ入力信号はアナログ出力端子から、デジタル入力信号はデジタル出力端子からのみ出力されます。
- 本機のOPTICAL端子は、EIAJ規格に基づいて設計されています。EIAJ規格を満たさない光ファイバーケーブルを使用すると、正常に動作しないことがあります。

※工場検査用端子ですので、ご使用になれません。

- 上記の図中、灰色で示した端子はDSP-AX540のみに装備されています。
- 以降のページに記載の接続図はすべてDSP-AX540の背面図を使用しています。

スピーカーを準備する

■ 本機は6スピーカーシステムに対応しています

本機はメインL/Rスピーカー(2本)、センタースピーカー(1本)、リアセンタースピーカー(1本)、リアL/Rスピーカー(2本)の6スピーカーシステムを使って最良の音場効果が得られるよう設計されています。
メインL/Rスピーカーはメインチャンネルの音声(ステレオ音声)と効果音を出力し、リアL/Rスピーカーはサラウンドと効果音、リアセンタースピーカーはサラウンド、センタースピーカーは会話やボーカルなど画面中央に定位する音を出力します。

本機と接続するスピーカーを選ぶポイント

- 各スピーカーの再生音色が異なると、移動する人物の声など(音色)が不自然に変化することがあります。できるだけ、メーカーや音色の揃ったスピーカーの使用をおすすめします。
- 同一メーカーが同じ時期に販売しているシリーズのスピーカーで、スピーカーシステムを揃えることをおすすめします。

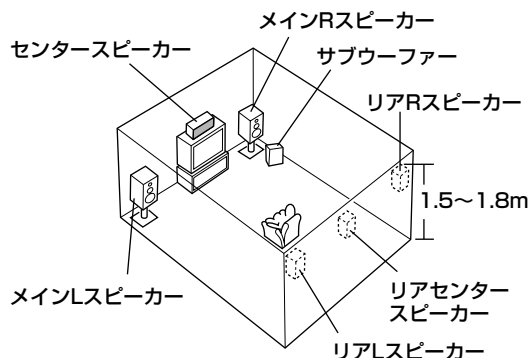
サブウーファーで低音域の音響効果を向上できます

別売りのサブウーファーをご使用になると、さらに音響効果を向上させることができます。サブウーファーは低音を強調するだけでなく、ドルビーデジタルやDTS、AACに含まれるLFE信号を正確に再現することができます。

スピーカーは防磁型スピーカーをお使いください

防磁型以外のスピーカーを使用すると、テレビ(モニター)に映る映像が乱れることがあります。特に画面近くに設置する必要のあるセンタースピーカーやサブウーファーには、防磁型スピーカーのご使用をおすすめします。
防磁型スピーカーをお使いの場合でもテレビ(モニター)の映像が乱れるときは、スピーカーをテレビ(モニター)と離して設置してください。

■ スピーカーの設置場所を決める

スピーカーは下図のように配置してください。

メインL/Rスピーカー

左右のスピーカーをリスニングポジションから等距離に設置します。

センタースピーカー

メインスピーカーの中間に設置します。テレビ(モニター)を設置している場合は、テレビ(モニター)画面とスピーカーの前面を揃え、テレビ(モニター)の上や下など、できるだけテレビ(モニター)画面に近いところの中央に設置します。

リアL/Rスピーカー

後方斜め、スピーカーをリスニングポジションに向けて設置します。床に直接座って聴く場合は、床から約1.5m、椅子に座って聴く場合は、床から約1.8mの高さが適当です。

リアセンタースピーカー

後方からスピーカーをリスニングポジションに向けて設置します。床に直接座って聴く場合は、床から約1.5m、椅子に座って聴く場合は、床から約1.8mの高さが適当です。

サブウーファー

前方左右どちらかの外側で、壁の反射を防ぐために少し内向きに設置します。低音の聴こえ方は、スピーカーを置く位置と聴く位置の両方に影響されるので、設置する位置を変えてお試しください。

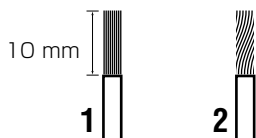
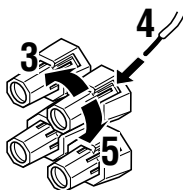
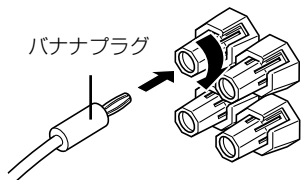
ご注意

6スピーカーシステムでお使いにならないときは、お使いになるスピーカーにあわせて、アンプの出力設定を変更してください(27〜29ページ)。

■ スピーカーケーブルを接続する

右チャンネル(R)、左チャンネル(L)、「＋」(赤)、「－」(黒)を確認して正しく接続してください。極性(＋、－)を間違えて接続した場合、不自然な再生音になります。

重要

- スピーカーケーブルを接続する場合、ショートしないように注意してください。ショートした状態で電源を入れると、本機の保護回路が働いて自動的にスタンバイ状態になりますが、故障の原因になる恐れがあります。
- 接続するスピーカーのインピーダンスは6Ω以上のものを使用してください。メインスピーカーA、Bを同時に鳴らす場合は、1台につき12Ω以上のものを使用してください。それ以下のインピーダンスのスピーカーを使用すると、保護回路が働いたり、故障する恐れがあります。

一般的にスピーカーケーブルは、平行した2本の絶縁ケーブルです。ケーブルのうちの1本は極性を判別するために異なった色またはラインが入っています。

1 **スピーカーケーブル先端の絶縁部(被覆)を、10mmぐらいはがす。**

2 **芯線をしっかりとよじる。**
しっかりよじらないと、ショート(接触)の原因になります。

3 **スピーカー端子を左に回してゆるめる。**

4 **スピーカー端子のわきの穴に、スピーカーケーブルの芯線を差し込む。**

5 **スピーカー端子を右に回して、締め付ける。**

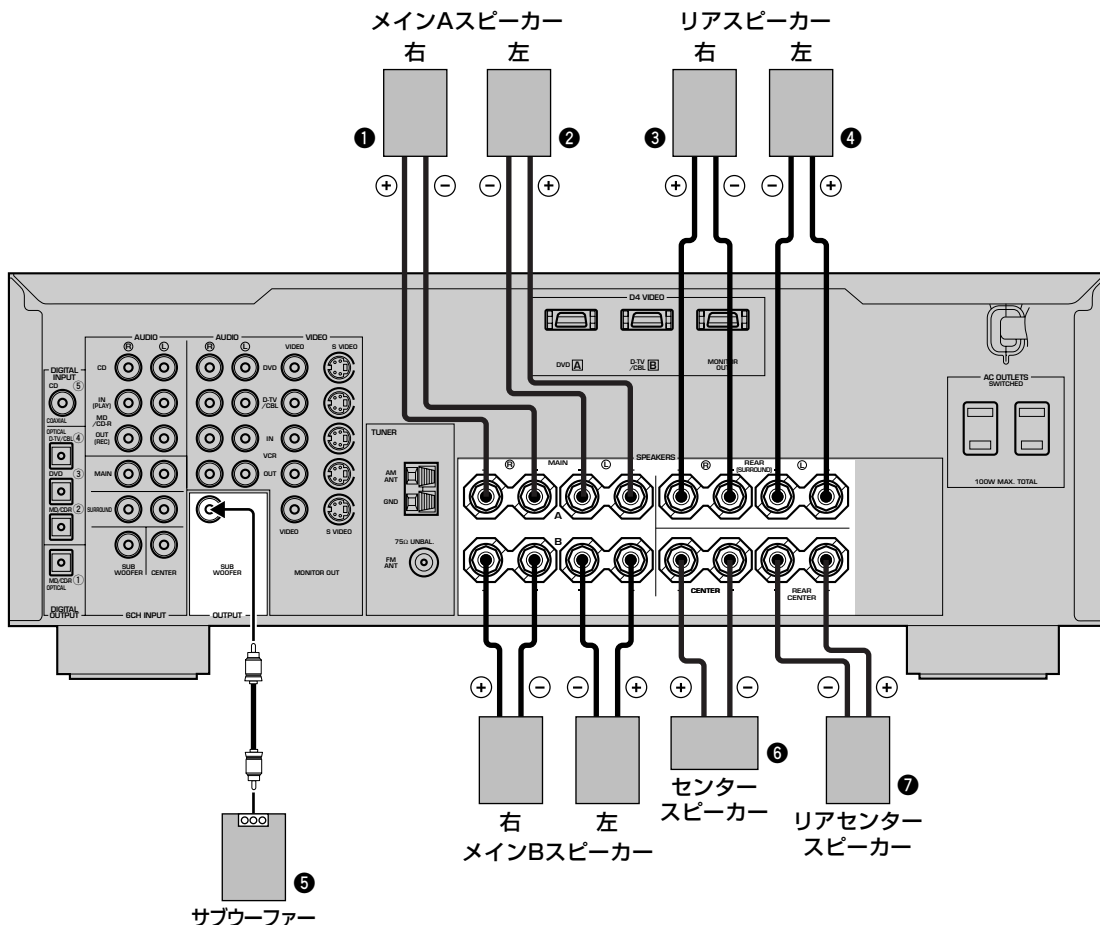
ご注意

市販のバナナプラグを使用する場合は、端子を強く締めてから差し込んでください。

メインAスピーカー
右 左
❶ ❷

リアスピーカー
右 左
❸ ❹

❺ サブウーファー

右 左
メインBスピーカー

❻ センタースピーカー

❼ リアセンタースピーカー

MAIN SPEAKERS端子

メインスピーカーを接続します。

REAR SPEAKERS端子

リアスピーカーを接続します。

CENTER SPEAKER端子

センタースピーカーを接続します。

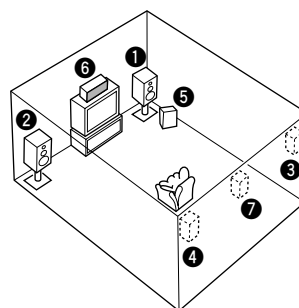
REAR CENTER SPEAKER端子

リアセンタースピーカーを接続します。

リスニングルーム内の各スピーカーの配置は、下図のようになります。

SUBWOOFER端子

ヤマハ アクティブサーボ サブウーファーシステムなどのアンプ内蔵サブウーファーを使用するときは、SUBWOOFER端子につなぎます。
メイン、センターおよびリアチャンネルからの90Hz以下の低音域の信号はこの端子に送られます。ドルビーデジタル、DTS、AACデコード時のLFE信号もこの端子に出力されます。

ご注意

セットメニュー「SOUND-1 SPEAKER SET」と「SOUND-3 LFE LEVEL」の設定によっては、SUBWOOFER端子から音声信号が出力されない場合もあります。

映像(ビデオ)機器を接続する

■ ビデオ端子について

本機には以下のビデオ端子が備えられています。

VIDEO端子

コンポジットビデオ信号を伝送します。

DSP-AX540 S VIDEO端子

Sビデオ信号を伝送します。
Sビデオ入出力端子がある機器をS VIDEO端子に接続すれば、VIDEO端子よりも高画質な映像を再生できます。

D4 VIDEO端子

コンポーネントビデオ信号とコントロール信号(走査線、アスペクト比などの情報)を伝送します。
D端子入出力またはコンポーネントビデオ出力端子がある機器をD4 VIDEO端子に接続すれば、VIDEO端子またはS VIDEO端子よりも高画質な映像を再生できます。

これらの端子に入力された信号は、それぞれ同じ種類のMONITOR OUT端子に出力されます。
お使いになる再生機器とモニターの両方のビデオ端子をご確認のうえ、両方に共通する端子を使って接続してください。

ヒント

- DSP-AX540 本機のS VIDEO端子に入力された信号は内部でコンポジットビデオ信号に変換されてVIDEO MONITOR OUT端子にも出力されます(次ページ「本機内部でのビデオ信号の流れ」参照)。
- DSP-AX540 セットメニュー「OPTION-1 DISPLAY SET」の「V CONV.」の設定により、本機のVIDEO端子に入力された信号をS VIDEO MONITOR OUT端子に出力することもできます(次ページ「本機内部でのビデオ信号の流れ」参照)。
- DSP-AX540 S VIDEO端子とVIDEO端子の両方に入力されている場合はSビデオ信号が優先されます。
- D4 VIDEO A、B端子の入力機器の設定をセットメニュー「INPUT-1 I/O ASSIGN」で変更することもできます(59ページ)。

ご注意

- D4 VIDEO端子を使って接続する場合は、お使いの再生機器とモニターのD端子の規格(D1～D4)を合わせてください。
- DSP-AX540 本機のS VIDEO端子はS1、S2規格には対応していません。

■ モニター(テレビ)を接続する

モニター(テレビ)のビデオ入力端子をVIDEO(MONITOR OUT)端子に接続します。

■ DVDプレーヤーを接続する

DVDプレーヤーの光デジタル出力端子をDIGITAL INPUT OPTICAL(DVD)端子に接続します。また、ビデオ出力端子をVIDEO(DVD)端子に接続します。

ヒント

- 光デジタル出力端子がない場合は、同軸デジタル出力端子を空いているDIGITAL INPUT COAXIAL端子に接続します。この場合は、セットメニュー「INPUT-1 I/O ASSIGN」で接続した端子の割り当てを変更することをおすすめします(59ページ)。
- デジタル出力端子がない場合は、オーディオ出力端子をAUDIO(DVD)端子に接続します。

■ 衛星放送/CATVチューナーを接続する

衛星放送/CATVチューナーの光デジタル出力端子をDIGITAL INPUT OPTICAL(D-TV/CBL)端子(DSP-AX540)/空いているDIGITAL INPUT OPTICAL端子(DSP-AX440)に接続します。また、ビデオ出力端子をVIDEO(D-TV/CBL)端子に接続します。

ヒント

- 光デジタル出力端子がない場合は、オーディオ出力端子をAUDIO(D-TV/CBL)端子に接続します。
- DSP-AX440 接続する各端子名をあわせて接続してください。

■ LDプレーヤーを接続する

LDプレーヤーの光デジタル出力端子を空いているDIGITAL INPUT OPTICAL端子に接続します。また、ビデオ出力端子を空いているVIDEO端子に接続します。

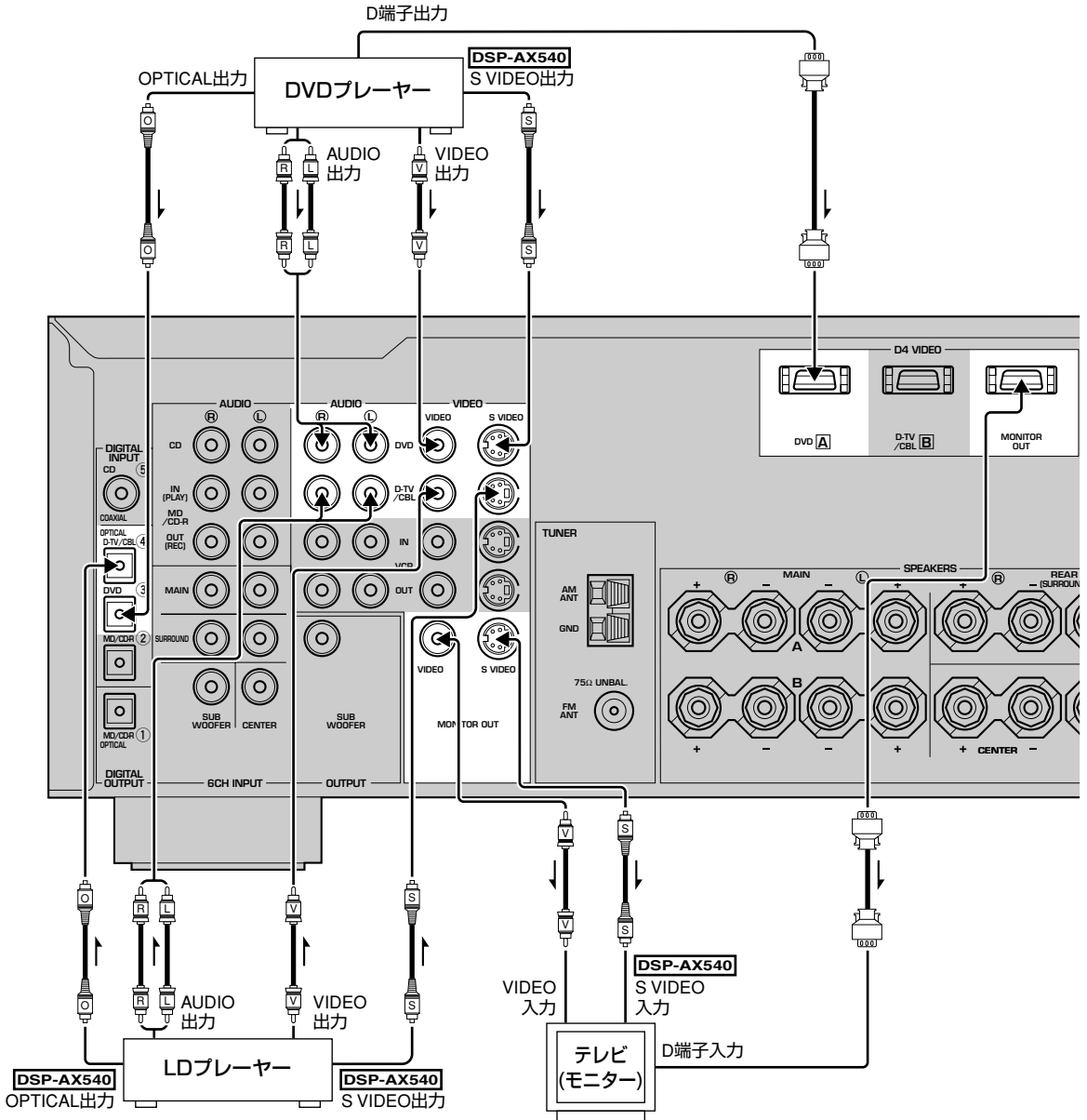
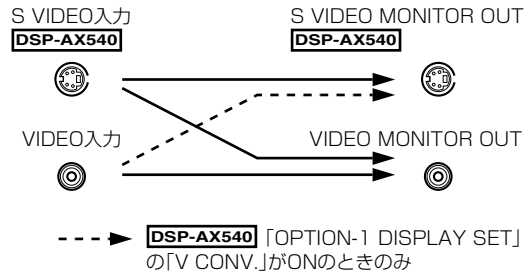
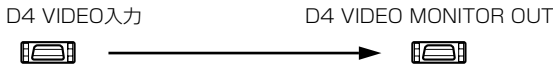
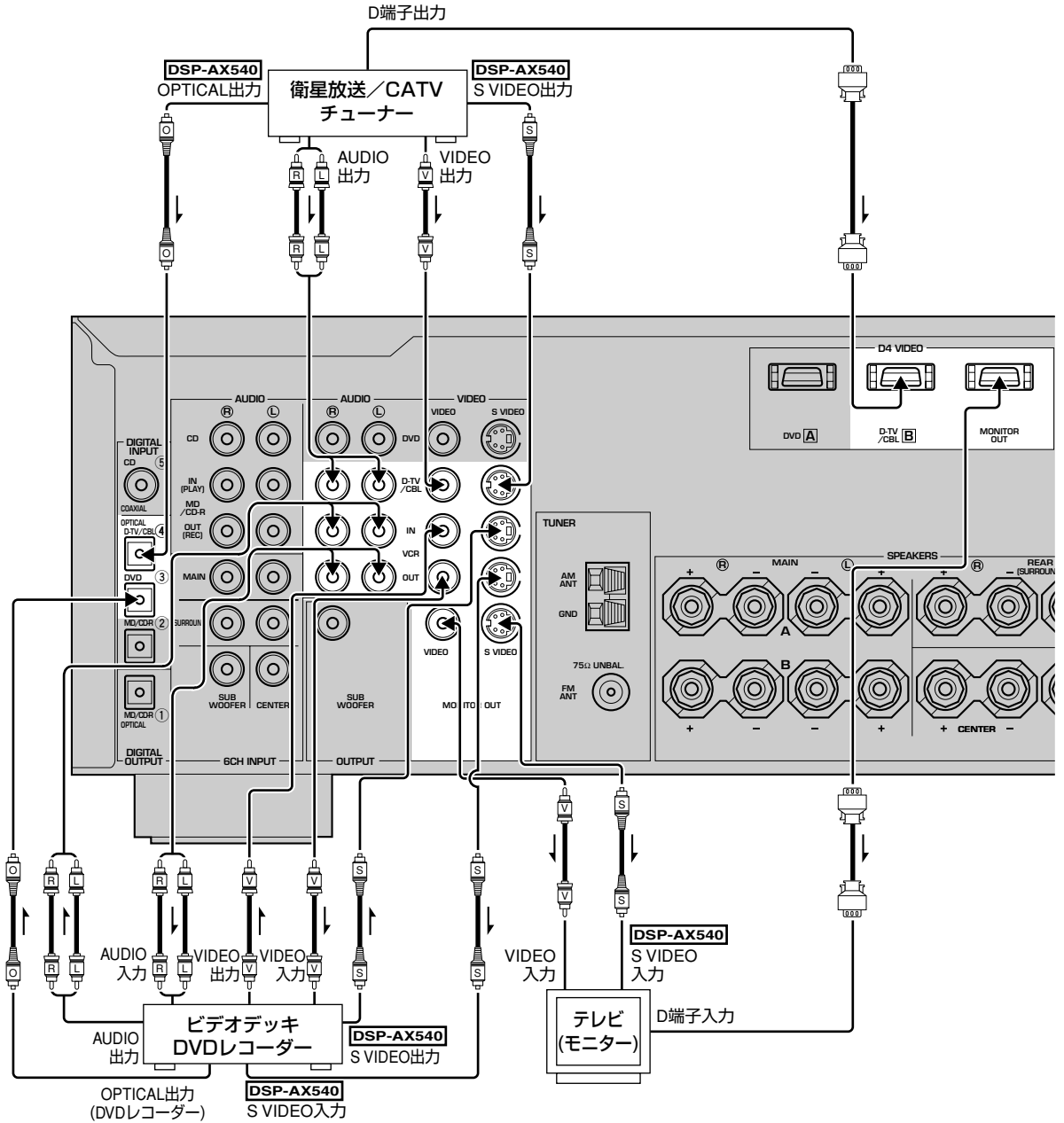
ヒント

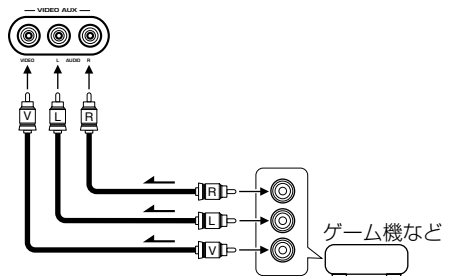
- 光デジタル出力端子がない場合は、オーディオ出力端子を空いているAUDIO端子に接続します。
- ドルビーデジタルRF出力端子がある場合は、市販のRFデモジュレーターに接続してから、空いているDIGITAL INPUT OPTICAL端子に接続します。
- 接続する各端子名をあわせて接続してください。

■ ビデオデッキ/DVDレコーダーを接続する

再生する場合は、ビデオデッキ/DVDレコーダーのオーディオ出力端子をAUDIO IN(VCR)端子に接続します。また、ビデオ出力端子をVIDEO IN(VCR)端子に接続します。
録画する場合は、ビデオデッキ/DVDレコーダーのオーディオ入力端子をAUDIO OUT(VCR)端子に接続します。また、ビデオ入力端子をVIDEO OUT(VCR)端子に接続します。

ヒント

DVDレコーダーの音声をデジタルで楽しみたいときは、光デジタル出力端子を空いているDIGITAL INPUT OPTICAL端子に接続します。この場合は、セットメニュー「INPUT-1 I/O ASSIGN」で接続した端子の割り当てを変更することをおすすめします(59ページ)。

■ ゲーム機やビデオカメラなどを接続する

本機前面のVIDEO AUX端子に接続します。

オーディオ機器を接続する

■ CDプレーヤーを接続する

CDプレーヤーの同軸デジタル出力端子をDIGITAL INPUT COAXIAL(CD)端子に接続します。

ヒント

- 同軸デジタル出力端子がない場合は、光デジタル出力端子を空いているDIGITAL INPUT OPTICAL端子に接続します。この場合は、セットメニュー「INPUT-1 I/O ASSIGN」で接続した端子の割り当てを変更することをおすすめします(59ページ)。
- デジタル出力端子がない場合は、オーディオ出力端子をAUDIO(CD)端子に接続します。

■ MDレコーダー/CDレコーダーを接続する

アナログで再生する場合は、MD/CDレコーダーのオーディオ出力端子をAUDIO IN(MD/CD-R)端子に接続します。

アナログで録音する場合は、MD/CDレコーダーのオーディオ入力端子をAUDIO IN(MD/CD-R)端子に接続します。

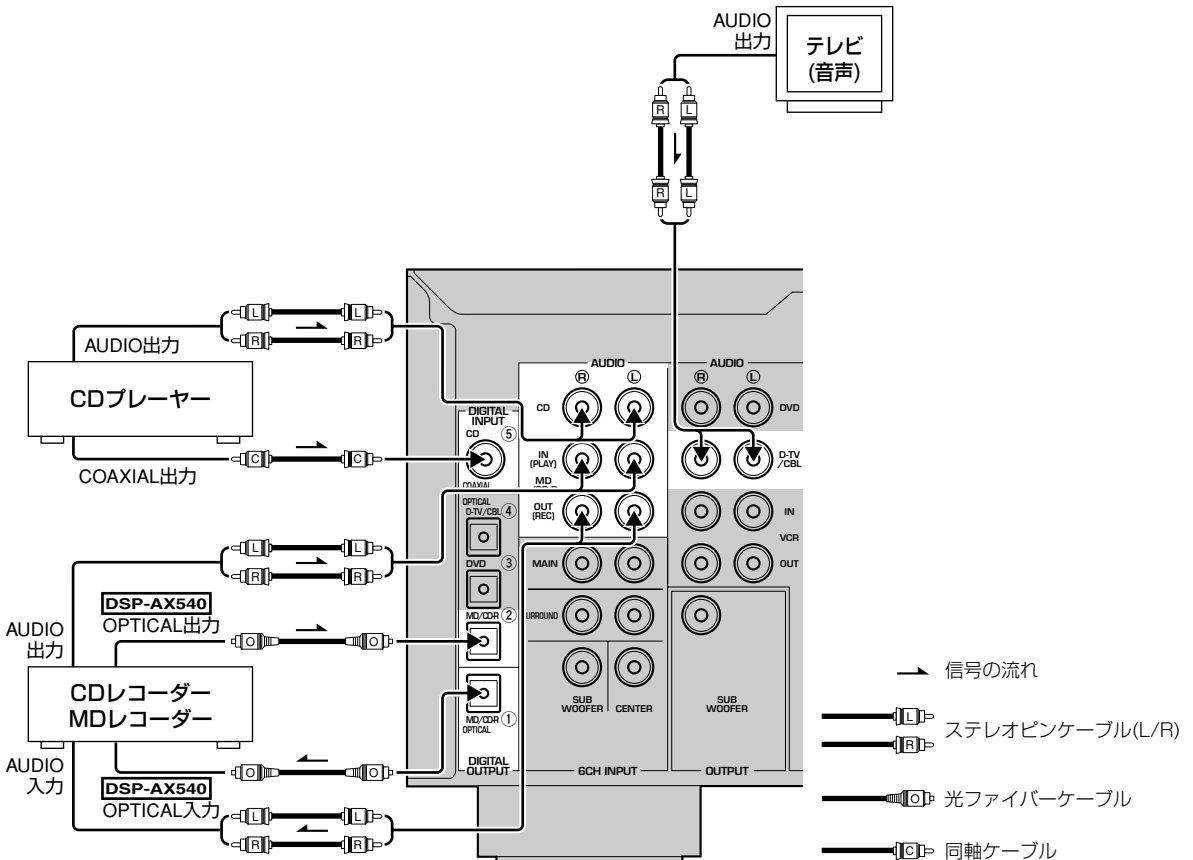
ヒント

- DSP-AX540 高音質で再生したいときは、MD/CDレコーダーの光デジタル出力端子をDIGITAL INPUT OPTICAL (MD/CD-R)端子に接続します。また、デジタル録音したいときは、MD/CDレコーダーの光デジタル入力端子をDIGITAL OUTPUT OPTICAL端子に接続します。
- カセットデッキを接続する場合は、同様にAUDIO(MD/CD-R)端子に接続します。

ご注意

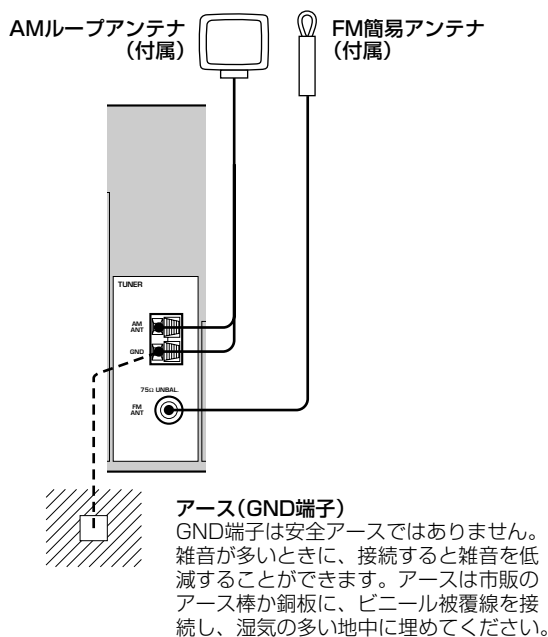
本機に録音機器を接続している場合、本機の使用中は録音機器の電源を入れたままにしてください。録音機器の電源が切れていると、本機の音が歪むことがあります。

■ テレビ(音声)を接続する

お使いのテレビのオーディオ出力端子を空いているAUDIO端子に接続します。

アンテナを接続する

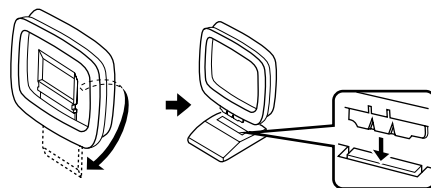
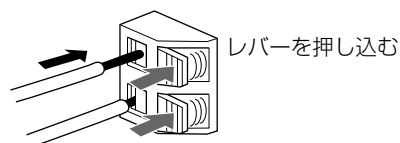
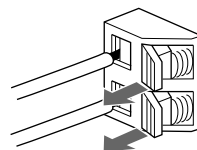
本機にはAMループアンテナ及びFM簡易アンテナが付属しています。 付属のアンテナは、電波状況が非常に良い地域で受信する場合にご使用ください。
各アンテナを端子に正しく接続してください。

■ FM簡易アンテナを接続する

付属のFM簡易アンテナをFM ANT端子に接続してください。

FM屋外アンテナを接続するときは

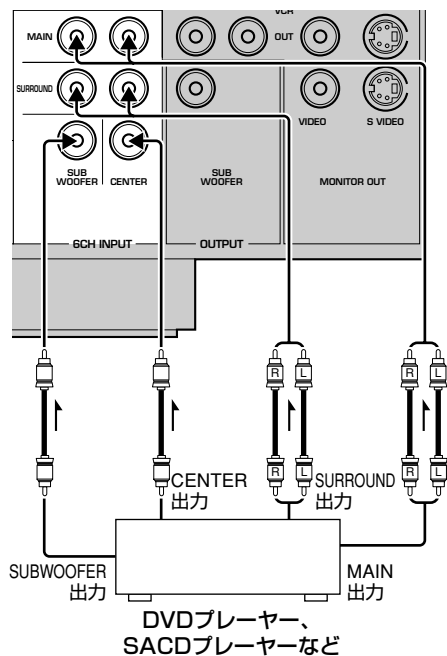
アンテナの同軸ケーブルを市販のF型コネクターを使って、FM ANT端子に接続します。詳しくは、屋外アンテナをお買い求めの販売店にご相談ください。

■ AMループアンテナを接続する

1 アンテナをアンテナスタンドに取り付ける。

2 AM ANT端子とGND端子のレバーを押し込んだ状態で、AMループアンテナのコードをAM ANT端子とGND端子に差し込む。
コードに極性はありません。

3 レバーを放して、コードを固定する。
コードを軽く引いて、正しく固定されたかどうか確認してください。

ヒント
- 受信がうまくいかない場合はアンテナを左右に回し受信状態が最も良くなる方向に向けてください。
- 放送を良好に受信するためには、屋外アンテナを設置することをお勧めします。詳しくは、最寄りのヤマハ電気音響製品のサービス拠点にお問い合わせください。

ご注意
- AMループアンテナは、本機から離して設置してください。
- 屋外アンテナを接続した場合でも、AMループアンテナは必ず接続しておいてください。

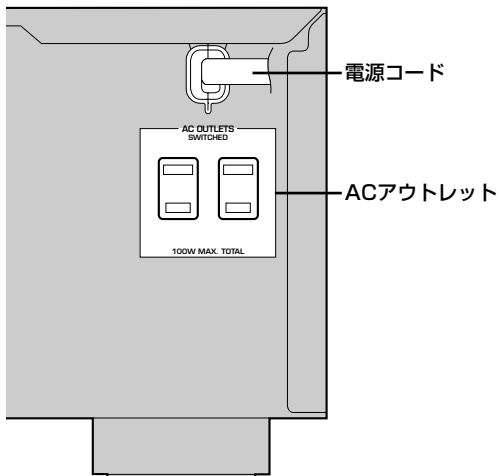
6チャンネル出力端子がある機器を接続する

DVDプレーヤーやSACDプレーヤー、6チャンネル外部デコーダーなど、6チャンネル出力端子がある機器を6CH INPUT端子に接続できます。

信号の流れ

ステレオピンケーブル(L/R)

ご注意

- 6CH INPUT端子から入力した信号には、本機の音場効果はかかりません。
- ヘッドホン使用時には、メインL/Rチャンネルの音声のみヘッドホンに出力されます。

電源コードを接続する

■ ACアウトレット

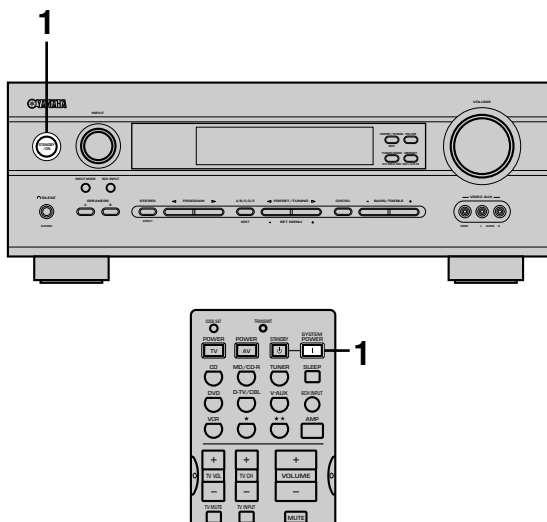
外部オーディオ機器に電源を供給するコンセントで、本機のSTANDBY/ONスイッチと連動しています。合計で消費電力100Wまでのオーディオ機器を接続し、電源を供給することができます。
接続するときの電源プラグの向き(極性)によって音質が変わることがありますので、お好みの向きで接続してください。

■ 電源コード

すべての接続が終了したら、家庭用AC100V、50/60HzのACコンセントに電源コードのプラグを接続します。
接続するときの電源プラグの向き(極性)によって音質が変わることがありますので、お好みの向きで接続してください。

準備する

電源を入れる

ここまでのすべての準備が終わったら、本機の電源を入れます。

1 STANDBY/ONスイッチ(またはリモコンのSYSTEM POWERキー)を押す。

本機の電源が入ります。

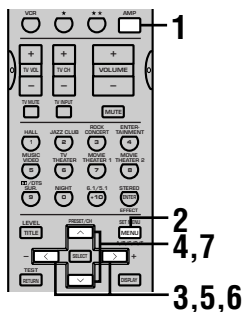
本体　　リモコン

2 DVDなどの映像ソースを再生する場合は、本機と接続したテレビ(モニター)の電源を入れる。

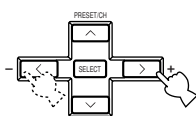
使用環境にあわせて簡単に設定する（BASIC）

お部屋のサイズや、接続したスピーカーの数にあわせて、簡単に再生に適した設定にします。
BASICメニューでは、ヤマハが推奨するリスニング環境を簡単に設定することができます。さらにSOUNDメニューにより、お好みのリスニング環境を設定することができます。BASICメニューを使わずに、お好みの環境を設定するには、「音声出力を設定する（SOUND）」（55ページ）を参照し、SOUNDメニューから設定してください。

操作手順

リモコンで操作します。設定する前に、本体のSPEAKER AまたはBスイッチを押して、音を出すメインスピーカーを選んでください。また、ヘッドホンを接続している場合は、ヘッドホンを外してください。

1 AMPキーを押してAMPを選択する。

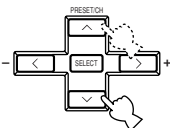
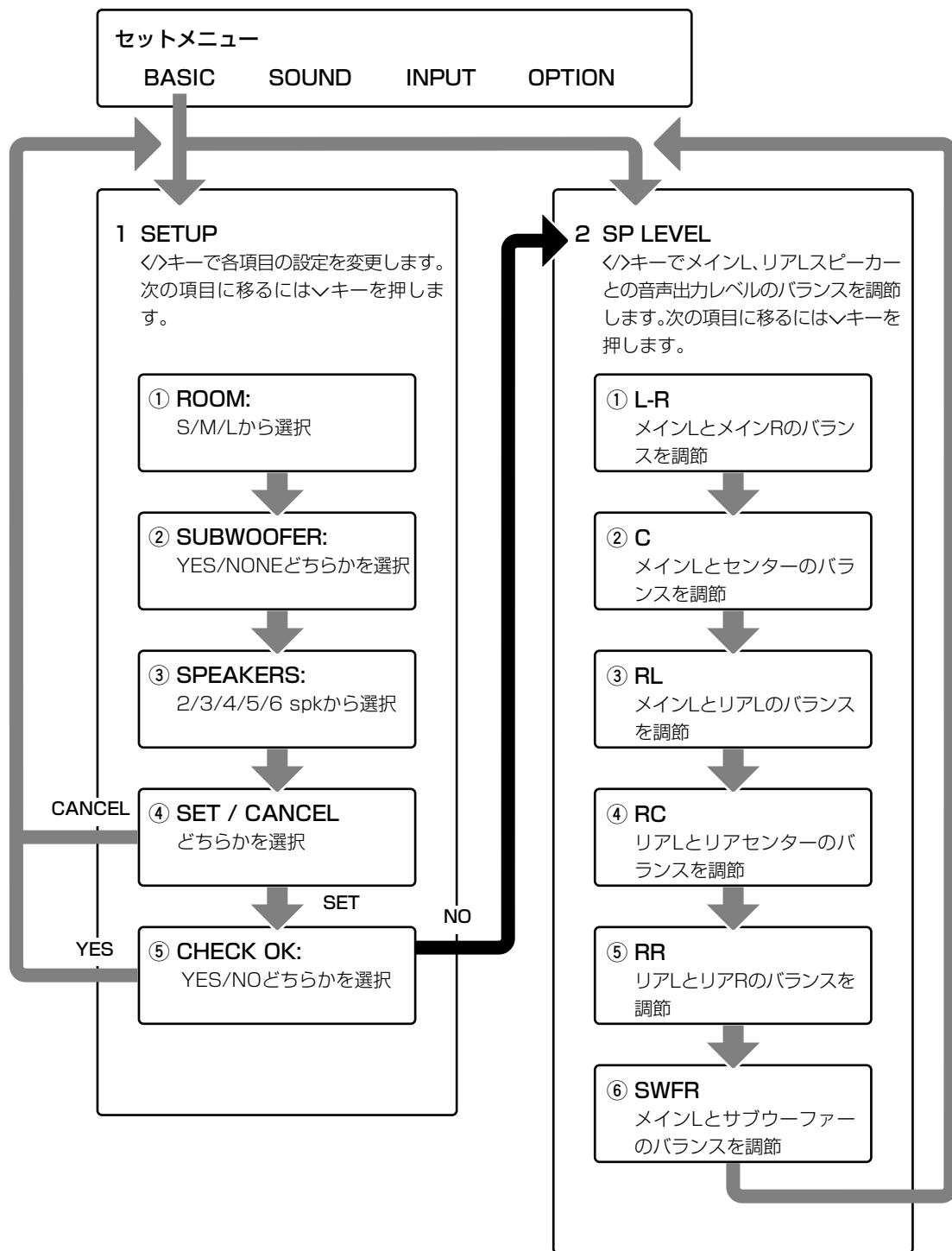
2 SET MENUキーを押す。
ディスプレイに「ＢＡＳＩＣ ＭＥＮＵ」と表示されます。
「BASIC MENU」以外が表示されている場合は、「ＢＡＳＩＣ ＭＥＮＵ」と表示されるまで∧キーを押します。

3 ＜/＞キーを押す。
BASICメニューの設定モードに入ります。

4 ∧/∨キーを押して、設定したい項目を選ぶ。

設定項目は以下の2つです。
SETUP
使用するスピーカーや、お部屋のサイズにあわせて、アンプの出力設定を変更します。
「スピーカーシステムにあわせて出力設定する（SETUP）」（29ページ）を参照してください。
SP LEVEL
接続したスピーカーからの音声出力レベルを調節します。
「スピーカーの音声出力レベルを調節する（ＳＰ LEVEL）」（29ページ）を参照してください。

5 ＜/＞キーを押す。
選んだ項目の設定モードに入ります。

6 ＜/＞キーを押して、設定を変更する。

7 セットメニューを終了するときは、メニュー表示が消えるまで、∧/∨キーを繰り返し押す。

操作の流れ

- 「1 SETUP」④でSETを選択した場合は、「2 SP LEVEL」で各スピーカーの音声出力レベルを調節しなおしてください。
- BASIC以外のセットメニュー項目については、53〜61ページを参照してください。

スピーカーシステムにあわせて出力設定する(SETUP)

お部屋のサイズや、使用するスピーカーにあわせて、アンプの出力設定をします。∧/∨キーを押して、設定する項目(①〜⑤)を選び、</>キーを押して各項目の設定を変更します。

① 部屋の大きさを選ぶ(ROOM)

選択項目: S、M、L
初期設定: M

本機を使用する部屋にあわせて、大きさを選びます。大きさの目安はSが3.6m×2.8m(6畳)、Mが4.8m×4m(12畳)、Lが6.3m×5m(18畳)です。

② サブウーファーの有無を選ぶ(SUBWOOFER)

選択項目: YES、NONE
初期設定: YES

サブウーファーを使用するときはYESを、使用しないときはNONEを選びます。

③ スピーカーの本数を選ぶ(SPEAKERS)

選択項目: 2、3、4、5、6 (spk)
初期設定: 6spk

使用するスピーカーの本数を選びます。下記の表を参考に、適切な本数を選択してください。

選択項目	入力信号インジケーターの表示	使用するスピーカー
2spk	L R	メインL/メインR
3spk	L C R	メインL/センター/メインR
4spk	L R RL RR	メインL/メインR/リアL/リアR
5spk	L C R RL RR	メインL/センター/メインR/リアL/リアR
6spk	L C R RL RC RR	メインL/センター/メインR/リアL/リアセンター/リアR

ご注意

スピーカーの本数は、サブウーファーを除く合計使用本数を選んでください。

④ 設定する/キャンセルする (SETまたはCANCEL)

上記①〜③で選んだ内容で設定するか、キャンセルするかを選びます。
SETを選ぶと、①〜③で選んだ内容で設定します。表示が「CHECK: TestTone」に変わり、テストトーンが出力されます。
CANCELを選ぶと、①〜③で選んだ内容をキャンセルし、SETUPメニューを終了します。

⑤ 各スピーカーからの音量を確認する(CHECK)

④でSETを選ぶと、表示が「CHECK: TestTone」に変わり、テストトーンが出力されます。テストトーンの出力が始まると、表示が「CHECK OK: YES」に変わります。各スピーカーから同じ音量でテストトーンが聞こえる場合はYESを、音量の調節が必要な場合はNOを選びます。
YESを選ぶと、SETUPメニューを終了します。
NOを選ぶと、自動的に「2 SP LEVEL」に入ります。

ヒント
- テストトーンは2回巡回します。
- テストトーンの巡回中は、本体ディスプレイの入力信号インジケーターは、テストトーンを出力しているスピーカーを点滅表示します。

スピーカーの音声出力レベルを調節する(SP LEVEL)

メインL、リアLスピーカーと各スピーカーから出力されるテストトーンの音量を比較して、同じ音量になるようにバランスを調節します。∧/∨キーを押して、比較するスピーカー(①〜⑥)を選び、</>キーを押してバランスを調節します。

ヒント

テストトーンは選んだスピーカーから交互に出力されます。本体ディスプレイの入力信号インジケーターで、テストトーンを出力しているスピーカーを点滅表示します。

① L-R

メインLスピーカーとメインRスピーカーのバランスを調節します。

② C

メインLスピーカーとセンタースピーカーのバランスを調節します。

③ RL

メインLスピーカーとリアLスピーカーのバランスを調節します。

④ RC

リアLスピーカーとリアセンタースピーカーのバランスを調節します。

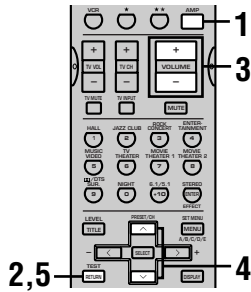
⑤ RR

リアLスピーカーとリアRスピーカーのバランスを調節します。

⑥ SWFR

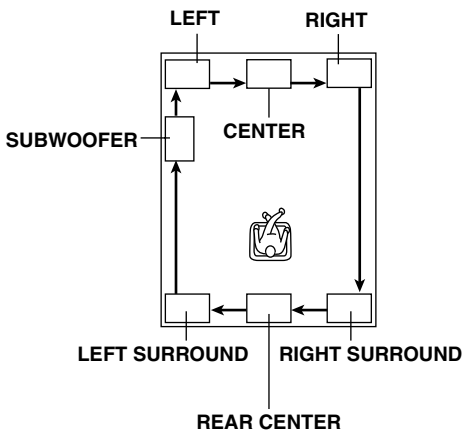
メインLスピーカーとサブウーファーのバランスを調節します。

スピーカーから音が出ているか確認する

テストトーンを使用して、接続したスピーカーから音が出るか確認できます。

1 **AMPキーを押してAMPを選択する。**

2 **TESTキーを押す。**
テストトーンが出力されます。

3 **テストトーンが聞こえるように、VOLUME ＋/－キーを押して本機の音量を調節する。**

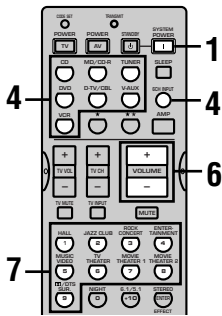
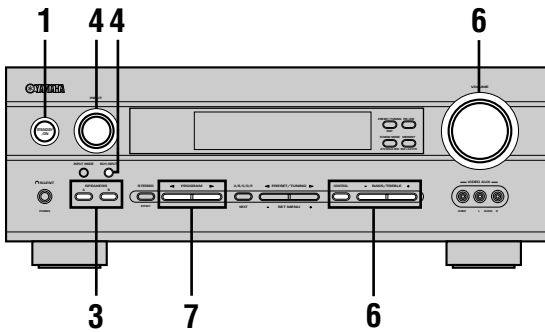
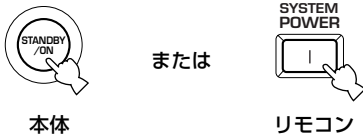
4 **︿/﹀キーを繰り返し押して、調節したいスピーカーを選ぶ。**
﹀キーを押すごとに、下記の順に調節するスピーカーが切り替わります。
TEST LEFT(メインL)→TEST CENTER(センター)→TEST RIGHT(メインR)→TEST R SUR.(リアR)→TEST REAR CNTR(リアセンター)→TEST L SUR.(リアL)→TEST SUBWOOFER(サブウーファー)→…
（︿キーを押すと、上記とは逆の順に切り替わります。）

ヒント
テストトーンを使用して、各スピーカーの音声出力レベルを調節することもできます(62ページ)。
音量を上げてもテストトーンが聴こえないときは、スピーカーの接続が不完全である可能性があります。STANDBY/ONボタンを押して本機をスタンバイ状態にしてから、電源コードをACコンセントから抜き、スピーカーの接続を確認してください。

5 **確認が終わったら、TESTキーを押す。**
テストトーンが止まります。

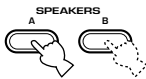
ご注意

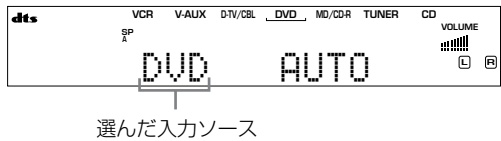
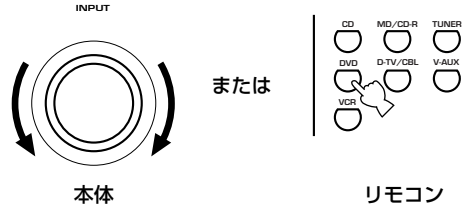
- セットメニュー「SOUND-1 SPEAKER SET」でNONに設定されているスピーカーからはテストトーンは出力されません。
- セットメニュー「SOUND-1 SPEAKER SET」の「1E BASS」がMAINに設定されている場合、サブウーファーからはテストトーンは出力されません。

音声/映像を再生する

本機に接続したオーディオ機器やビデオ機器のソフトを再生します。

1 **本体のSTANDBY/ONスイッチ(またはリモコンのSYSTEM POWERキー)を押して、本機の電源を入れる。**

2 **DVDなどの映像ソースを再生する場合は、本機と接続したテレビ(モニター)の電源を入れる。**

3 **本体のSPEAKERS AまたはBスイッチを押して、音を出すメインスピーカーを選ぶ。**

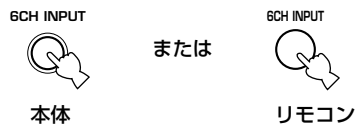
2組のメインスピーカーを使用する時はAとBの両方を押します。

4 **本体のINPUTセレクターを回すか、リモコンの入力選択キーを押して、再生したい音声/映像を選ぶ。**

選んだ音声/映像(入力ソース)の種類が、ディスプレイに数秒間表示されます。

ご注意

入力ソースは、本機に接続している機器名ではなく、その機器をつないでいる本機の端子名に対応しています。

例:LDプレーヤーをD-TV/CBL端子に接続した場合、LDプレーヤーの音声/映像を楽しむためには、入力ソースを「D-TV/CBL」に切り替えます。

6CH INPUT端子に接続したオーディオソースを選択する

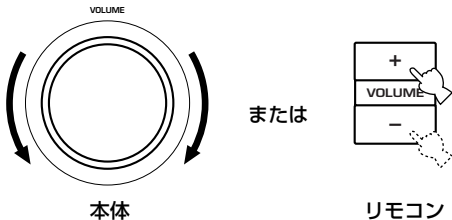
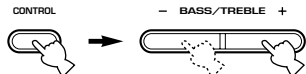
6CH INPUTキーを押します。ディスプレイに「6CH INPUT」と表示されます。

ご注意

- 映像と共に6CH INPUT端子に接続された音声を楽しみたい場合には、最初にビデオソースを選択して、次に6CH INPUTキーを押してください。
- 「6CH INPUT」がディスプレイに表示されている場合は、ほかのソースを再生することはできません。別の入力ソースを選択するには、6CH INPUTキーを押してディスプレイから「6CH INPUT」の表示を消してください。

5 **機器の再生(または放送の受信)を始める。**
再生する機器の取扱説明書をご覧ください。

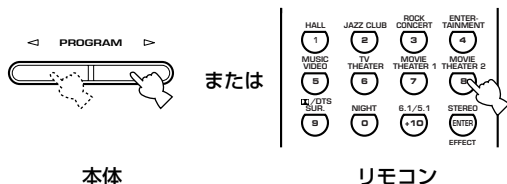
ご注意

コピーガード信号が入ったビデオソースを再生すると画像がブレることがあります。

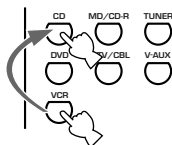
6 **音量を調節する。**

必要に応じて本体のCONTROLおよびBASS/TREBLE +/−キーを使って高音域と低音域も調節してください。これらの調節はメインスピーカーから出力される音のみに有効です。

ご注意

- 高･低音域の音声を最大もしくは最小限まで増減すると、センター、リアL/R、リアセンタースピーカーから出力する音質はメインL/Rスピーカーからの音質と調和がとれなくなることがあります。
- OUT(REC)端子と接続している機器の電源が切れている場合には、再生音が歪んだり、音量が下がったりすることがあります。このような場合は、接続している機器の電源を入れてください。

7 **本体のPROGRAM ◁/▷ キー(またはリモコンの音場プログラムキー)で音場プログラムを選ぶ。**
リモコンで操作するには、音場プログラムを選ぶ前にAMPキーを押してください。

本体　　　リモコン

■ 音楽と映像を異なるソースで楽しむ(バックグラウンドビデオ機能)

バックグラウンドビデオ機能とは、ビデオ系ソースの映像と、オーディオ系ソースの音声を組み合わせて楽しむ機能です(例えばビデオを観ながらクラシック音楽を楽しむことができます)。

ビデオ系ソースを選択した後、リモコンの入力選択キーで、オーディオ系ソースを選択します。

■ 一時的に音量を下げる

リモコンのMUTEキーを押す。
前の音量に戻すには、もう1度MUTEキーを押します。

ヒント

- セットメニュー「OPTION-3 AUDIO MUTE」で下げる音量(MUTE、−50dB、−20dB)を選択することができます(60ページ)。
- 本機をスタンバイ状態にすると、消音が解除されます。
- VOLUME +/−キーや音場プログラムキーなどを押しても消音は解除できます。
- 音量を下げている間は、本体ディスプレイのMUTEインジケーターが点滅します。

■ 夜間に小音量で音声を楽しむ(ナイトリスニングモード)

夜間に小音量で再生する場合でも、セリフなどは明瞭に再生し、大きな効果音は抑えるモードです。

リモコンのNIGHTキーを押す。
通常の再生に戻るには、もう1度NIGHTキーを押します。

ヒント

- すべての音場プログラムに対して、ナイトリスニングモードで再生することができます。
- 本機をスタンバイ状態にすると、ナイトリスニングモードは解除されます。
- 入力ソースにより、効果に違いが生じる場合があります。
- ナイトリスニングモードで再生中は、本体ディスプレイのNIGHTインジケーターが点灯します。

■ 本機の使用を終了する

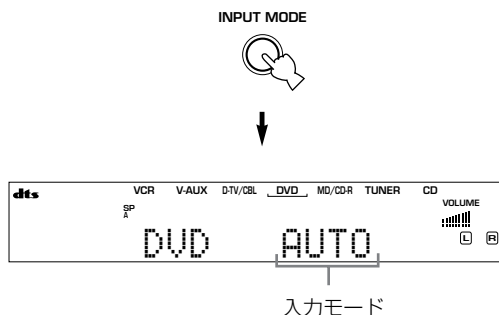
本体のSTANDBY/ONスイッチ(またはリモコンのSTANDBYキー)を押して、本機をスタンバイ状態にする。

または

本体　　　リモコン

デジタル信号/アナログ信号を切り替える(入力モード切り替え)

入力信号のアナログ/デジタルの優先順位を選んだり、DTSなどの特定の信号に固定したりすることができます。

希望する入力モードが本体ディスプレイに表示されるまで、本体のINPUT MODEキーを繰り返し押す。

入力モード

AUTO:　次の順序で入力信号が選ばれます。
1) デジタル信号
2) アナログ信号

DTS:　DTS信号以外は再生されません。

AAC:　AAC信号以外は再生されません。

ANALOG:アナログ入力に固定されます。デジタル信号が同時に入力されても再生されません。

ヒント

- 入力モードがAUTOに設定されているときに、ドルビーデジタルまたはDTS、AAC信号が入力されると、自動的に最適なデコーダーが選択されます。
- セットメニューの「INPUT-2 INPUT MODE」で、本機の電源を入れたときに、前回指定した入力モードをそのまま使うか、AUTOに戻すかを指定することもできます。

ご注意

- COAXIAL INPUT端子とOPTICAL INPUT端子へ同時にデジタル信号が入力されると、COAXIAL INPUT端子への入力信号が優先されます。
- 入力モードがAUTOに設定されているときに、次のような症状が起こることがありますが、故障ではありません。
  - ドルビーデジタルまたはDTSディスクを再生中にサーチ(検索)してから再生をはじめると、一部のLDおよびDVDプレーヤーで、再生音が少し遅れて再生される。
  - デジタル録音されていないLDを再生する場合に、一部のLDプレーヤーで音声が正常に再生できない。この場合は入力モードをANALOGに設定して、お使いください。

■ デジタル信号に関するご注意

本機のデジタル入力端子(OPTICAL、COAXIAL)は、サンプリング周波数96kHzまでのデジタル信号に対応しています。デジタル信号の入力にはOPTICAL/COAXIAL両方の入力端子が使用できますが、48kHzを超えるデジタル信号を入力する場合は、以下の点にご注意ください。

- 音場プログラムが選択できなくなります。音声はメインスピーカーからのみ、通常の2チャンネルステレオ音声として出力されます。サブウーファーを除く、エフェクトスピーカーの音量は調節できません。

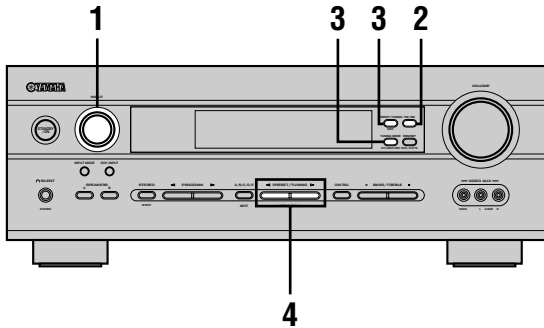
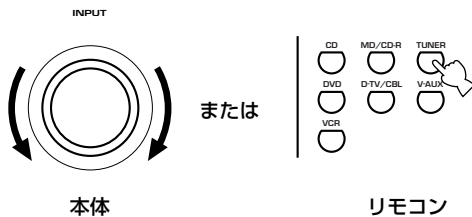
■ DTS-CD/LDのDTS音声の再生に関するご注意

- プレーヤーから出力されるデジタル信号に音量レベル可変処理などの処理がされている場合は、本機とプレーヤーをデジタル接続しても、DTS音声は再生できません。
- DTS音声を再生するには、音声を再生する機器をデジタル入力端子に接続して、入力モードをAUTOまたはDTSに設定してください。入力モードをANALOGに設定して再生した場合、雑音が発生することがあります。
- DTS音声を再生中に入力モードをANALOGに切り替えると、音声は出力されません。
- 入力モードをAUTOに設定してDTS音声を再生する場合は:
  - 本機はDTS信号を検知すると、自動的にDTSモード(dts表示が点灯)に切り替わります。DTS音声の再生が終了したときに、dts表示が点滅することがありますが、点滅中はDTS音声しか再生できません。DTS音声の再生が終了後すぐに、通常のPCM音声を再生したいときは、入力モードをAUTOに設定しなおしてください。
  - プレーヤー側でサーチまたはスキップ操作をしてDTS信号がとぎれると、dts表示が点滅することがあります。この状態が30秒以上続くと、自動的にDTSモードから通常のデジタル(PCM)入力に切り替わり、dts表示は消灯します。

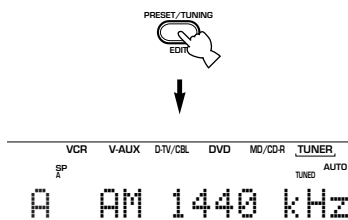
FM/AM放送を聴く

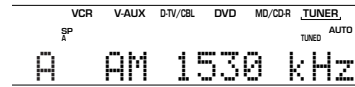
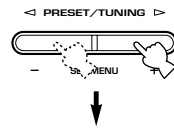
選局する

選局のしかたには、自動的に選局するオート選局と、手動で選局するマニュアル選局の2種類があります。電波の強い放送局を受信するときは、オート選局が速くて便利です。

■ 自動的に選局する（オート選局）

1 INPUTセレクターを回して（またはリモコンのTUNERキーを押して）、「TUNER」を選ぶ。

2 FM/AMキーを押して、FMまたはAMを選ぶ。

3 TUNING MODE(AUTO/MAN' L MONO)キーを押して、ディスプレイにAUTOインジケーターを点灯させる。

ディスプレイの放送バンド表示（「FM」または「AM」）の隣にコロン（:）が点灯している時は、PRESET/TUNING(EDIT)キーを押してコロンを消します。

4 PRESET/TUNING ◁/▷ キーを押して、受信したい放送局を選ぶ。

高い周波数の放送局を探すときは ▷ キー、低い周波数の放送局を探すときは ◁ キーを押します。

放送局を受信すると、ディスプレイにTUNEDインジケーターが点灯し、周波数が表示されます。

ヒント

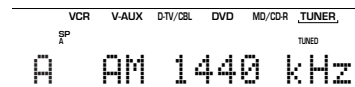
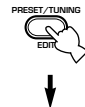
電波が弱くてお聴きになりたい放送局が選局できない時は、手動で選局してください（マニュアル選局）。

■ 手動でお好みの放送局を選ぶ（マニュアル選局）

電波の弱い放送局は、手動で選ぶ必要があります。

1 左に記載の「自動的に選局する（オート選局）」の手順2までの操作をおこなう。

2 TUNING MODE(AUTO/MAN' L MONO)キーを押して、ディスプレイのAUTOインジケーターを消す。

ディスプレイの放送バンド表示の隣にコロン（:）が点灯している時は、PRESET/TUNING（EDIT）キーを押してコロンを消します。

3 PRESET/TUNING ◁/▷ キーを押す。

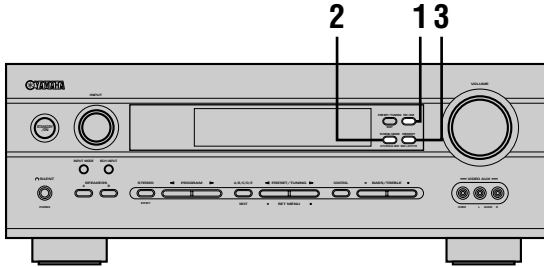
押し続けると、連続して周波数が変わります。

ヒント

マニュアル選局でFMステレオ放送を受信するとモノラル受信になりますが、雑音を軽減できます。

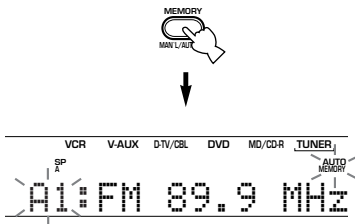
放送局を登録する(プリセット)

■ FM放送局を自動登録する (オートプリセット)

FM放送局を自動的に40局(8局×5グループ)まで登録(プリセット)できます。放送局を登録しておくと、あとは簡単なキー操作で選局することができ、便利です。

1 FM/AMキーを押して、FMを選ぶ。

2 TUNING MODE(AUTO/MAN' L MONO)キーを押して、ディスプレイにAUTOインジケーターを点灯させる。

3 MEMORY(MAN' L/AUTO FM)キーを約3秒押し続ける。

プリセット番号とMEMORYインジケーター、AUTOインジケーターが点滅します。数秒後に、周波数表示が高くなり始めます。(オートプリセット開始。)

オートプリセットが終了すると、最後に登録された放送局の周波数が表示されます。

ヒント

- 放送局が登録されると、放送局の周波数と受信モードも同時に登録されます。
- 登録されたFM放送局の順序を、あとから手動で入れ替えることもできます(37ページ)。
- オートプリセットでは、プリセットする放送局の数が「E8」に満たない場合には全周波数帯域を一巡して停止します。

ご注意

- 新しい放送局を登録すると、前に登録されていた放送局は消え、新しい放送局に入れ替わります。
- オートプリセットでは、電波の強いFM放送局だけが登録されます。電波の弱いFM放送局を登録したいときは、受信モードをモノラルにして、手動で登録してください(次ページ)。

■ 登録を始めるプリセット番号を指定する(オートプリセットオプション)

FM局の登録を始めるプリセット番号を指定したり、周波数の低い方へ向けてオートプリセットを始めることもできます。

1 左に記載の「FM放送局を自動登録する(オートプリセット)」の手順2までの操作をおこなう。

2 MEMORY(MAN' L/AUTO FM)キーを約3秒押し続けたあと、A/B/C/D/EキーとPRESET/TUNING ⊲/⊳ キーを押して、最初に登録させたいプリセット番号を選ぶ。

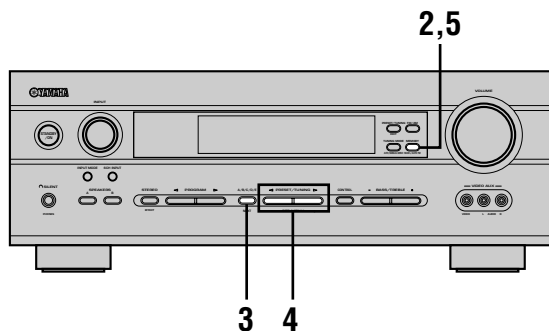
放送局が「E8」まですべて登録されると、オートプリセットが停止します。

3 PRESET/TUNING(EDIT)キーを押してコロン(:)を消してから、PRESET/TUNING ⊲ キーを押す。

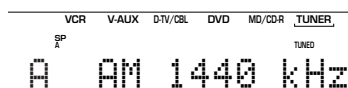
周波数表示が低くなり始めます。(オートプリセット開始。)

音声や映像を楽しむ

■ 手動で登録する（マニュアルプリセット）

放送局40局までを手動で登録することもできます。

ヒント
AM放送局はマニュアルで登録してください。

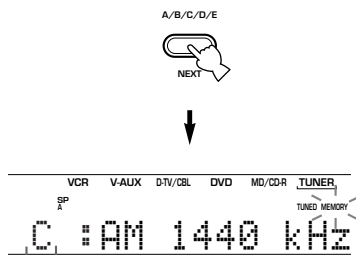
1 プリセットしたい放送局を選局する。

詳しくは「選局する」(34ページ)をご覧ください。

選局時には、ディスプレイに受信している局の周波数と放送バンド(「FM」または「AM」)が表示されます。

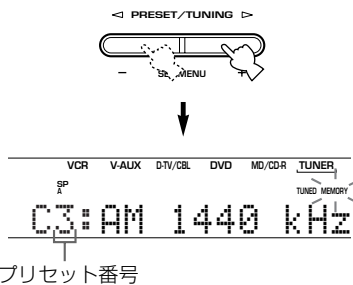
2 MEMORY(MAN' L/AUTO FM)キーを押す。

放送局が登録できる状態になります。ディスプレイのMEMORYインジケーターが約5秒間点滅します。

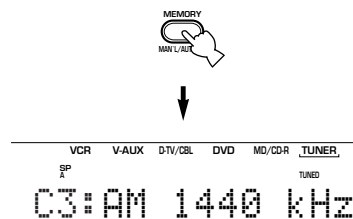
3 MEMORYインジケーターの点滅中にA/B/C/D/Eキーを押して、プリセットグループ(A～E)を選ぶ。

グループが表示されます。放送バンド表示の隣にコロン(:)が点灯していることを確認してください。

プリセットグループ

4 MEMORYインジケーターの点滅中にPRESET/TUNING ◁/▷ キーを押して、プリセット番号(1～8)を選ぶ。

▷ キーを押すと数が増え、◁ キーを押すと減ります。

プリセット番号

5 MEMORYインジケーターの点滅中に、MEMORY (MAN' L/AUTO FM)キーを押す。

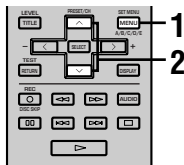
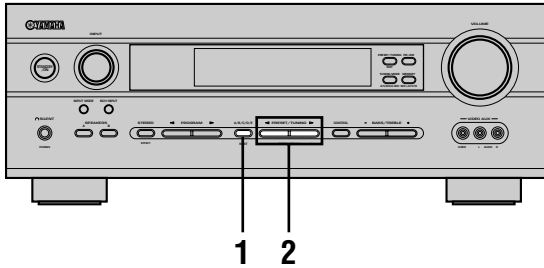
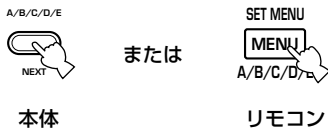
選択したプリセットグループ、プリセット番号と放送バンド(「FM」または「AM」)、周波数がディスプレイに表示されます。

C3に登録された局を示しています。

6 他の放送局を続けて登録するときは、手順1～5を繰り返す。

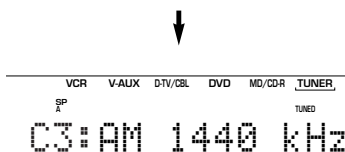
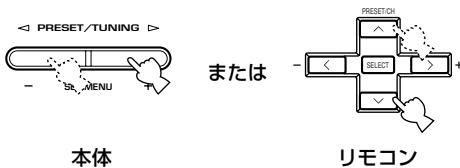
ご注意

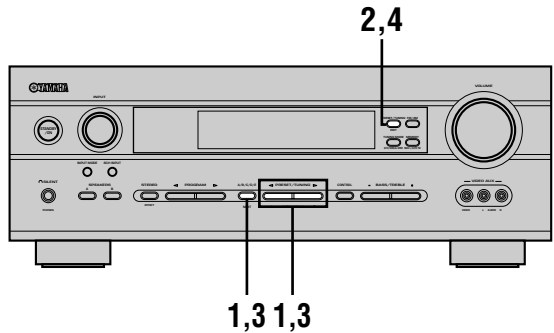
- 新しい放送局を登録すると、前に登録されていた放送局は消え、新しい放送局に入れ替わります。
- 新しい放送局を登録すると、放送局の周波数と受信モード(ステレオ/モノラル)も同時に登録されます。

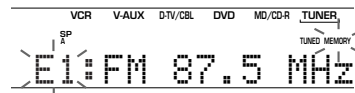
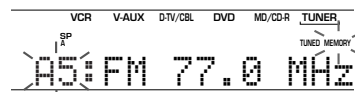
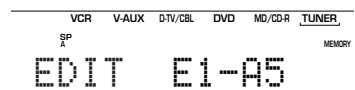
登録した放送局を選んで聴く（プリセット選局）

プリセット番号を選ぶだけで、登録した放送局を選局できます。

1 **A/B/C/D/Eキーを何回か押して、放送局をプリセットしたグループを選ぶ。**
ディスプレイに表示されるプリセットグループはA/B/C/D/Eキーを押すたびに切り替わります。

ご注意

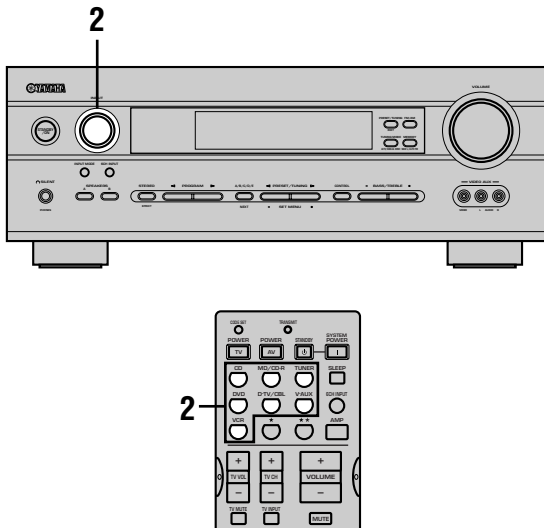
リモコンで操作する場合は、操作面がTUNERになっていることを確認してから操作してください。

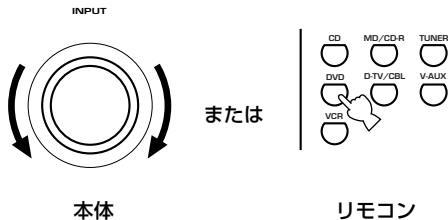
2 **本体のPRESET/TUNING ◁/▷ キー（またはリモコンのPRESET ∧/∨ キー）を押して、プリセット番号を選ぶ。**
プリセットグループとプリセット番号が、放送バンド（「FM」または「AM」）と周波数とともにディスプレイに表示され、TUNEDインジケーターが点灯します。

登録した放送局を入れ替える

登録した放送局を入れ替えることもできます。
ここでは「E1」に登録した放送局を「A5」に、「A5」の放送局を「E1」に変更する場合の手順を説明します。

1 **「E1」に登録した放送局を選局する。**
詳しくは、左に記載の「登録した局を選んで聴く（プリセット選局）」をご覧ください。

2 **PRESET/TUNING（EDIT）キーを約3秒間押す。**
「E1」とMEMORYインジケーターがディスプレイに点滅します。

3 **「A5」に登録した放送局を、A/B/C/D/EキーとPRESET/TUNING ◁/▷ キーを使って選局する。**
「A5」とMEMORYインジケーターがディスプレイに点滅します。

4 **PRESET/TUNING（EDIT）キーを押す。**
プリセット局が入れ替わります。

プリセットした局の入れ替えが完了したことを示しています。

外部機器で録音/録画する

録音レベルの調節や操作は、それぞれの録音機器で行います。お使いの機器の取扱説明書をご覧ください。

1 **本機に接続しているすべての機器の電源を入れる。**

2 **録音/録画したい入力ソースを選ぶ。**

3 **ソースを再生する。**

AM/FM放送の番組を録音したいときは、放送局を選局します。

4 **録音/録画を開始する。**

ご注意

- 録音/録画する前に、あらかじめ「試し録音」「試し録画」を行ってください。
- 本機をスタンバイ状態にすると、接続した機器間で録音/録画することはできません。
- 録音中に音量や音質を調整したり、音場プログラムを変更したりしても、録音される音声には影響しません。
- DSP-AX540 AUDIO OUT(REC)端子からアナログで録音する場合は、録音したい入力ソースをアナログで接続します。また、DIGITAL OUTPUT OPTICAL端子からデジタルで録音する場合は、録音したい入力ソースをデジタルで接続します。
- 6CH INPUT端子から入力された信号は録音できません。
- 入力ソースのOUT(REC)端子からは、信号は出力されません。（例：VCR INの信号はVCR OUT端子から出力されません。）
- DSP-AX540 S VIDEO IN端子に入力されたSビデオ信号はS VIDEO OUT端子からのみ録画できます。同様に、VIDEO IN端子に入力されたビデオ信号はVIDEO OUT端子からのみ録画できます。
- あなたが録音したものは個人で楽しむ場合以外は、著作権者に無断で使用することはできません。

■ DTSソフトの録音についてのご注意

DTS信号はデジタルビットストリームで伝送されるため、DTS信号をデジタル録音しても、ノイズだけが録音されます。DTS対応のDVD、LD、CDから録音する場合は、お使いのプレーヤー側で、アナログ信号で出力するように設定し、2チャンネルのアナログ信号で録音してください。詳しくは、お使いのプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

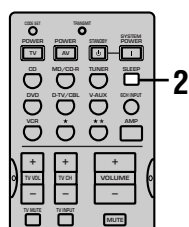
一定時間後に自動的に電源を切る(スリープタイマー)

設定した時間が経過すると、本機が自動的にスタンバイ状態になるように設定できます(スリープタイマー)。聴きながら、もしくは録音しながらおやすみになりたいときに便利です。スリープタイマーが作動すると、本機背面のACアウトレットに接続した機器(ソース)の電源も「切」になります。

スリープタイマーの設定はリモコンで行います。

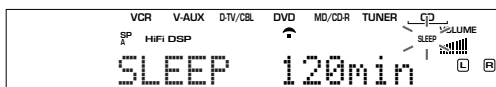
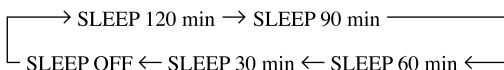
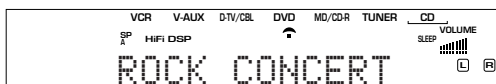
ヒント

タイマー再生したいときは、市販のタイマーを使用します。本機では再生したい入力ソースを選択し、音量を調節しておきます。再生機器やタイマーの取扱説明書もあわせて参照してください。

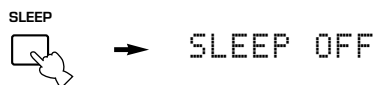
スリープタイマーを設定する

1 **ソースを選んで、再生する。**

2 **SLEEPキーを繰り返し押して、スタンバイ状態になるまでの時間を選ぶ。**

SLEEPキーを押すごとに、ディスプレイ表示が下記のように切り替わります。その間SLEEPインジケーターが点滅しています。(min=分)

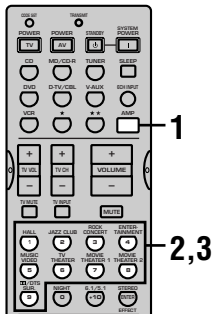
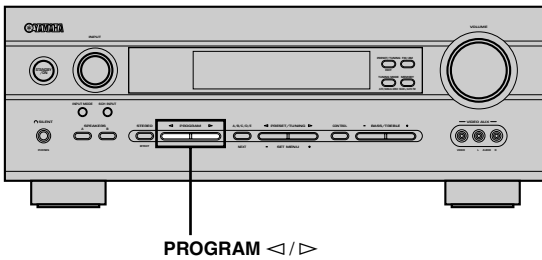
→ SLEEP 120 min → SLEEP 90 min → SLEEP 60 min → SLEEP 30 min → SLEEP OFF →

お好みの時間が表示されたら押すのをやめます。SLEEPインジケーターが点灯に変わり音場プログラム表示に切り替わるとスリープタイマーの時間設定が完了します。

スリープタイマーを解除する

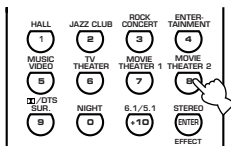
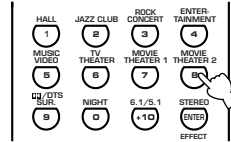
「SLEEP OFF」の表示が出るまで、SLEEPキーを何回か押す。

しばらくすると「SLEEP OFF」は消え、SLEEPインジケーターも消えます。ディスプレイは音場プログラム表示に戻ります。

ヒント

リモコンのSTANDBYキー、または本体のSTANDBY/ONスイッチを押すか、電源コードを抜いてもスリープタイマーは解除されます。

音場プログラムを選ぶ

本機は、世界各地の著名な演奏会場での実測データを元に作成されたHi-Fi DSP音場プログラムに加え、より幅広い表現力を持つCINEMA DSP音場プログラムを内蔵しています。
再生するときにお好みの音場プログラムを呼び出して、その臨場感と効果をお楽しみください。各音場プログラムについて詳しくは、45〜50ページをご覧ください。

1 **リモコンのAMPキーを押してAMPを選択する。**

2 **リモコンの音場プログラムキーを押してお好みの音場プログラム選ぶ。**
プログラム名は､ディスプレイに表示されます。

3 **音場プログラムキーを繰り返し押して､お好みの音場サブプログラムを選ぶ。**
例:｢MOVIE THEATER 2｣を繰り返し押すと､音場サブプログラム｢Adventure｣と｢General｣が交互に表示されます。

ご注意

- 本機では、お好みにより、全部で26の音場プログラムを選択できます。ただし、一部の音場プログラムでは入力信号の種類に適したデコーダーと音場サブプログラムが自動的に選択されます。
- 入力ソースを切り替えると、そのソースに対して設定された音場プログラムを自動的に選択します。
- 6CH INPUT端子に接続しているソースを再生しているときと、サンプリング周波数が48kHzを超えるデジタル信号が本機に入力されているときは、音場プログラムは使用できません。
- リスニングルームの音響効果は、音場プログラムに影響を与えます。プログラムによって作り出される効果を最大限に引き出すために、リスニングルーム内に反響しやすい物体をできるだけ置かないようにしてください。
- 入力モードがAUTOに設定されている場合にはドルビーデジタル、DTSまたはAAC信号が入力されると、選択している音場プログラムによっては、入力ソースに対応した音場サブプログラムに自動的に切り替わる場合があります。
- 本機をスタンバイ状態にしたときの入力ソースと音場プログラムは記憶されています。電源を入れると、自動的に前回の状態に戻ります。
- モノラルソースをPRO LOGIC、PRO LOGIC Enhanced、PRO LOGIC II MovieやNeo:6 Cinema音場で再生中は、センタースピーカーからのみ音が出ます。メインスピーカーやリアスピーカーからは音は出ません。ただし、セットメニュー｢SOUND-1 SPEAKER SET｣の｢1A CENTER｣がNONに設定されているときは、センターチャンネルの音声はメインスピーカーから出力されます。

ヒント

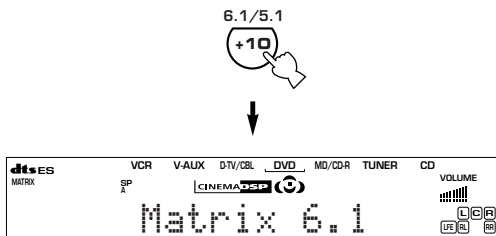
- 音場プログラムはプログラム名ではなく、ご使用になるリスニングルームの状況やお好みに合わせてお選びください。
- 本体のPROGRAM ◁/▷ キーで音場プログラムを選ぶこともできます。

ドルビーデジタル/DTSソフトを再生する

■ 5.1チャンネルで再生する

ドルビーデジタル、DTS信号が入力されると、本機は自動的にそれらの信号フォーマットに適したデコーダーおよび音場プログラムを選択します。

■ 6.1チャンネルで再生する

ドルビーデジタルEXやDTS-ESなど、リアL/R成分があるソースは、リアセンタースピーカーの音声を加えて、6.1チャンネルで再生することができます。6.1チャンネルで再生することで、よりダイナミックでリアルな音声を楽しむことができます。

（表示例）

6.1/5.1キーを押して、5.1チャンネル再生モード/6.1チャンネル再生モードを切り替えます(再生するソフトの方式により、一部選択できないモードがあります)。

AUTO： 本機が認識できる信号(フラグ)が記録されたソース入力時には、自動的にディスクリート6.1方式またはマトリクス6.1方式で再生します。本機がフラグを認識できない、またはフラグが記録されていないソースが入力されているとき(「AUTO:- - -」と表示されているとき)は、6.1チャンネル再生されません。このようなソースを6.1チャンネルで再生したいときは、6.1/5.1キーを押して、「Matrix 6.1」を選択します。

Discrete 6.1： DTS-ESディスクリート音声入力時のみ選択できます。DTS-ESディスクリート方式のソフトをディスクリート6.1方式で再生します。再生中は本体ディスプレイのES DISCRETEインジケーターが点灯します。再生の途中で入力ソースがDTS-ESディスクリート方式以外のものに切り替わった場合は、その方式のソフトをマトリクス6.1方式再生します。

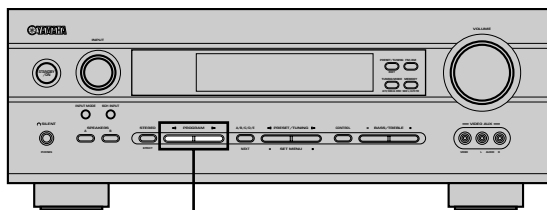
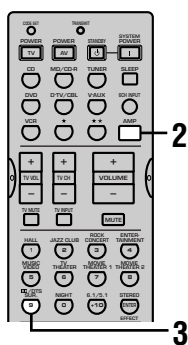
Matrix 6.1： リアL/R成分のある音声入力時であれば選択できます。ドルビーデジタルやDTS、AAC5.1チャンネル信号などのソフトをマトリクス6.1方式で再生します。再生中は本体ディスプレイのES MATRIXインジケーター(入力ソースがDTSのとき)または DD EX (入力ソースがドルビーデジタルまたはAACのとき)が点灯します。

OFF： ディスクリート6.1方式またはマトリクス6.1方式での再生をオフにします。音声は5.1チャンネルで再生されます。

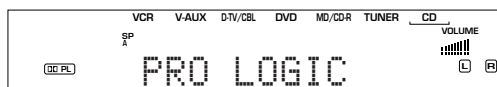
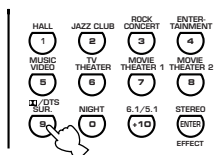
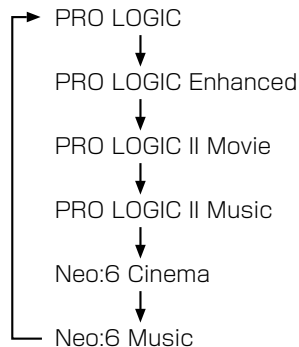
ご注意

- 以下の場合は、5.1/6.1キーを押しても、6.1チャンネルで再生されません。
  - セットメニュー「SOUND-1 SPEAKER SET」の「1C REAR LR」がNONに設定されている。
  - ステレオ音声(「STEREO」)で再生している。
  - 音場プログラム「6ch Stereo」を選択している。
  - リアL/R成分がないソース(2チャンネルのPCM、アナログ信号など)を再生している。
  - 6CH INPUT端子に接続したソースを再生している。
  - ヘッドホンを接続している。
- 本機をスタンバイ状態にすると、モードは「AUTO」にリセットされます。

PRO LOGIC/PRO LOGIC II/ DTS Neo:6を選ぶ

音場プログラムNo.9でPRO LOGIC、PRO LOGIC IIまたはNeo:6を選択すると、2チャンネルソースを多チャンネル化してお楽しみいただけます。

1 2チャンネルソースを再生する。

2 リモコンのAMPキーを押してAMPを選択する。

3 リモコンのDD/DTS SUR.キーを繰り返し押して、デコーダーおよびサブプログラムを選択する。

リモコンの DD/DTS SUR.キーを押すたびに、以下のように切り替わります。

ご注意

- 2チャンネル音声以外の信号は、PRO LOGIC、PRO LOGIC IIとDTS Neo:6デコーダーでは再生できません。
- AACの2チャンネルステレオ信号はDTS Neo:6デコーダーでは再生できません。

ヒント

本体のPROGRAM ◁/▷ キーでデコーダーおよびサブプログラムを選ぶことができます。

リアスピーカーなしで音場プログラムを楽しむ（バーチャルシネマDSP）

セットメニュー「SOUND-1 SPEAKER SET」の「1C REAR LR」をNONに設定すると、バーチャルシネマDSP音場を楽しめます。
入力ソースの音声はバーチャルシネマDSPで音場処理され、選んだ音場プログラムでメインL/Rスピーカー、センタースピーカーおよびサブウーファーから音声が再生されます。

ご注意

- 以下の場合は、セットメニュー「SOUND-1 SPEAKER SET」の「1C REAR LR」がNONに設定されていても、バーチャルシネマDSPにはなりません。
  - 6ch StereoやPRO LOGIC、DOLBY DIGITAL、DTS、AAC、PRO LOGIC II、Neo:6音場プログラムを選んでいる。
  - ステレオ音声（「STEREO」）で再生している。
  - 6CH INPUT端子に接続したソースを再生している。
  - サンプリング周波数48kHzを超えるデジタル音声が入力されている。
  - ヘッドホンを接続している。

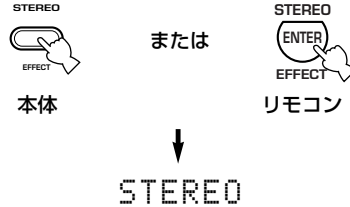
ヘッドホンで音場プログラムを楽しむ（サイレントシアター）

ステレオ音声再生状態でないときにヘッドホンを本体のPHONES端子に接続すると、ヘッドホンでマルチスピーカーによる音場プログラムを擬似的に再現できる、サイレントシアターで音声を楽しめます。本体ディスプレイのSILENTインジケーターが点灯します。(音場効果がオフの状態では通常のステレオ再生になります。)

ご注意

- 以下の場合は、ヘッドホンを接続しても、サイレントシアターははたらきません。
  - 6CH INPUT端子に接続したソースを再生している。
  - サンプリング周波数48kHzを超えるデジタル音声が入力されている。
- LFEチャンネル音声は他のチャンネルとミックスされて、ヘッドホンから出力されます。

ステレオ音声（2チャンネル）で再生する

STEREO/EFFECTキーを押して、「STEREO」を表示させる。
音場効果が「切（オフ）」になり、メインL/Rスピーカーのみを使って再生します。STEREO/EFFECTキーをもう1度押すと、音場効果が「入（オン）」になります。

ご注意

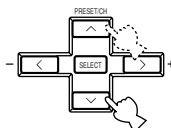
- 音場効果がオフの状態のときにドルビーデジタルやDTS、AAC音声を再生すると、LFEを除くすべてのチャンネルの音声がメインL/Rチャンネルにミックスされて出力されます。この場合、メインL/Rチャンネルの音量バランスが乱れることがあります。
- 音場効果をオフにすると、センター、リアL/R、リアセンタースピーカーから音は出ません。
- 音場効果をオフにしたり、セットメニュー「SOUND-4 D.RANGE」をMINに設定すると、音量が極端に下がることがあります。このような場合は音場効果をオンにしてください。
- セットメニュー「SOUND-1 SPEAKER SET」の「1B MAIN」をSMALLかつ「1E BASS」をSWFR、または「1E BASS」をBOTHに設定している場合は、サブウーファーから低音域が出力されます。

■ 入力信号情報を表示する

ステレオ再生中(音場効果オフ時)、入力信号のタイプ、フォーマットやサンプリング周波数などの情報をディスプレイに表示できます。

(ソース再生中)

1 リモコンのAMPキーを押してAMPを選択する。

2 ︿/﹀ キーを押す。
入力信号の情報が表示されます。

- (Format):入力信号の信号フォーマット。

入力信号	表示
アナログ音声	Analog
PCM音声	PCM
ドルビーデジタル音声	Dolby Digital
DTS音声	DTS
AAC音声	AAC
不明なデジタル信号	Unknwn Digital

- in:入力信号の音声チャンネル数(ドルビーデジタル/DTS/AAC入力時のみ)。
  例えば、「in:3/2/LFE」と表示された場合は、「フロント3チャンネル/リア2チャンネル/ LFE」を示しています。
  また、二カ国語放送などの主+副の2チャンネル音声は「1+1」、3音声以上の音声多重形式の音声は「MLT」と表示されます。
- fs:入力信号のサンプリング周波数(デジタル信号入力時のみ)。サンプリング周波数が不明の場合は、「unknown」と表示されます。
- rate:入力信号の1秒あたりのデータ量=ビットレート(ドルビーデジタル/DTSのみ)。ビットレートが不明の場合は、「unknown」と表示されます。
- flg:入力信号に含まれている、ある動作をさせるための識別信号=フラグ(ドルビーデジタル/DTSのみ)。フラグが認識できなかった場合は、「None」と表示されます。

音場プログラム一覧

音場とは･･･

「その空間が持つ特有の音の響き」を音場と呼んでいます。
コンサートホールなどで、私達は、楽器の音や歌手の声が直接聴こえてくる「直接音」の他に、床や壁･天井などに一回反射してから聴こえてくる「初期反射音」、さらに何回も反射を繰り返しながら次第に減衰してゆく「後部残響音」を聴くことになります。
建物内部の形状や広さ、それに内装材料の種類等によって、初期反射音や残響音の構成が異なり、そのホール特有の響きが生まれます。それが「音場」です。

ヤマハでは、世界の著名なコンサートホールやオペラハウスなどで、反射音の方向･強さ･帯域特性･遅延時間等の音場情報を実際に測定し、その膨大なデータを本機に搭載したROM(専用メモリー)に蓄積しています。
本機では、この音場測定の実測データを基に作成された、音場プログラムを自由に選択し、著名ホールやライブハウス等の音場をリスニングルームに再現することができます。

ご注意

- 本機の音場プログラムは、世界各地の実在のホールなどの音響特性を測定した結果に基づいて設計されています。そのため、前後左右で響きの強さや音量差が異なると感じられることがありますが、故障ではありません。
- 名称や説明にこだわらず、最も心地よく聞こえる音場プログラムをお選びください。

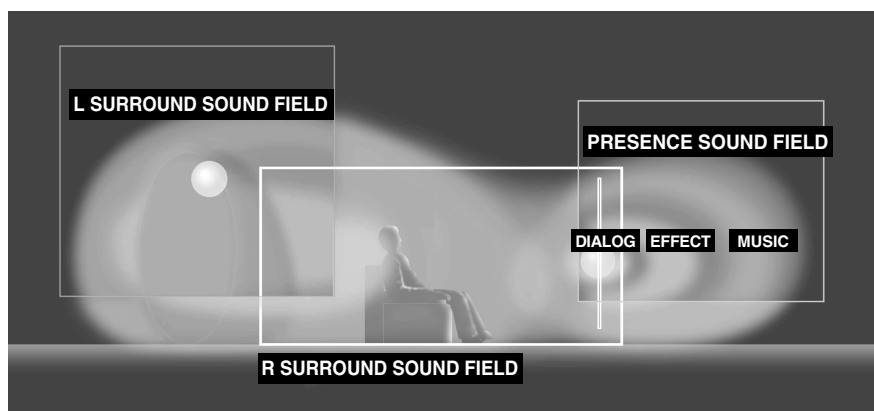
Hi-Fi DSP音場プログラム

プログラムNo.1～4(Disco、6ch Stereo)は音楽向けのHi-Fi DSP音場プログラムです。
下表は各Hi-Fi DSP音場プログラムによって再現される音場の特長です。

モード	ソースのタイプ	No.	プログラム	サブプログラム	特長
ハイファイ Hi-Fi DSP	音楽向け	1	コンサート ホール CONCERT HALL	–	円形ホールをイメージさせる広大な音場で、全周囲に反射音が拡がり、サラウンド感が強く、豊麗な響きが特長です。
		2	ジャズ クラブ JAZZ CLUB	–	ニューヨークで話題のライブハウス「ザ･ボトムライン」のステージ正面の音場です。フロアは300席ある左右に幅広い客席で占められ、リアルでライブな音場です。
		3	ロック コンサート ROCK CONCERT	–	ロサンゼルスにあるロック系ライブハウスで、客席は最高時で約460程です。左後方に強い反射音がありますので、左後方が大きめに聞こえます。
		4	エンターテイメント ENTERTAINMENT	ディスコ Disco	ディスコミュージックに包まれる、乗りの良い音場空間を演出するプログラムです。
				チャンネル ステレオ 6ch Stereo	後方からも直接音が聴け、広いエリアで楽しめる効果が特長のホームパーティーを演出する音場プログラムです。

CINEMA DSP音場プログラム

映画製作者の意図するサウンドは、セリフは明瞭にスクリーン上に定位し、効果音はその奥に、音楽はさらにその奥に拡がり、そしてサラウンドは視聴者を取り囲んでスクリーンの映像と一体になるようにデザインされています。

ヤマハDSPをAV再生用に進化させたプログラムが「CINEMA DSP」です。映画サラウンドデコーダーであるドルビープロロジック、ドルビーデジタルやDTS、AACの各デコーダーとヤマハDSPを融合し、映画のサウンドを最良の状態でデザインするダビングステージ（最終的な映画のサウンドデザインを完成させるファイナルミックス）でのクオリティをAVルームに再現するサラウンド音場です。
CINEMA DSP音場プログラムでは、L.C.Rチャンネルにもヤマハ DSP処理を加えることで、視聴者はセリフの実在感や効果音、音楽の奥行き感とともに、スムーズな音源の移動感とスクリーンまで回り込むサラウンド音場に包まれます。
ドルビーデジタル信号、DTS、AAC信号が入力されると、自動的にドルビーデジタル、DTSやAACに対応した音場処理に最適化されます。

プログラムNo.4（Game）〜6はビデオ向けの、No.7〜9（Enhanced）は映画向けのCINEMA DSP音場プログラムです。
下表は各CINEMA DSP音場プログラムによって再現される音場の特長です。

モード	ソースのタイプ	No.	プログラム	サブプログラム	特長
シネマ CINEMA DSP	ビデオ向け	4	エンターテイメント ENTERTAINMENT	ゲーム Game	ゲームサウンドにビビッドな奥行きとサラウンド感を与えるプログラムです。音源がモノラルでもステレオでも有効で、迫力のあるTVゲームが楽しめます。
		5	ミュージック ビデオ MUSIC VIDEO	–	ロック、ジャズ等のライブコンサート会場のイメージです。サラウンド音場に広いホールのデータを使用しているため、間接音成分が豊かに回り込み、スクリーン周囲への映像空間、音場空間がいっぱいに拡がり、熱狂的な雰囲気にひたれます。EX/ESデコーダー動作時は、リアセンター音源とリアセンター音場が加わります。
		6	テレビ シアター TV THEATER	モノラル ムービー Mono Movie	往年のモノラル映画の雰囲気を臨場感たっぷりに再現するモノラルソース用のプログラムです。オペラハウス系の音場をベースに、適度な音場処理を加えています。
				バラエティー Variety/ スポーツ Sports	プレゼンス音場は狭めてあるが、サラウンド音場にはコンサートホールのデータを使用しており、様々なバラエティや中継番組に、適用範囲の広い音場効果を再現します。スポーツ中継のステレオ放送では、解説者は中央に定位し、歓声や場内の雰囲気は周囲へと拡がります。後方回り込みは適度に抑えてあるので、長時間使用しても違和感がありません。EX/ESデコーダー動作時は、リアセンター音源とリアセンター音場が加わります。

モード	ソースのタイプ	No.	プログラム	サブプログラム	特長
CINEMA DSP	映画向け	7	MOVIE THEATER 1	Spectacle	映画のワンシーンに飛び込んだような、超ワイドな空間がイメージできる音場です。手に汗握るパニックシーンなどビジュアルインパクトの強い作品に最適です。
				Sci-Fi	セリフと音楽、効果音をクールに描き分け、静けさの中に広大なシネマ音場を演出します。シリアスでストーリー性の高いSFX映画に特に適しています。
		8	MOVIE THEATER 2	Adventure	セリフの定位や映像に対する立体的な音場表現力に優れたモードです。アクション映画などにおける最新のサウンドデザインを忠実に再現します。
				General	響きを抑えた明瞭なセリフ、画面の周囲と奥に広がる立体的な音場と柔らかな響きが特長です。ラブストーリーやコメディーなど、人の心の動きを描写する作品に適しています。
		9	DOLBY DIGITAL	Enhanced	ドルビーデジタル、DTS、AACのサラウンド信号にDSPの音場効果を与えます。
			DTS DIGITAL SUR	Enhanced	
			AAC DIGITAL SUR	Enhanced	
			PRO LOGIC	Enhanced	

ストレートデコード

本機は下記のような数多くのデコーダーを装備しています。

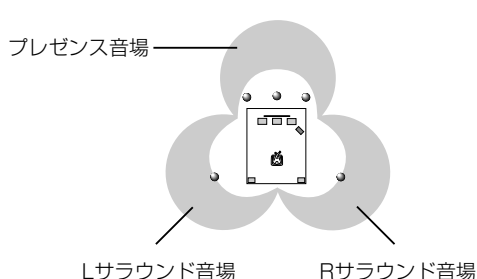
- マルチチャンネルソース用のドルビーデジタル、DTS、AACデコーダー
- リアセンターチャンネル音声再生用のドルビーデジタルEX、DTS-ESデコーダー
- ドルビーサラウンドと2チャンネルソース用のドルビープロロジック、ドルビープロロジックII、DTS Neo:6デコーダー

音場効果をかけずに元の音で再生したい場合は、プログラムNo.9(サブプログラムの「Enhanced」は除く)のストレートデコードモードを選んでください。この場合、DSP音場効果はかかりません。

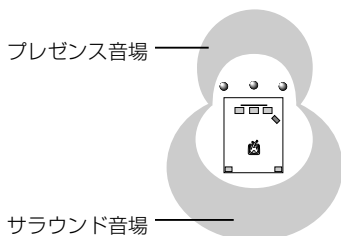
モード	ソースのタイプ	No.	プログラム	サブプログラム	特長
STRAIGHT DECODE	音楽向け/映画向け	9	DOLBY DIGITAL	–	ドルビーデジタル、DTS、AACで処理されたソースの再生用です。セパレーションに優れ、安定したデコードが得られます。
			DTS DIGITAL SUR	–	
			AAC DIGITAL SUR	–	
			PRO LOGIC	–	2チャンネル音声をそれぞれの方式でマルチチャンネル化して再生します。
			PRO LOGIC II	Movie	
				Music	
			DTS Neo:6	Cinema	
				Music	

サラウンド音場

■ MOVIE THEATER
マトリクス処理を行わない70mmフィルムの6チャンネルマルチトラックで得られるような明瞭な音源の定位と豊かな拡がりを、ダビングステージ(映画の音声を編集するための編集スタジオ)のクオリティと理想的な音場で楽しめるのがMOVIE THEATER 70mmプログラムです。最新の映画館用デジタルサラウンドシステムであるドルビーデジタル、DTS(デジタルシアターシステムズ)やAACのサウンドをそのまま家庭でも楽しめるように開発されたのがドルビーデジタルデコーダー、DTSデコーダーおよびAACデコーダーです。本機のMOVIE THEATERプログラムでは、映画館用にデザインされたドルビーデジタル、DTSやAACサウンドを家庭用のスピーカーシステムで、家庭のスペースで再生しても、臨場感あふれるスケールの大きな音場をお楽しみいただけます。

■ [ドルビーデジタル､DTS､AAC]＋[DSP音場効果]

ドルビーデジタルやDTS、AACのフロント、Lサラウンド、Rサラウンド信号に独立したヤマハ3音場DSP処理を施します。これにより、チャンネルセパレーションの良さなどを犠牲にすることなく、雄大な音場表現や包囲感の優れたサラウンド再生が可能になり、最新のデジタルサラウンド映画館のような臨場感が再現できます。

■ [ドルビーデジタルEX､DTS-ES､AAC ドルビーEX]＋[DSP音場効果]
リアセンタースピーカーから再現されたリアセンター音場が加わり、より雄大な音場空間を再現します。

■ [ドルビープロロジック]＋[DSP音場効果]

通常、ビデオテープなどの市販の映画ソフトは、ドルビーサラウンドのマトリクス技術によって4チャンネル(L/C/R/S)の音声情報がエンコード処理され、L、Rに収められています。それをデコード(復元)するのがドルビープロロジックデコーダーです。MOVIE THEATERプログラムは、エンコード･デコード処理によって失われがちな拡がり感や微妙な音のニュアンスまでも再現しようというものです。

雄大な音場空間を表現でき、サラウンド音に広がりを持たせることで包囲感が表現できます。また、フロントにも奥行きが出て、ドルビーステレオ映画館のような臨場感が再現できます。

■ ドルビープロロジックII/DTS Neo:6
ドルビープロロジックIIとDTS Neo:6デコーダーは2チャンネルを5または6チャンネルにデコードします。映画用のMovie/Cinemaと2チャンネルオーディオソース用のMusicの2種類のモードがあります。

入力信号別音場プログラム名一覧

CINEMA DSP音場プログラムNo.7～9のプログラム名は、本機に入力されている信号の種類と、デコーダーの動作により名前が変わります。

No.	入力信号 ＼ プログラム	アナログ、PCM、ドルビーデジタル(2ch)、DTS(2ch)、AAC(2ch)	ドルビーデジタル	DTS	AAC
7	MOVIE THEATER 1	Spectacle	Spectacle *1Spectacle EX	Spectacle *2Spectacle ES	Spectacle *1Spectacle EX
		Sci-Fi	Sci-Fi *1Sci-Fi EX	Sci-Fi *2Sci-Fi ES	Sci-Fi *1Sci-Fi EX
8	MOVIE THEATER 2	Adventure	Adventure *1Adventure EX	Adventure *2Adventure ES	Adventure *1Adventure EX
		General	General *1General EX	General *2General ES	General *1General EX
9	DOLBY DIGITAL/ DTS/ AAC SURROUND	―	DOLBY DIGITAL *1DOLBY D EX	DTS *4DTS/ES Matrix 6.1 *3DTS/ES Dscrt 6.1	AAC *1AAC/DOLBY EX
		―	DOLBY DIGITAL/ Enhanced *1DOLBY D EX/ Enhanced EX	DTS/Enhanced *2DTS ES/ Enhanced ES	AAC/Enhanced *1AAC DOLBY EX/ Enhanced EX

リモコンの6.1/5.1キーを押すと5.1チャンネルのソースを6.1チャンネルで再生できます(41ページ)。

*1 ドルビーデジタルEXデコーダー動作時(DD EX点灯時)
*2 DTS-ESディスクリートまたはマトリクスデコーダー動作時(ES DISCRETEまたはES MATRIXインジケーター点灯時)
*3 DTS-ESディスクリートデコーダー動作時(ES DISCRETEインジケーター点灯時)
*4 DTS-ESマトリクスデコーダー動作時(ES MATRIXインジケーター点灯時)

ご注意

AACの2チャンネルステレオ信号は、DTS Neo:6デコーダーでは再生できません。

入力信号と再生スピーカー対応表

入力信号の種類によって、下図で示されたスピーカーから音声が出力されます。

	2チャンネル音声（モノラル）	2チャンネル音声（ステレオ）	5.1/6.1チャンネル音声（DD EXまたはES DISCRETE/MATRIXインジケーター消灯時）	5.1/6.1チャンネル音声（DD EXまたはES DISCRETE/MATRIXインジケーター点灯時）
① CONCERT HALL ② JAZZ CLUB ③ ROCK CONCERT ④ ENTERTAINMENT Disco				
④ ENTERTAINMENT 6ch Stereo				
④ ENTERTAINMENT Game ⑤ MUSIC VIDEO ⑥ TV THEATER ⑦ MOVIE THEATER 1 ⑧ MOVIE THEATER 2				
⑨ DOLBY DIGITAL/ DTS/ AAC SURROUND/ DOLBY PRO LOGIC	（PRO LOGIC）	（PRO LOGIC）		
⑨ DOLBY PRO LOGIC II	（Movie）（Music）		—	—
⑨ DTS Neo:6	（Cinema）（Music）		—	—

ご注意

再生するソースに含まれている信号成分によっては、スピーカーから音が出なかったり、小さい音しか出ない場合もあります。映画の効果音など、シーンに合せて部分的にしか使用されないチャンネルもあります。

表の見かた

表中のイラストは、6つのスピーカーを示します。

L：メインLスピーカー　RL：リアLスピーカー
C：センタースピーカー　RC：リアセンタースピーカー
R：メインRスピーカー　RR：リアRスピーカー

イラスト中の各スピーカーのイラストは、音が出ているかどうかを示します。

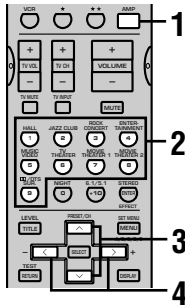
音が出ているスピーカー
音の出ていないスピーカー

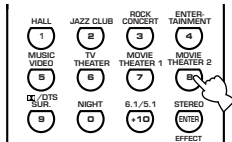
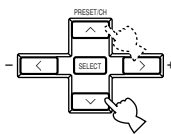
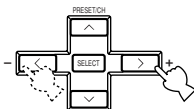
オリジナルのリスニング環境をつくる

パラメーターを変更する

各音場プログラムパラメーターは、初期設定のままで十分お楽しみいただけます。基本的に設定を変更する必要はありませんが、各音場プログラムパラメーターを調節することで、オリジナルのリスニング環境をつくることができます。

ご注意

選択する音場プログラムによって、調節できる内容が異なります。各パラメーターの説明を参照ください。

1 AMPキーを押す。

2 音場プログラムを選択する。

3 ∧/∨キーを押して、変更したい項目を選択する。

4 </>キーを押して、パラメーターを変更する。

5 他の音場プログラムのパラメーターを変更したいときは、手順2～4を繰り返す。

ご注意

セットメニュー「OPTION-2 MEM. GUARD」がONに設定されている場合は、パラメーターを変更できません。パラメーターを変更する前に、OFFに設定してください。

パラメーターガイド

音場プログラムごとにDSP処理の構造が違います。以下のパラメーターはすべての音場プログラムで設定できるわけではありません。

■ DSP LEVEL(DSPレベル)

可変範囲:−6〜+3dB

機能: DSPエフェクトレベル(効果音)の微調節
解説: DSPエフェクト音全体のレベルを微調節するパラメーターです。

■ DELAY(ディレイ)

可変範囲:1〜99ms(信号、音場プログラムにより変わります)

機能: メインスピーカーから音が出力されるタイミングと、リアスピーカーからサラウンド音が出力されるタイミングとの時間差を調節
解説: 値を大きくするほどサラウンド音が遅れて出力され、音場空間が大きく感じられます。

6ch Stereo用

■ CT LEVEL(センター・レベル)

可変範囲:0〜100%

機能: 6ch Stereo音場でのセンターチャンネルの出力レベルの調節

■ RL LEVEL(リア・レフト・レベル)

可変範囲:0〜100%

機能: 6ch Stereo音場でのリアLチャンネルの出力レベルの調節

■ RR LEVEL(リア・ライト・レベル)

可変範囲:0〜100%

機能: 6ch Stereo音場でのリアRチャンネルの出力レベルの調節

■ RC LEVEL(リア・センター・レベル)

可変範囲:0〜100%

機能: 6ch Stereo音場でのリアセンターチャンネルの出力レベルの調節

PRO LOGIC II Music用

■ PANORAMA(パノラマ)

可変範囲:ON/OFF

機能: DOLBY PRO LOGIC IIのフロント音場の拡がり感を調節

■ DIMENSION(ディメンション)

可変範囲:−3〜STD〜+3

機能: DOLBY PRO LOGIC IIのサラウンド音場のフロント側とリア側のレベル差を調節

■ CT WIDTH(センター・ウィドゥス)

可変範囲:0〜7

機能: DOLBY PRO LOGIC IIのセンター音声の左右への拡がりを調節

DTS Neo:6 Music用

■ C. IMAGE(センター・イメージ)

可変範囲:0〜0.5

機能: DTS Neo:6のフロント音場の拡がり感を調節

セットメニューで設定を変更する

本機には、お使いのシステムで最適な音声や映像をお楽しみいただけるように、下記のセットメニューで設定を変更することができます。お使いの環境にあわせて設定を変更してください。

ヒント

再生中でも、セットメニューで設定を変更できます。

ご注意

ナイトリスニングモードで再生中は、一部のセットメニューが設定できません。設定する前にナイトリスニングモードを解除してください(32ページ)。

セットメニュー一覧

セットメニューは、以下のように用途、機能別に4つのカテゴリーに分類されています。

■ BASIC

本機を使用する前に、システムにあわせてあらかじめ設定しておく基本的な項目です。以下の2つのメニューがあります。

1 SETUP
2 SP LEVEL

■ SOUND

音声出力に関する設定項目です。音質、音色を調節することができます。以下の6つのメニューがあります。

1 SPEAKER SET
2 SP DISTANCE
3 LFE LEVEL
4 D. RANGE
5 CENTER GEQ
6 HP TONE CTRL

■ INPUT

信号入出力に関する設定項目です。入出力端子の割り当てを変更することができます。以下の2つのメニューがあります。

1 I/O ASSIGN
2 INPUT MODE

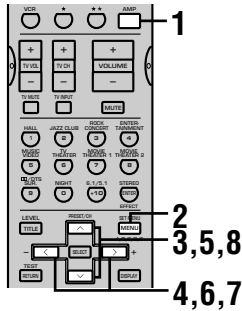
■ OPTION

便利な補足設定です。ディスプレイの明るさを変更したり、設定を保護することができます。以下の5つのメニューがあります。

1 DISPLAY SET
2 MEM. GUARD
3 AUDIO MUTE
4 ZONE SET
5 DUAL MONO

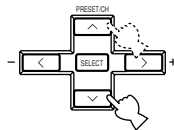
セットメニューの操作手順

リモコンで操作します。

ヒント

入力がTUNER以外のときは、本体のNEXTキーとSET MENU ＋/－でも操作できます。NEXTキーを押して設定したいカテゴリー/項目を選択してから、SET MENU ＋/－を押して設定値を変更します。

1 AMPキーを押してAMPを選択する。

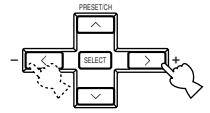
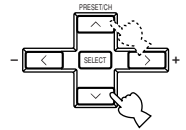
2 SET MENUキーを押す。

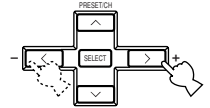
3 ∧/∨ キーを繰り返し押して、設定したいメニューがあるカテゴリーを選ぶ。

ヒント

SET MENUキーを繰り返し押しても、∨ キーと同じ順番でカテゴリーを選べます。

ご注意

「BASIC」が選択されているときに ∧ キーを押すと、セットメニューモードが終了してしまいます。（「OPTION」が選択されているときに ∨ キーを押す場合も同様です。）セットメニューに戻るには、SET MENUキーを押します。

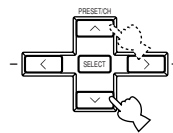
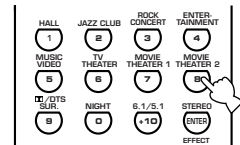
4 〈/〉 キーを押す。

5 ∧/∨ キーを繰り返し押して、設定したいメニューを選ぶ。

6 〈/〉 キーを押す。

選んだメニューの設定モードに入り、現在の設定が本体ディスプレイに表示されます。

項目によっては ∧/∨ キーを押して、サブメニューを選びます。

7 〈/〉 キーを繰り返し押して、設定を変える。

8 セットメニューを終了するときは、メニュー表示が消えるまで、∧/∨ キーを繰り返し押す。

ご注意

音場プログラムキーを押してもセットメニューを終了することができますが、押したプログラムに設定が変わります。

または

使用環境にあわせて簡単に設定する (BASIC)

お使いのシステムにあわせて、簡単に再生に適した設定にします。設定のしかたは、27〜29ページを参照してください。

BASICメニューとSOUNDメニュー

BASICメニューは、「SOUND-1 SPEAKER SET」と「SOUND-2 SP DISTANCE」を簡単に設定できるようにしたものです。BASICメニューにより、ヤマハが推奨するリスニング環境を簡単に設定することができます。BASICメニューで設定したあとは、SOUNDメニューを設定する必要はありませんが、SOUNDメニューにより、さらに細かい設定をすることができます。

ご注意

SOUNDメニューで設定したあとに、「BASIC-1 SETUP」でSETを選択すると、SOUNDメニューで設定した内容が無効になります。SOUNDメニューで設定したあとは、BASICメニューに入らないようご注意ください。あやまってBASICメニューに入った場合は、「BASIC-1 SETUP」でCANCELを選択して、メニューから抜けてください(28ページ)。

音声出力を設定する (SOUND)

■ システムにあわせて、スピーカーモードを設定する (SPEAKER SET)

ご使用になるスピーカーシステムに合わせて、スピーカーモードを設定します。

ヒント

スピーカーの設定項目では、目安として、ウーファーの口径が16cm以下のスピーカーをお使いの場合はSML、それ以上の口径の場合はLRGをおすすめします。

ご注意

48kHzを超えるサンプリング周波数のデジタル信号が入力された場合は、項目によっては、設定が再生音声に反映されない場合があります。

1A CENTER(センタースピーカーモード)

センタースピーカーの性能や有無に応じて、出力モードを設定します。

選択項目： LRG(大)、SML(小)、NON(なし)
初期設定： SML

LRG

センタースピーカーに大型のスピーカーを使用するモードです。センターチャンネル信号の全帯域が、そのままセンタースピーカーに出力されます。

SML

センタースピーカーに小型のスピーカーを使用するモードです。センターチャンネル信号の90Hz以下の低音域は、「1E BASS」で選択したスピーカーに出力されます。

NON

センタースピーカーを使用しないときのモードです。センターチャンネル信号は、メインのL/Rスピーカーに同じレベルで振り分けられます。

1B MAIN(メインスピーカーモード)

メインL/Rスピーカーの性能に応じて、出力モードを設定します。

選択項目： LARGE(大)、SMALL(小)
初期設定： LARGE

LARGE

メインスピーカーに大型のスピーカーを使用するモードです。メインL/Rチャンネル信号の全帯域が、そのままメインL/Rスピーカーに出力されます。

SMALL

メインスピーカーに小型のスピーカーを使用するモードです。メインL/Rチャンネル信号の90Hz以下の低音域は、「1E BASS」で選択されたスピーカーに出力されます。

ご注意

SMALL設定時でも、「1E BASS」の設定がMAINの場合は、メインL/Rチャンネル信号の90Hz以下の低音域はメインに出力されます。

1C REAR LR(リアL/Rスピーカーモード)
リアL/Rスピーカーの性能や有無に応じて、出力モードを設定します。

選択項目: LRG(大)、SML(小)、NON(なし)
初期設定: SML

LRG
リアL/Rスピーカーに大型のスピーカーを使用したり、リアL/Rスピーカーにリア側サブウーファーをスピーカーケーブルで接続して使用する場合のモードです。リアL/Rチャンネル信号の全帯域が、そのままリアスピーカーに出力されます。

SML
リアL/Rスピーカーに小型のスピーカーを使用するモードです。リアL/Rチャンネル信号の90Hz以下の低音域は、「1E BASS」で選択されたスピーカーに出力されます。

NON
リアL/Rスピーカーを使用しないときのモードです。

ご注意

「1C REAR LR」をNONに設定すると「1D REAR CT」はスキップされます。

ヒント

「1C REAR LR」をNONに設定するとバーチャルシネマDSPモードになります(43ページ)。

1D REAR CT(リアセンタースピーカーモード)
リアセンタースピーカーの性能や有無に応じて、出力モードを設定します。

ご注意

「1C REAR L/R」がNONに設定されている場合は設定できません。

選択項目: LRG(大)、SML(小)、NON(なし)
初期設定: SML

LRG
リアセンタースピーカーに大型のスピーカーを使用するモードです。リアL/Rチャンネルに含まれるリアセンター信号の全帯域がそのままリアセンタースピーカーに出力されます。

SML
リアセンタースピーカーに小型のスピーカーを使用するモードです。リアセンター信号の90Hz以下の低音域は「1E BASS」で選択したスピーカーに出力されます。

NON
リアセンタースピーカーを使用しないときのモードです。リアセンターチャンネル信号はリアL/Rチャンネルにミックスされます。

1E BASS(バスアウトモード)
LFE/BASS信号を出力するスピーカーを設定します。
(LFE信号:ドルビーデジタルやDTS動作時に出力される低域効果音。低音域信号は90Hz以下。)

選択項目: SWFR(サブウーファー)、
MAIN(メイン)、BOTH(両方)
初期設定: BOTH

SWFR
サブウーファーを使用する場合のモードです。
LFEと、1A〜1Dの設定により他チャンネルの低音域(90Hz以下)が、サブウーファーに出力されます。

MAIN
サブウーファーを使用しない場合のモードです。
LFEと、1A〜1Dの設定により他チャンネルの低音域(90Hz以下)が、メイン L/Rスピーカーに出力されます。

BOTH
サブウーファーを使用し、さらにメインスピーカーモードの設定に関わりなく、メインスピーカーの90Hz以下の低音域をLFEチャンネルにミックスする場合のモードです。メインL/Rの低音域がメインL/Rスピーカーとサブウーファーの両方から出力されます。

ご注意

1A〜1Dの設定をSMLまたはSMALLにすると他チャンネルの低音域(90Hz以下)およびLFE信号が「1E BASS」で設定されたスピーカーに出力されます。

■ 各スピーカーからリスニングポジションまでの距離を設定する (SP DISTANCE)

通常センタースピーカーはメインL/Rスピーカーと同一線上に、リアセンタースピーカーはリアL/Rスピーカーと同一線上に設置しますが、本来ならば同時に出た音が同時にリスニングポジションに届くように、各スピーカーからリスニングポジションまでの距離が同一になるのが理想的です。本機では各スピーカーからリスニングポジションまでの距離を設定することにより、ディレイタイム（遅延時間）を自動的に算出し、各スピーカーからの音が同時にリスニングポジションに届くように補正します。

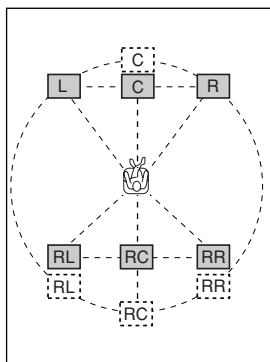
1 **∧/∨ キーを押して、UNITを選択する。**

2 **</> キーを押して、距離の単位を選択する。**
meters、feetから選択します。

ご注意

選択する単位により、設定内容（初期設定、設定項目など）が変わります。

3 **∧/∨ キーを押して、距離を設定するスピーカーを選択する。**

4 **</> キーを押して、距離を設定する。**
> キーを押すと数値が大きくなり、< キーを押すと数値が小さくなります。

metersで設定する

可変範囲： 0.30〜24.00m（メインL/R、センター、リアL/R、リアセンター）
初期設定： 3.00m（メインL/R、センター、リアL/R）、2.10m（リアセンター）

feetで設定する

可変範囲： 1.0〜80.0ft（メインL/R、センター、リアL/R、リアセンター）
初期設定： 10.0ft（メインL/R、センター、リアL/R）、7.0ft（リアセンター）

■ LFE（低域効果音）の再生レベルを調節する (LFE LEVEL)

ドルビーデジタル、DTSおよびAACでのLFE信号の再生レベルを調節します。LFE信号とは、意図されたシーンでのみ出力される重低音による効果音です。

可変範囲： −20〜0（dB）
初期設定： 0dB（スピーカー、ヘッドホンとも）

1 **∧/∨ キーを押して、SP LFE（スピーカー）またはHP LFE（ヘッドホン）を選択する。**

2 **</> キーを押して、レベルを調節する。**

ご注意

使用するサブウーファーやヘッドホンの能力に応じて、レベル調節を行ってください。

■ ドルビーデジタル再生時のダイナミックレンジを設定する (D.RANGE)

ドルビーデジタル再生時のダイナミックレンジ（最大音量から最小音量までの幅）を、3段階から選択します。

選択項目： MAX、STD、MIN
初期設定： MAX（スピーカー、ヘッドホンとも）

MAX
信号ソースのダイナミックレンジを最大限に再生します。

STD
ソフト制作者が家庭用として推奨するダイナミックレンジです。

MIN
小音量でも聴きやすく、深夜の視聴に適したダイナミックレンジです。

ご注意

ドルビーデジタルソフトによっては、ダイナミックレンジのMINに対応していないため、音量が極端に下がる場合があります。このような場合は、ダイナミックレンジをMAXまたはSTDに設定してご使用ください。

■ センタースピーカーの音色を調節する (CENTER GEQ)

センタースピーカーの音色を、メインL/Rスピーカーの音色と合わせるために、センターチャンネルのグラフィックイコライザーを調節します。100Hz、300Hz、1kHz、3kHzおよび10kHzの周波数が選べます。

可変範囲：－6～＋6（dB）
初期設定：（5バンドともに）0dB

1 ∧/∨ キーを押して、調節する周波数を選ぶ。

2 </> キーを押して、レベルを設定する。

ヒント

テストトーン使用時に、「CENTER GEQ」の調節を行うと、テストトーンを聞きながらセンタースピーカーの音色を調節できます。「CENTER GEQ」の手順を行う前にTESTキーを押します。「CENTER GEQ」の操作を始めると、テストトーンの出力はセンタースピーカーに固定されます。周波数を変えながら音色をメインスピーカーの音色に近くなるよう調整します。テストトーンを終了するにはTESTキーを押します（30ページ）。

■ ヘッドホンからの出力音声を調節する (HP TONE CTRL)

ヘッドホンの低音域(HP BASS)および高音域(HP TRBL)を調節します。

可変範囲：－6～＋3（dB）
初期設定：（低音域、高音域ともに）0dB

入出力設定を変更する(INPUT)

■ 入出力端子の割り当てを変更する(I/O ASSIGN)

使用する機器と、本機のD4 VIDEO入力端子やデジタル入出力端子の機器名が異なる場合に、使用する機器に合わせて端子を割り当てることができます。使用する機器によりデジタル入力端子が足りなくなった場合などに、端子の割り当てを変更することで、より多くの機器を使用することができます。割り当てを変更すると、変更後の機器を入力選択キーで選択できます。ここでは、DVDレコーダーを接続し、各端子の割り当てを「VCR」に設定する場合を例に説明します。設定後は入力選択キーの「VCR」を押すと、DVDレコーダーを選択できます。

ご注意

それぞれの項目(1A〜1D)の中で、同一の端子名を指定することはできません。

1A [A][B] D4 VIDEO端子

選択項目: [A] DVD、VCR、V-AUX、D-TV/CBL
[B] D-TV/CBL、DVD、VCR、V-AUX
初期設定: [A] DVD
[B] D-TV/CBL
例: D4 VIDEO(DVD)端子にDVDレコーダーを接続した場合、[A]の設定を「VCR」に変更します。

DSP-AX540
1B (1) DIGITAL OUTPUT OPTICAL端子

選択項目: (1) MD/CD-R、CD、VCR、V-AUX、D-TV/CBL、DVD
初期設定: (1) MD/CD-R
例: DIGITAL OUTPUT OPTICAL(MD/CD-R)端子にDVDレコーダーを接続した場合、「VCR」に変更します。

DSP-AX540
1C (2)〜(4) DIGITAL INPUT OPTICAL端子

選択項目: (2) MD/CD-R、CD、VCR、D-TV/CBL、DVD
(3) DVD、MD/CD-R、CD、VCR、D-TV/CBL
(4) D-TV/CBL、DVD、MD/CD-R、CD、VCR
初期設定: (2) MD/CD-R
(3) DVD
(4) D-TV/CBL
例: DIGITAL INPUT OPTICAL(MD/CD-R)端子にDVDレコーダーを接続した場合、(2)の設定を「VCR」に変更します。

DSP-AX440
1C (1) DIGITAL INPUT OPTICAL端子

選択項目: (1) DVD、MD/CD-R、CD、VCR、D-TV/CBL
初期設定: (1) DVD
例: DIGITAL INPUT OPTICAL(DVD)端子にDVDレコーダーを接続した場合、「VCR」に変更します。

DSP-AX540
1D (5) DIGITAL INPUT COAXIAL端子

選択項目: (5) CD、VCR、V-AUX、D-TV/CBL、DVD、MD/CD-R
初期設定: (5) CD
例: DIGITAL INPUT COAXIAL(CD)端子にDVDレコーダーを接続した場合、「VCR」に変更します。

DSP-AX440
1D (2) DIGITAL INPUT COAXIAL端子

選択項目: (2) CD、VCR、V-AUX、D-TV/CBL、DVD、MD/CD-R
初期設定: (2) CD
例: DIGITAL INPUT COAXIAL(CD)端子にDVDレコーダーを接続した場合、「VCR」に変更します。

■ 電源を入れたときの入力モードを設定する(INPUT MODE)

再生機器をアナログ/デジタル両方の入力端子に接続している場合に電源を入れたときの入力モードを設定します。

選択項目: AUTO、LAST
初期設定: AUTO

AUTO
最後に操作したときの入力モード設定に関わらず、本機の電源を入れると入力モードが自動的にAUTOに設定されます。

LAST
最後に操作したときの入力モード設定が、そのまま適用されます。

ご注意

LASTを選択しても、6.1/5.1キーの設定は記憶されません。

その他の設定(OPTION)

■ 表示の設定を変更する (DISPLAY SET)

本体ディスプレイの明るさなどを設定します。

DIMMER(ディマー)

本体ディスプレイの明るさを調節します。

可変範囲: −4〜0
初期設定: 0

くキーを押すと本体ディスプレイが暗くなります。

DSP-AX540

V CONV.(ビデオコンバージョン)

Sビデオ入力信号がない場合にコンポジットビデオ入力信号をSビデオ信号に変換する機能を設定します。

選択項目: ON、OFF
初期設定: ON

ON

コンポジットビデオ入力信号をSビデオ信号に変換して、S VIDEO MONITOR OUT端子にも出力します。

OFF

コンポジットビデオ入力信号をSビデオ信号に変換しません。

■ 変更した設定値を保護する (MEM. GUARD)

変更した設定値を保護します。ONに設定すれば、誤操作による設定値の変更を防ぐことができます。

選択項目: ON、OFF
初期設定: OFF

ONに設定したときに保護される設定は、以下のとおりです。

- 音場プログラムのパラメーター設定値
- 「OPTION-2 MEM. GUARD」以外のセットメニュー設定値
- センター、リア、リアセンター、サブウーファーの音量

ご注意

- 設定をONにすると、他のセットメニューは呼び出せません。
- 設定をONにすると、テストモードに入れません。

■ ミュート(消音)レベルを設定する (AUDIO MUTE)

ミュート時(消音時)に下げる音量を調節します。

選択項目: MUTE、−50dB、−20dB
初期設定: MUTE

MUTE

完全に消音し、無音にします。

−50dB

いま聴いている音量よりも、50dB下げて再生します。

−20dB

いま聴いている音量よりも、20dB下げて再生します。

■ スピーカーBの設置場所を設定する (ZONE SET)

リアパネルのSPEAKER B端子に接続されるスピーカーの設置場所を設定します。

選択項目: MAIN、ZONE B
初期設定: MAIN

MAIN

スピーカーBがメインルームに設置されている場合、この設定にします。SPEAKERS A/Bスイッチの操作によりスピーカーA、BをON/OFFします。

ZONE B

スピーカーBを別の部屋に設置する場合、この設定にします。SPEAKERS AスイッチをOFF、BスイッチをONにするとメインルームのすべてのエフェクトスピーカーはミュートされ、スピーカーBのみに音声が出力されます。

ヒント

- 本機のPHONES端子にヘッドホンを差し込むと、ヘッドホンとスピーカーBの両方から音声が出力されます。
- 音場プログラムを使用している場合は、自動的にバーチャル再生になります。

■ 二重音声出力時の出力モードを変更する（DUAL MONO）

BSデジタル放送などで使われる、モノラル二重音声出力時の主音声と副音声の出力モードを設定します。

選択項目： MAIN、SUB、ALL
初期設定： MAIN

MAIN

主音声のみをメインL/Rスピーカーから出力します。

SUB

副音声のみをメインL/Rスピーカーから出力します。

ALL

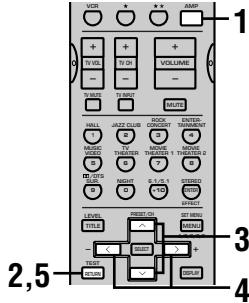
主音声と副音声をメインL/Rスピーカーからそれぞれ同時に出力します。PCM信号が入力されている場合のL/Rチャンネルへの音声の振り分けは、再生機器（チューナー等）の設定によって異なります。詳しくは再生機器の取扱説明書を参照してください。

ご注意

- モノラルでない二重音声の出力は、本機で設定できません。再生機器側で設定してください。
- この設定は、AAC、ドルビーデジタル、DTS信号の二重音声（デュアルモノ）信号およびAACの多重音声（マルチモノ）信号受信時のみ有効になります。ただし、AAC信号音声の第3、第4チャンネルを選択することはできません。再生機器側で設定してください。
- 地上波放送などの、アナログやPCM信号での二重音声は、チューナーやビデオデッキ側で音声の主/副を選択してください。

スピーカーの音声出力レベルを調節する

テストトーンを使って調節する

テストトーンを使って、リスニングポジションで聞こえる各スピーカーからの音量が一定になるように調節します。

1 AMPキーを押してAMPを選択する

2 TESTキーを押す

テストトーンが出力されます。

3 ∧/∨キーを繰り返し押して、調節したいスピーカーを選ぶ。

∨キーを押すごとに、下記の順に調節するスピーカーが切り替わります。

TEST LEFT(メインL)→TEST CENTER(センター)→TEST RIGHT(メインR)→TEST R SUR.(リアR)→TEST REAR CNTR(リアセンター)→TEST L SUR.(リアL)→TEST SUBWOOFER(サブウーファー)→...

（∧キーを押すと、上記とは逆の順に切り替わります。）

4 </>キーを押して、スピーカーの音量を調節する。

5 調節が終わったら、TESTキーを押す。

テストトーンが止まります。

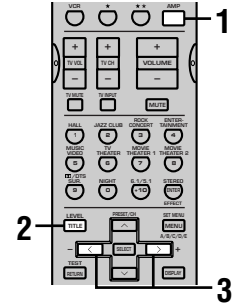
ご注意

- ヘッドホンを接続していると、テストモードに入れません。PHONES端子からヘッドホンを抜いてください。
- セットメニュー「SOUND-1 SPEAKER SET」でNONに設定されているスピーカーの音量は調節できません。
- セットメニュー「SOUND-1 SPEAKER SET」の「1E BASS」がMAINに設定されている場合、サブウーファーの音量は調節できません。
- テストトーンで調節したスピーカーの音量は、「BASIC-1 SETUP」でSETを選択すると無効になります。調節後はBASICメニューに入らないようご注意ください。あやまってBASICメニューに入った場合は、「BASIC-1 SETUP」でCANCELを選択して、メニューから抜けてください(28ページ)。

ヒント

再生するソースによっては、テストトーンで調節したスピーカーの音量がお好みに合わない場合があります。この場合は、再生しながら調節してください。

再生しながら調節する

再生音を聴きながら、各スピーカーからの音量を調節します。

1 AMPキーを押してAMPを選択する。

2 LEVELキーを繰り返し押して、調節したいスピーカーを選ぶ。

LEVELキーを押すごとに、下記の順に調節するスピーカーが切り替わります。

MAIN L（メインL）→CENTER（センター）→MAIN R（メインR）→R SUR.（リアR）→REAR CT（リアセンター）→L SUR.（リアL）→SWFR（サブウーファー）→MAIN L（メインL）→...

ヒント

LEVELキーでレベル表示にすると、∧/∨ キーでもスピーカーを選べます。

3 </> キーを押して、スピーカーの音量を調節する。

- センター、リアL/Rおよびリアセンタースピーカーの調節範囲は、－10～＋10dBです。
- メインL/Rスピーカーおよびサブウーファーの調節範囲は、－20～0dBです。

ご注意

- セットメニュー「SOUND-1 SPEAKER SET」でNONに設定されているスピーカーの音量は調節できません。
- セットメニュー「SOUND-1 SPEAKER SET」の「1E BASS」がMAINに設定されている場合、サブウーファーの音量は調節できません。
- LEVELキーでスピーカーの音量を調節すると、テストトーンで調節したスピーカーの音量も変更されます。
- LEVELキーで調節したスピーカーの音量は、「BASIC-1 SETUP」でSETを選択すると無効になります。調節後はBASICメニューに入らないようご注意ください。あやまってBASICメニューに入った場合は、「BASIC-1 SETUP」でCANCELを選択して、メニューから抜けてください(28ページ)。

リモコンのはたらき

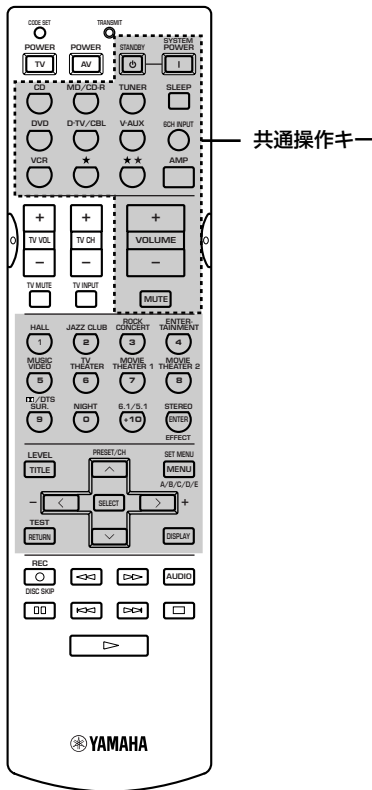
付属のリモコンを使って、本機以外のヤマハ製/他社製AV機器を操作できます。本機以外のAV機器を操作するには、メーカーコードを設定する必要があります。

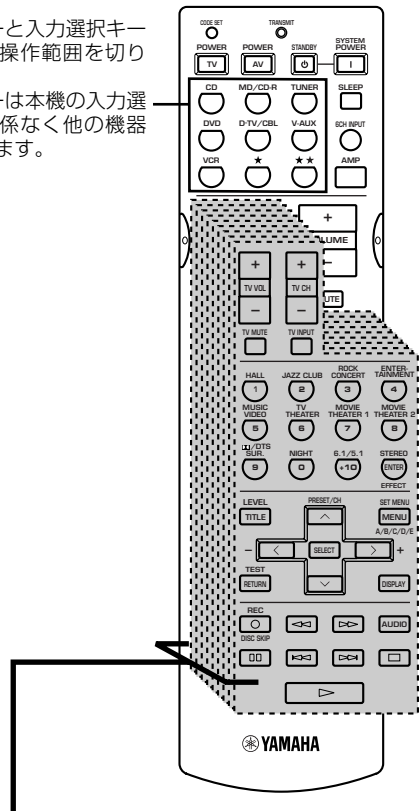
ご注意

- リモコンの操作範囲と乾電池については15ページを参照してください。
- 各部分の名称とはたらきについては、12、13ページを参照してください。

リモコン操作範囲

■ 本機を操作する

本機の操作に使用するキーは下図の灰色で示した部分です。点線部分内のキーはどのモードでも機能します。その他の灰色部分のキーを使用するにはAMPキーを押してAMPを選択します。

■ 他の機器を操作する

下の影部分内のキーは他の機器を操作するために使用します。入力選択キーを押して選んだ機器によって各キーの機能が変わります。

機器操作範囲
★/★★キーおよび入力選択キーごとにメーカーコードを設定することで、9台までの異なる機器を操作できます(65ページ)。

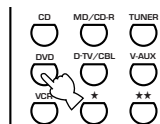
リモコンで操作できる機器を指定する

メーカーコードを設定することにより、本機のリモコンで他のメーカーの機器を操作することができます。メーカーコードは各入力選択キーまたは★/★★キーに設定することができます。下表のように、CD、MD/CD-R、TUNER、DVDの入力選択キーには工場出荷時にあらかじめヤマハのメーカーコードが設定されています。詳しくは、本書末に記載の「メーカーコード一覧」(73ページ)を参照してください。

キー	ライブラリー	メーカー名	メーカーコード
CD	CD	YAMAHA	0005
MD/CD-R	MD	YAMAHA	0024
TUNER	TUNER	YAMAHA	0003
DVD	DVD	YAMAHA	0098
D-TV/CBL	–	–	–
V-AUX	–	–	–
VCR	–	–	–
★	–	–	–
★★	–	–	–

ご注意

お使いのヤマハ機器によっては初期設定されているヤマハのメーカーコードでは操作できない場合があります。この場合はヤマハの別のメーカーコードをお試しください。

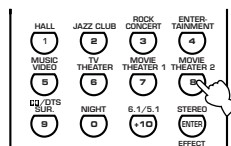
1 **設定を変更したい入力選択キーまたは★/★★キーを押す。**

2 **CODE SETボタンを押す。**

ボールペンなど先の細いもので押します。TRANSMITインジケーターが2回点滅します。

TRANSMIT

ご注意

これ以降の手順は、それぞれ操作後30秒以内に次の手順へ移ってください。そのままにしておくとメーカーコード設定モードがキャンセルされます。この場合は、手順2から操作をやり直してください。

3 **数字キーを押して、使用する機器のメーカーコード(4桁の数字)を入力する。**

ヒント

- 1桁入力するごとにTRANSMITインジケーターが1回点滅します。4桁分が正しく入力された場合は、最後にTRANSMITインジケーターが2回点滅します。
- TRANSMITインジケーターが素早く6回点滅した場合は、メーカーコードが正しく入力されていません。もう一度入力し直してください。

リモコンを初期化する

設定したメーカーコードを取り消すことができます。

1 **「リモコンで操作できる機器を指定する」の手順2まで操作する。**

取り消したいメーカーコードが設定されている入力選択キーを押してください。

2 **数字キーを押して、「0000」と入力する。**

TRANSMITインジケーターが2回点滅し、選択した機器のメーカーコード設定が取り消されます。

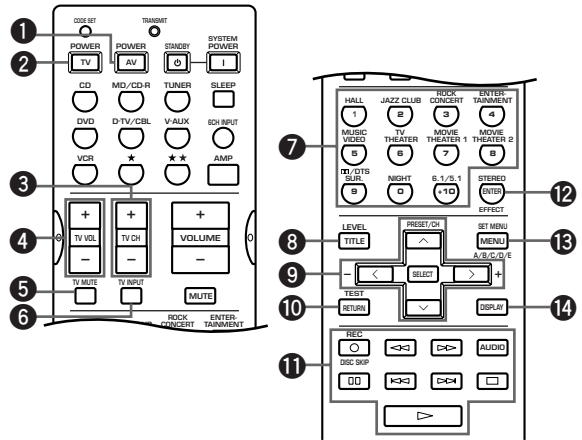
ヒント

設定したメーカーコードをすべて取り消したい場合は、手順2で「9990」と入力します。

操作モード一覧

ご使用の機器のメーカーコードを設定すると、その機器を本機のリモコンで操作することができます。

ご注意

- ご使用の機器によっては、幾つかのキーが機能しないことがあります。このような場合には、ご使用の機器に付属のリモコンを使用してください。
- ご使用の機器によっては、キー操作と説明が一致しないことがあります
- 工場出荷時、CD、MD/CD-R、TUNER、DVDキーにはヤマハメーカーコードが設定されています。他社製の機器を操作する場合は、メーカーコードを変更する必要があります。また上記以外の機器を操作するには、ライブラリー/メーカーコードをあらかじめ設定しておく必要があります。

	DVDプレーヤー	ビデオデッキ	テレビ	LDプレーヤー	CDプレーヤー	CD/MDレコーダー	チューナー
❶ AV POWER	*[1]POWER	*[1]POWER	*[3](ビデオデッキ)POWER	*[1]POWER	*[1]POWER	*[1]POWER	*[1]POWER
❷ TV POWER	*[4](テレビ)POWER	*[2](テレビ)POWER	*[1]POWER	*[2](テレビ)POWER	*[2](テレビ)POWER	*[2](テレビ)POWER	*[2](テレビ)POWER
❸ TV CH ＋	*[2](テレビ)チャンネル選択(+)	*[2](テレビ)チャンネル選択(+)	チャンネル選択(+)	*[2](テレビ)チャンネル選択(+)	*[2](テレビ)チャンネル選択(+)	*[2](テレビ)チャンネル選択(+)	*[2](テレビ)チャンネル選択(+)
TV CH −	*[2](テレビ)チャンネル選択(−)	*[2](テレビ)チャンネル選択(−)	チャンネル選択(−)	*[2](テレビ)チャンネル選択(−)	*[2](テレビ)チャンネル選択(−)	*[2](テレビ)チャンネル選択(−)	*[2](テレビ)チャンネル選択(−)
❹ TV VOL ＋	*[2](テレビ)音量(+)	*[2](テレビ)音量(+)	音量(+)	*[2](テレビ)音量(+)	*[2](テレビ)音量(+)	*[2](テレビ)音量(+)	*[2](テレビ)音量(+)
TV VOL −	*[2](テレビ)音量(−)	*[2](テレビ)音量(−)	音量(−)	*[2](テレビ)音量(−)	*[2](テレビ)音量(−)	*[2](テレビ)音量(−)	*[2](テレビ)音量(−)
❺ TV MUTE	*[2](テレビ)消音	*[2](テレビ)消音	消音	*[2](テレビ)消音	*[2](テレビ)消音	*[2](テレビ)消音	*[2](テレビ)消音
❻ TV INPUT	*[2](テレビ)入力切替	*[2](テレビ)入力切替	入力切替	*[2](テレビ)入力切替	*[2](テレビ)入力切替	*[2](テレビ)入力切替	*[2](テレビ)入力切替
❼ 1-9、0、+10	数字キー	数字キー	数字キー	数字キー	数字キー	数字キー	登録局選択(1〜8)
❽ TITLE	タイトルメニュー						
❾ PRESET/CH ∧	選択(上へ)	チャンネル選択(+)					登録局選択(+)
PRESET/CH ∨	選択(下へ)	チャンネル選択(−)					登録局選択(−)
>	選択(右へ)						
<	選択(左へ)						
SELECT	メニュー決定						
❿ RETURN	前の画面へ戻る						
⓫ REC/DISC SKIP	*[4]ディスクスキップ	録画	*[3](ビデオデッキ)録画		*[4]ディスクスキップ	(MD)録音	
◁◁	早戻し	巻き戻し	*[3](ビデオデッキ)巻戻し	早戻し	早戻し	早戻し	
▷▷	早送り	早送り	*[3](ビデオデッキ)早送り	早送り	早送り	早送り	
AUDIO	オーディオメニュー			サウンドメニュー			
▯▯	一時停止	一時停止	*[3](ビデオデッキ)一時停止	一時停止	一時停止	一時停止	
|◁◁	チャプタースキップ(−)			スキップ(−)	スキップ(−)	スキップ(−)	
▷▷|	チャプタースキップ(+)			スキップ(+)	スキップ(+)	スキップ(+)	
□	停止	停止	*[3](ビデオデッキ)停止	停止	停止	停止	
▷	再生	再生	*[3](ビデオデッキ)再生	再生	再生	再生	
⓬ ENTER	タイトル/インデックス表示	決定	数字キー(12)	チャプター/時間表示	インデックス表示	インデックス表示	
⓭ MENU/A/B/C/D/E	メニュー						登録グループ選択(A/B/C/D/E)
⓮ DISPLAY	ディスプレイ表示			ディスプレイ表示	ディスプレイ表示	ディスプレイ表示	

*[1] 機器のリモコンにPOWERキーがあるときのみ、機能します。
*[2] D-TV/CBLまたは★★にテレビのメーカーコードが設定されているときのみ、入力を切り替えなくてもテレビを操作できます。D-TV/CBLと★★の両方にテレビのメーカーコードが設定されている場合は、D-TV/CBLに設定されたメーカーコードが優先されます。
*[3] VCRにビデオデッキのメーカーコードが設定されているときのみ、入力を切り替えなくてもビデオデッキを操作できます。
*[4] ディスクチェンジャー機能がある機器のみ、機能します。

故障かな？と思ったら

ご使用中に本機が正常に動作しなくなった場合は、下記の点をご確認ください。下記以外で異常が認められた場合や、対処しても正常に動作しない場合は、本機をスタンバイ状態にし、電源プラグをコンセントから抜いて、お買上店または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点にお問い合わせ、サービスをご依頼ください。

■ 全般

症状	原因	対策	参照ページ
電源を入れてもすぐに切れてしまう	電源コードの接続が不完全。	電源コードをACコンセントにしっかりと差し込んでください。	–
	(再度電源を入れたときに「CHECK SP WIRES」と表示される場合)スピーカーコードがショートした状態で電源を入れたため、保護回路により電源が切れた。	すべてのスピーカーケーブルが正しく接続されているか確認してください。	18、19
	内部マイコンが外部電気ショック(落雷または過度の静電気)、または電源電圧の低下によりフリーズしている。	ACコンセントから電源プラグを抜き、約30秒後にもう一度差し込んでください。	–
電源スイッチを押しても電源が入らない	電源コードの接続が不完全。	電源コードをACコンセントにしっかりと差し込んでください。	25
	内部マイコンが外部電気ショック(落雷または過度の静電気)、または電源電圧の低下によりフリーズしている。	ACコンセントから電源プラグを抜き、約30秒後にもう一度差し込んでください。	–
使用中に突然電源が切れる	機器内部の温度が上昇したため、保護回路が働き電源が切れた。	温度が下がるのを待って、電源を入れなおしてください。	–
音声や画像が出ない	接続が不完全。	接続を確認してください。	16〜25
	再生するソースの選択が適切でない。	INPUTセレクターや6CH INPUTキーで正しく選択をしてください。	31
	スピーカーの接続が不完全。	接続を確認してください。	18、19
	SPEAKERS A/Bスイッチが正しく設定されていない。	使用するスピーカーに対応するSPEAKERSスイッチをONにしてください。	31
	音量が絞られている。	音量を大きくしてください。	32
	消音されている。	リモコンのMUTEキーまたはVOLUME＋/－キーを押して消音を解除し、音量を調節してください。	32
	CD-ROMなど、本機で再生できない信号が入力されている。	本機で再生可能な信号のソースを再生してください。	–
	映像の出力側と入力側を異なった種類のビデオ端子で接続している。	入力、出力側ともに、VIDEOやS VIDEO、D4 VIDEOなど同じ種類の端子を使用して接続してください。	20〜22
音声が突然出なくなる	機器内部の温度が上昇したため、保護回路が働き電源が切れた。	温度が下がるのを待って、電源を入れなおしてください。	–
	スリープタイマーが作動した。	電源を入れて、ソースを再生しなおしてください。	–
	消音された。	リモコンのMUTEキーまたはVOLUME＋/－キーを押して消音を解除し、音量を調節してください。	32
片側のチャンネルの音声がほとんど出ない	接続が不完全。	接続を確認してください。また、スピーカーケーブルが断線していないか確認してください。	16〜25
エフェクトスピーカー(センター、リアL/R、リアセンター)から音声が出ない	ステレオ再生をしている(ディスプレイに「STEREO」と表示されている)。	STEREO/EFFECTキーを押して、音場効果を入れてください。	43
	ドルビーデジタル、DTSおよびAAC信号でエフェクトチャンネル信号が入っていないソースを再生している。	別の音場プログラムを選択してください。	40
	サンプリング周波数48kHzを超えるデジタル信号が本機に入力されている。	サンプリング周波数48kHzを超えるデジタル信号入力時は、エフェクトスピーカーから音声は出ません。	–

症状	原因	対策	参照ページ
センタースピーカーから音声が出ない	センタースピーカーのレベルが絞られている。	センタースピーカーのレベルを上げてください。	62
	セットメニュー「SOUND-1 SPEAKER SET」の「1A CENTER」がNONに設定されている。	センタースピーカーモードを正しく設定してください。	55
	Hi-Fi DSP音場プログラム（1～4）を選択している（「6ch Stereo」と「Game」は除く）。	DSP処理の仕様により、入力信号のフォーマットによっては、センタースピーカーからの音声出力がない場合があります。	–
リアL/Rスピーカーから音声が出ない	リアL/Rスピーカーのレベルが絞られている。	リアL/Rスピーカーのレベルを上げてください。	62
	セットメニュー「SOUND-1 SPEAKER SET」の「1C REAR LR」がNONに設定されている。	リアL/Rスピーカーモードを正しく設定してください。	56
	音場プログラム9で、モノラルソースを再生している。	別の音場プログラムを選択してください。	40
リアセンタースピーカーから音声が出ない	リアセンタースピーカーのレベルが絞られている。	リアセンタースピーカーのレベルを上げてください。	62
	セットメニュー「SOUND-1 SPEAKER SET」の「1C REAR LR」がNONに設定されている。	リアL/RスピーカーモードがNONに設定されると、自動的にリアセンタースピーカーモードもNONに設定されます。リアL/Rスピーカーモードを正しく設定してください。	56
	セットメニュー「SOUND-1 SPEAKER SET」の「1D REAR CT」がNONに設定されている。	リアセンタースピーカーモードを正しく設定してください。	56
サブウーファーから音声が出ない	セットメニュー「SOUND-1 SPEAKER SET」の「1E BASS」をMAINに設定したまま、ドルビーデジタル、DTSおよびAAC信号を再生している。	SWFRまたはBOTHに設定してください。	56
	セットメニュー「SOUND-1 SPEAKER SET」の「1E BASS」をSWFRまたはMAINに設定したまま、2チャンネル信号を再生している。	BOTHに設定してください。	56
	再生しているソースにLFEや低音信号（90Hz以下）が含まれていない。		–
ドルビーデジタルまたはDTSソフトの再生ができない（本機のディスプレイのドルビーデジタルまたはDTSインジケーターが点灯しない）	接続したプレーヤーなどの設定が「デジタル出力」かつ「ドルビーデジタルまたはDTS」に設定されていない。	お使いのプレーヤーの取扱説明書を参照し、正しく設定してください。	–
低音の再生不良	サブウーファーを使用していないのに、セットメニュー「SOUND-1 SPEAKER SET」の「1E BASS」をSWFRまたはBOTHに設定している。	MAINに設定してください。	56
ハム音が出る	セットメニューの各スピーカーモードがスピーカー構成に一致していない。	各スピーカーモードを適切に設定してください。	55、56
	ステレオピンケーブルの接続が不完全。	ステレオピンケーブルをしっかり差し込んでください。	20～23、25
音量を上げることができない、または音が歪んでいる	本機のOUT（REC）端子に接続された機器の電源が入っていない。	AVアンプという製品ジャンルの特性上、OUT（REC）端子に接続している機器の電源が切れている場合に、再生音が歪んだり、音量が下がったりすることがあります。本機に接続しているすべての機器の電源を入れてください。	–
サラウンドと音場効果を付加した音を録音できない	サラウンドと音場効果を付加した音は録音できません。		–

症状	原因	対策	参照ページ
録音できない	DSP-AX540 デジタル録音時にアナログで信号を入力している。	デジタルで信号を入力してください。	–
	DSP-AX540 本機と再生機器および録音機器がデジタル接続されていない。	デジタル接続をしてください。	20～23
	アナログ録音時にデジタルで信号を入力している。	アナログで信号を入力してください。	–
	本機と再生機器および録音機器がアナログ接続されていない。	アナログ接続をしてください。	20～23
	DSP-AX540 録音機器によっては、ドルビーデジタル、DTSおよびAACなどのデジタルデータを録音できません。		–
スピーカーレベルなどのパラメーターを変更できない	セットメニュー「OPTION-2 MEM. GUARD」がONに設定されている。	OFFに設定してください。	60
セットメニューなどの設定内容が消えている	1週間以上電源コンセントを抜いていたり、外部タイマーが切れたままになっていた。	1週間以上電源コンセントを抜いたままにしておくと、内蔵メモリの内容が消えてしまうことがあります。もう一度設定しなおしてください。	–
本機が正常に作動しない	内部マイコンが外部電気ショック（落雷または過度の静電気）、または電源電圧の低下によりフリーズしている。	ACコンセントから電源プラグを抜き、約30秒後にもう一度差し込んでください。	–
本機に接続している機器にヘッドホンを接続して聴いていると、音が歪む	本機の電源がスタンバイ状態になっている。	本機の電源を入れてください。	26
デジタル機器や高周波機器からの雑音を受けている	本機とデジタル機器や高周波機器の設置場所が近すぎる。	本機をそれらの機器から離して設置してください。	–

■ FM/AM放送の受信

	症状	原因	対策	参照ページ
FM/AM	プリセット選曲ができない	プリセット(メモリー)が消えている。	1週間以上電源コンセントを抜いたままにしておくと、内蔵メモリの内容が消えてしまうことがあります。もう一度プリセットしてください。	35、36
FM	ステレオ放送になると雑音が多く聞きづらい	FM放送の特性により、放送局から離れた地域やアンテナ入力が弱い場合に起きる。	アンテナの接続を確認してください。	24
			屋外アンテナを多素子のものに変えてください。	–
			マニュアル選局をしてください。	34
	FM専用アンテナを使用しているが、音が歪むなど受信感度が悪い	マルチパス(多重反射)などの妨害電波を受けている。	アンテナの高さや方向、設置場所を変えてください。	–
	オート選局ができない	FM放送の特性により、放送局から離れた地域やアンテナ入力が弱い場合に起きる。	マニュアル選局をしてください。	34
			屋外アンテナを多素子のものに変えてみてください。	–
AM	オート選局ができない	電波が弱い、あるいはアンテナの接続が不完全。	AMループアンテナの方向を変えてください。	24
			マニュアル選局をしてください。	34
	「ジー」、「ザー」、「ガリガリ」などの雑音が入る	空電や雷による雑音、または蛍光灯、モーター、サーモスタット付きの電気器具の雑音を拾っている。	AM屋外アンテナを張り、アースを完全に取ると減少しますが、完全に除去するのは困難です。	–
	「ブンブン」、「ヒューヒュー」などの雑音が入る	本機の近くでテレビを使用している。	本機からテレビを離してください。	–

■ リモコン

症状	原因	対策	参照ページ
リモコンで操作できない	リモコン操作範囲から外れている。	本体のリモコン受光部から6m以内、角度30°以内の範囲で操作してください。	15
	受光部に日光や照明(インバーター蛍光灯やストロボライトなど)が当たっている。	照明、または本体の向きを変えてください。	–
	乾電池が消耗している。	乾電池をすべて交換してください。	15
外部機器がリモコンで操作できない	操作する機器が選択されていない。	入力選択キーを押して、操作したい機器を選択してください。	63
	メーカーコードが正しく設定されていない。	メーカーコードを設定しなおすか、同じメーカーのコードの中から別のコードを設定してください。	64
	メーカーコードを正しく設定しても、メーカーまたは機器によっては操作できない場合があります。		–

用語解説

ドルビーサラウンド
ドルビーサラウンドは、ダイナミックで臨場感豊かな音響効果のために、左右2つのメインチャンネル(ステレオ音声)、会話などを再生するセンターチャンネル(モノラル音声)、効果音のリアチャンネル(モノラル音声)の、アナログ4チャンネル方式を採用しています。リアチャンネルの再生域は狭くなっています。
現在、ほとんどのソフトに普及している方式です。本機内蔵のドルビープロロジックデコーダーは、各チャンネルの音量を自動的に調整して安定させ、音の移動感や方向性を強調して、より正確なデジタル処理を行います。
(47、48ページ)

ドルビーデジタル
ドルビーデジタルは、完全に独立したマルチチャンネル音声を再生できるデジタルサラウンドシステムです。全帯域の音声成分を持つフロントの3チャンネル(メインL/R、センター)と、リアのステレオ2チャンネル、低音域専用のLFEチャンネルの合計5.1チャンネルで構成されます。
リアがステレオ2チャンネルで収録されているため、ドルビーサラウンドと比較して、音の移動感や周囲の環境音がより明確になります。全帯域の5チャンネルの幅広いダイナミックレンジと正確な音の定位によって、これまでにない迫力と現実感を再現できます。
(41、47〜49ページ)

ドルビーデジタルサラウンドEX
本機は5.1チャンネルのソースにリアセンターチャンネルを加えて6.1チャンネル再生を可能にするドルビーデジタルサラウンドEXソフト対応のドルビーデジタルEXデコーダーを内蔵しています。(リアセンターチャンネルはリアLとリアRチャンネルから作られます。)ドルビーデジタルサラウンドEXで録音された映画のサウンドトラックを再生する際に、最良の音声を再生できます。この追加チャンネルにより、特に飛び越えたり飛び回ったりといった動きのあるシーンで、よりダイナミックでリアルな動作音をお楽しみいただけます。
(41、47〜49ページ)

ドルビープロロジックII
2チャンネルで記録された音声を信号処理し、優れた分離感を保ったまま5.1チャンネル音声に変換します。映画用のMovieモードと、音楽などのステレオソース用のMusicモードが用意されています。従来の2チャンネル音声(モノラル音声を除く)だけで記録された古い映画も、5.1チャンネルの迫力ある音声で楽しめます。
(42、47、48ページ)

DTS(デジタル・シアター・システムズ)デジタルサラウンド
DTSデジタルサラウンドは、アナログの映画音声に取って代わる5.1チャンネル方式のデジタルサウンドトラックとして開発された最新技術で、世界中の映画館に急速に普及しています。この技術を家庭用に調整したものが、本機で採用しているDTSシステムです。極めて劣化が少なく、クリアな音質の6チャンネル(メインL/R、センター、2つのリアチャンネル、サブウーファー用LFE0.1チャンネルを加えた5.1チャンネル)で構成されています。
(41、47〜49ページ)

DTS ES
本機は5.1チャンネルのソースにリアセンターチャンネルを加えて6.1チャンネル再生を可能にするDTS ESデコーダーを内蔵しています。5.1チャンネルの信号と独立して記録されたリアセンターチャンネル信号を再生するディスクリート方式と、リアL/Rチャンネル信号からリアセンターチャンネル信号を生成して再生するマトリクス方式の2つの方式に対応しています。DTS ESで録音された音楽や、映画のサウンドトラックを再生する際に、最良の音声を再生できます。
(41、47〜49ページ)

DTS Neo:6
2チャンネル信号のソースを、リアセンターを含めた6チャンネルで再生できます。再生するソースに合わせて、音楽用のMusicモードと、映画用のCinemaモードが用意されています。すべてのチャンネルを全帯域で再生できるだけでなく、ディスクリート方式で記録されたソースのようなチャンネルの分離感を体感できます。
(42、47、48ページ)

AAC(アドバンスト・オーディオ・コーディング)
MPEG-2オーディオ規格の1つで、BSデジタル放送で採用されています。モノラル音声から最大で7チャンネル音声までを効率良く圧縮して記録、伝送できます。
本機はAACデコーダーを搭載しているので、BSデジタルチューナーで受信した番組の5.1チャンネル音声をデコード(復号)して再生できます。
(41、47〜49ページ)

LFE(ローフリケンシーエフェクト) 0.1チャンネル
音声成分の帯域が20〜120Hzの、低音域専用チャンネルです。ドルビーデジタルとDTS、AACで、全帯域用の5チャンネルに加えて、効果的な場面で低音を増強するために使用されます。音声の帯域が低域のみに制限されているので、0.1と表現されます。
(17、19、56、57ページ)

シネマDSP
(デジタル・サウンド・フィールド・プロセッサー)
ドルビーサラウンドやDTSのシステムは、本来映画館用に設計されているため、ご家庭では部屋の広さや壁の材質、スピーカーの数などの条件の違いによって、同じソフトであっても視聴感に差が出てしまいます。
ヤマハシネマDSPは、豊富な実測データに基づく独自の音場技術を応用することで、ドルビープロロジックやドルビーデジタル、DTSのシステムと組み合わせて音のスケールや奥行き、音量感を補い、ご家庭でも映画館のような視聴体験を実現します。
(46、47、49ページ)

サイレントシアター
ヘッドホンでマルチスピーカーによる音場プログラムを擬似的に再現するための、ヤマハ独自のシステムです。音場プログラムごとにヘッドホン用の設定値が用意されているため、自然で立体感あふれる音場プログラムをヘッドホンでもお楽しみいただけます。
(43ページ)

バーチャルシネマDSP
リアスピーカーを設置していなくとも、仮想的にリアスピーカーの音場を再現することで、音場プログラムを楽しめます。センタースピーカーを設置できない場合でも、メインL/Rの2スピーカーシステムでバーチャルシネマDSPをお楽しみいただけます。
(43ページ)

Sビデオ信号
Sビデオ信号は、通常ならステレオピンケーブルで伝送される映像信号を、専用のSビデオケーブルを使って、輝度を表すY信号と色を表すC信号に分けて伝送する方式です。S VIDEO端子で接続すると、より美しい映像で録画/再生をお楽しみいただけます。
(20ページ)

コンポーネントビデオ信号
映像信号を「輝度を表す信号:Y信号」と「色を表す信号:P_B/C_BおよびP_R/C_R信号」の3系統に分けて伝送します。それぞれの信号を独立して伝送するため、色をより忠実に再現できます。また、コンポーネント信号は、色信号から輝度信号を引いているので色差信号とも呼ばれます。
(20ページ)

D端子
最新のAV機器間での映像信号の伝送に用いられる端子で、コンポーネントビデオ信号とコントロール信号(走査線、アスペクト比、インターレース/プログレッシブの情報)を一本の専用ケーブルで接続できます。その性能に応じてランクがD1からD5に分けられています。本機にはD4 VIDEO端子が装備されており、D1からD4の規格に対応しています。
(20ページ)

PCM(リニアPCM)
MP3形式やATRAC形式のようにアナログ音声信号を圧縮せずに、そのまま符号化して録音･伝送する方式です。
「PCM」は、パルス･コード･モジュレーションの略で、デジタル信号をパルスの符号にして変調記録するという意味です。
音楽CDやDVDオーディオの録音方法などで採用されています。PCM方式では、非常に短く区切った単位時間あたりの信号の大きさを数値に置き換える(サンプリング)手法を用いています。
(16、44ページ)

サンプリング周波数/量子化ビット数
アナログ音声信号をデジタル信号化する際に、1秒間にサンプリング(信号の大きさを数値に置き換えること)を行う回数をサンプリング周波数といい、音の大きさを数値化するときのきめの細かさを量子化ビット数といいます。
再生できる周波数帯は「サンプリング周波数」で決まり、音量の差を表わすダイナミックレンジは「量子化ビット数」で決まります。原理的には、サンプリング周波数が高いほど再生可能な音域が広がり、量子化ビット数が大きいほど音の大きさの変化をきめ細かく再現できることになります。
(16、44ページ)

主な仕様

オーディオ部

定格出力（6Ω、20Hz～20kHz、0.09% THD）

DSP-AX540

- メインL/R .... 80W＋80W
- センター 80W
- リアL/R .... 80W＋80W
- リアセンター 80W

DSP-AX440

- メインL/R .... 75W＋75W
- センター 75W
- リアL/R .... 75W＋75W
- リアセンター 75W

実用最大出力（EIAJ、6Ω、1kHz、10% THD）

DSP-AX540

- メインL/R .... 110W＋110W
- センター 110W
- リアL/R .... 110W＋110W
- リアセンター 110W

DSP-AX440

- メインL/R .... 100W＋100W
- センター 100W
- リアL/R .... 100W＋100W
- リアセンター 100W

ダンピングファクター（8Ω、20Hz～20kHz）

- メインL/R 100以上

入力感度/インピーダンス

- CD他 150mV/47kΩ
- 6CH INPUT 150mV/47kΩ

出力電圧/インピーダンス

- REC OUT 150mV/1.2kΩ
- SUBWOOFER 4.0V/1.2kΩ

ヘッドホン出力/インピーダンス 150mV/100Ω

周波数特性（10Hz～100kHz）

- CD他－メインL/R .... −3.0dB

全高調波歪率（20Hz～20kHz）

- CD他－メインSP OUT(40W/8Ω) 0.06%以下

S/N比（IHF-Aネットワーク、入力ショート）

- CD他（250mV入力）－SP OUT 100dB以上

残留ノイズ（IHF-Aネットワーク）

- メインSP OUT 150μV以下

チャンネルセパレーション
（5.1kΩターミネート、1kHz/10kHz）

- CD他 60dB以上/45dB以上

トーンコントロール

- BASS .... ±10dB/60Hz
- TREBLE .... ±10dB/20kHz

A/Dコンバーター
.... 64倍オーバーサンプリングΔΣ方式24ビット

D/Aコンバーター
.... 128倍オーバーサンプリングΔΣ方式24ビット

ビデオ部

ビデオ信号方式 .... NTSC

コンポジットビデオ信号レベル 1Vp-p/75Ω

Sビデオ信号レベル DSP-AX540

- Y 1Vp-p/75Ω
- C 0.286Vp-p/75Ω

D4ビデオ信号レベル

- Y 1Vp-p/75Ω
- PB/CB、PR/CR 0.7Vp-p/75Ω

S/N比 50dB以上

周波数帯域（MONITOR OUT）

- VIDEO .... 5Hz～10MHz、−3dB
- S VIDEO DSP-AX540 .... 5Hz～10MHz、−3dB
- D4 VIDEO .... DC～60MHz、−3dB

FMチューナー部

受信周波数 .... 76.0MHz～90.0MHz

実用感度（IHF） .... 1.0μV（11.2dBf）

S/N比（IHF）

- モノ 76dB
- ステレオ 70dB

歪率（1kHz）

- モノ 0.2%
- ステレオ 0.3%

ステレオセパレーション（1kHz） 42dB

周波数特性（20Hz～15kHz） .... ＋0.5/−2dB

AMチューナー部

受信周波数 .... 531kHz～1611kHz

実用感度 300μV/m

総合

電源電圧 .... AC100V、50/60Hz

消費電力 220W

待機時消費電力 0.9W

ACアウトレット（電源スイッチ連動×2） 合計100W

寸法（幅×高さ×奥行き） .... 435×161×390mm

質量 11.0kg

* 仕様、および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

本機は「高調波ガイドライン」適合品です。

メーカーコード一覧

下表のメーカー製品であっても形式、年式によって使用できないものがあります。他社のメーカーコードを設定した場合、機種によっては操作できないもの、または限られた機能しか操作できないものがあります。この場合は、お使いの機器専用のリモコンをご利用ください。設定方法については「リモコンで操作できる機器を指定する」(64ページ)を参照してください。

TV

AIWA	1481
BEST	1321, 1341, 1361, 1411, 1451, 1461, 1471
DACUS	1401, 1421
DAEWOO	0291, 0301, 0331, 0721, 0941, 1001, 1031, 1121, 1191, 1531, 1581, 1591, 1601
FUNAI	1341, 1361, 1411, 1451
GENERAL	1291
HITACHI	1351
INTERCONP	1491
LG(GOLDSTAR)	0031, 0121, 0351, 0411, 0731, 0741, 0861, 0941, 0971, 1001, 1031, 1111, 1151
MITSUBISHI	1381
NEC	1321
PANASONIC	1311, 1371, 1431
PHILIPS	0101, 0401, 1001
PIONEER	1331
SAMSUNG	1461
SANYO	1231, 1251, 1261
SHARP	1241, 1271
SONY	1281, 1441
TOSHIBA	1301
VICTOR	1201, 1211, 1221
YAMAHA	0361, 1031, 1111

ケーブルTVチューナー

PIONEER	0006, 0086

BSデジタルチューナー

PANASONIC	0896
SONY	0906
TOSHIBA	0916

テープデッキ

AIWA	0094, 0214, 0224
AKAI	0184
DENON	0304
KENWOOD	0124, 0134, 0154, 0234, 0244, 0264
MARANTZ	0094, 0344
MITSUBISHI	0184
ONKYO	0364, 0374
PIONEER	0034, 0044, 0064
SANSUI	0094, 0344
SHARP	0264
SONY	0054, 0084, 0324
TEAC	0194, 0254
TECHNICS	0074, 0314
VICTOR	0274, 0284, 0294
YAMAHA	0004, 0014, 0104, 0114, 0164, 0174, 0264

ビデオデッキ

AIWA	0992
DAEWOO	0802, 0812, 0982
FUNAI	0992
HITACHI	0102, 0562, 0572, 0582, 0592, 0602, 0992
LG(GOLDSTAR)	0082, 0632, 0912
MITSUBISHI	0452, 0462, 0542, 0762, 0952, 1082
NEC	0122, 0202, 0292, 0422, 0432, 0542, 0632
PANASONIC	0012, 0052, 0092, 0222, 0372, 0382, 0392, 0412, 0932
SAMSUNG	0212, 0312, 0922, 0962
SANYO	0242, 0612, 0842, 0902, 0922
SHARP	0402, 0472
SHINTOM	0852
SONY	0032, 0332, 0352, 0362, 0672, 0792, 0932
TOSHIBA	0062, 0302, 0342, 0622, 0682, 0712, 0762
VICTOR	0202, 0522, 0532, 0542, 0552
YAMAHA	0202, 0632

DVDプレーヤー

AIWA	0218
DENON	0188
HITACHI	0198
KENWOOD	0148
LG	0228
MITSUBISHI	0138
ONKYO	0068, 0128
PANASONIC	0028
PHILIPS	0098, 0128
PIONEER	0108, 0118
RCA	0158
SAMSUNG	0078
SHARP	0038
SONY	0018
TOSHIBA	0048, 0128
VICTOR	0088, 0178
YAMAHA	0008, 0028, 0098, 0208

LDプレーヤー

AIWA	0157
DENON	0147
FUNAI	0157
HITACHI	0017
KENWOOD	0087, 0107
MARANTZ	0027
MITSUBISHI	0137
PANASONIC	0077, 0177
PHILIPS	0027
PIONEER	0017, 0037, 0137
SHARP	0127
SONY	0047, 0057, 0117
VICTOR	0097
YAMAHA	0007, 0067

CDプレーヤー

AIWA	0295, 0945, 1035, 1055
DENON	0275, 0875, 0885
HITACHI	0195, 0205, 0505, 0815
KENWOOD	0045, 0095, 0405, 0585, 0725, 0735, 0745, 0755, 0895
KYOCERA	0025
LG(GOLDSTAR)	1135, 1225, 1265, 1335
LUXMAN	0075, 0425, 0675, 0705, 0715, 0985
MARANTZ	0215, 0235, 0375, 0785, 1345
MITSUBISHI	0135, 0445
NAKAMICHI	0125, 0435, 0515
NEC	0255, 0905, 0965
ONKYO	0155, 0455, 0495, 0805, 1155
PANASONIC	0055, 0825, 1095, 1125
PHILIPS	0165, 0215
PIONEER	0305, 0935, 1045
SAMSUNG	1285
SANSUI	0215, 0625, 0975, 1025, 1105
SANYO	0145, 0555, 0635, 0765
SHARP	0235, 0665, 0895, 1065, 1075
SONY	0065, 0565, 0865, 1145
TEAC	0235, 0335, 0385, 0525, 0795, 0835, 1355
TECHNICS	0055, 0605, 1095
TOSHIBA	0035, 0685
VICTOR	0315
YAMAHA	0005, 0015, 0085, 0415, 0545, 0575, 1065

CDレコーダー

HITACHI	0474
MARANTZ	0484, 0494
PHILIPS	0444
PIONEER	0454, 0464
VICTOR	0504
YAMAHA	0414

MDレコーダー

KENWOOD	0384
PIONEER	0424
SHARP	0434
SONY	0394
YAMAHA	0024, 0394, 0404, 0514

索引

ヤマハホットラインサービスネットワーク

ヤマハホットラインサービスネットワークは、本機を末永く、安心してご愛用いただけるためのものです。
サービスのご依頼、お問い合わせは、お買上げ店、またはお近くのサービス拠点にご連絡ください。

● **保証期間**
お買い上げ日より1年間です。

● **保証期間中の修理**
保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

● **保証期間が過ぎているとき**
修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。

● **修理料金の仕組み**
◆ **技術料**　故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。
◆ **部品代**　修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。
◆ **出張料**　製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

● **補修用性能部品の最低保有期間**
補修用性能部品の最低保有期間は、製造打切り後8年(テープデッキは6年)です。補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

● **持ち込み修理のお願い**
故障の場合、お買い上げ店、または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点へお持ちください。

● **製品の状態は詳しく**
サービスをご依頼なさるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。
※ 品番、製造番号はAV製品の背面もしくは底面に表示してあります。

● **スピーカーの修理**
スピーカーの修理可能範囲はスピーカーユニットなど振動系と電気部品です。尚、修理はスピーカーユニット交換となりますので、エージングの差による音色の違いが出る場合があります。

● **摩耗部品の交換について**
本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。
本機を末永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをお薦めします。
摩耗部品の交換は必ずお買い上げ店、またはヤマハ電気音響製品サービス拠点へご相談ください。

摩耗部品の一例
ボリュームコントロール、スイッチ・リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

※ このページは、安全にご使用いただくためにAV製品全般について記載しております。

■ ヤマハAV製品の機能や取扱いに関するお問合せは

お客様ご相談センター

TEL　(0570) 01 – 1808 (ナビダイヤル)
全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

携帯電話、PHSからは下記番号におかけください。
TEL　(053) 460 – 3409

FAX　(053) 460 – 2777
住所　〒430-8650
静岡県浜松市中沢町 10-1

ご相談受付時間　10:00～12:00, 13:00～18:00
(日・祝日及び弊社が定めた日は休業とさせていただきますのであらかじめご了承ください。)

■ ヤマハAV製品の修理、サービスパーツに関するお問合せは

(ヤマハ電気音響製品サービス拠点)

北海道　〒064-8543　札幌市中央区南十条西1-1-50 ヤマハセンター内
TEL (011) 512 - 6108

仙　台　〒984-0015　仙台市若林区卸町5-7 仙台卸商共同配送センター3F
TEL (022) 236 - 0249

首都圏　〒143-0006　東京都大田区平和島2丁目1番1号
京浜トラックターミナル内14号棟A-5F
TEL (03) 5762 - 2121

浜　松　〒435-0016　浜松市和田町200 ヤマハ(株)和田工場内
TEL (053) 465 - 6711

名古屋　〒454-0058　名古屋市中川区玉川町2-1-2
ヤマハ(株)名古屋流通センター3F
TEL (052) 652 - 2230

大　阪　〒565-0803　吹田市新芦屋下1-16
ヤマハ(株)千里丘センター内
TEL (06) 6877 - 5262

四　国　〒760-0029　高松市丸亀町8-7
(株)ヤマハミュージック神戸 高松店内
TEL (087) 822 - 3045

九　州　〒812-8508　福岡市博多区博多駅前2-11-4
TEL (092) 472 - 2134

愛情点検

★永年ご使用のAV製品の点検を！

こんな症状はありませんか？

● 電源コード・プラグが異常に熱い。
● コゲくさい臭いがする。
● 電源コードに深いキズか変形がある。
● 製品に触れるとピリピリと電気を感じる。
● 電源を入れても正常に作動しない。
● その他の異常・故障がある。

すぐに使用を中止してください。

事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店に点検をご依頼ください。
なお、点検・修理に要する費用は販売店にご相談ください。

ヤマハオーディオ＆ビジュアルホームページ
http://www.yamaha.co.jp/audio/

ヤマハ株式会社
〒430-8650　浜松市中沢町10-1

YAMAHA

DSP-AX540
DSP-AX440

簡易接続ガイド

DVD プレーヤーを接続する

DVD プレーヤーを接続して、デジタルソースを楽しむための基本的な接続のしかたを説明します。

手順 1

センタースピーカー　メインスピーカー (R)　サブウーファー　リアスピーカー (R)　1.5～1.8m　リアセンタースピーカー　メインスピーカー (L)　リアスピーカー (L)

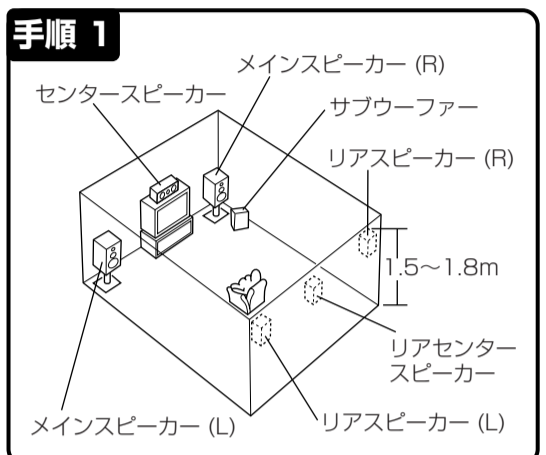
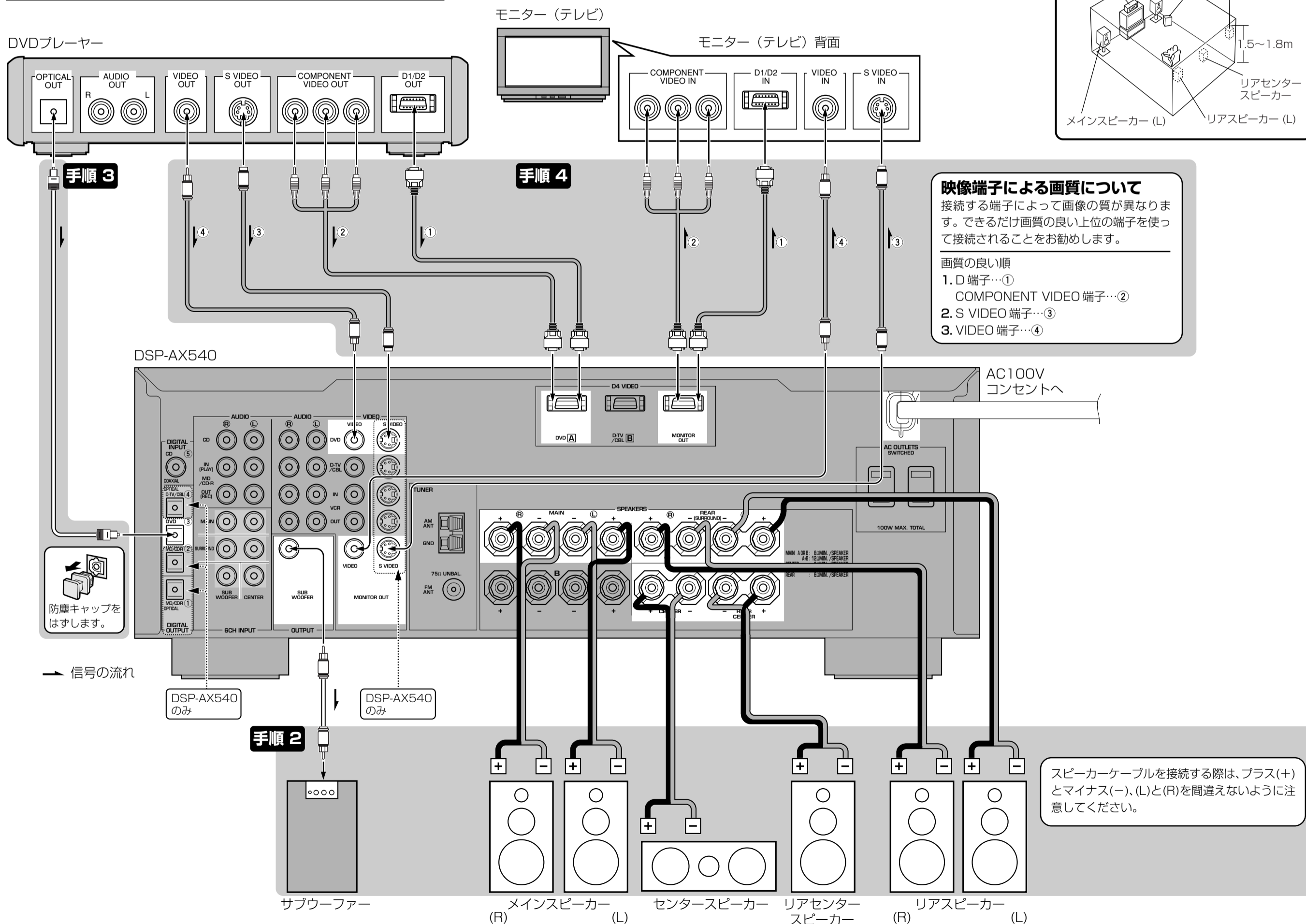
モニター（テレビ）

DVDプレーヤー

OPTICAL OUT　AUDIO OUT R L　VIDEO OUT　S VIDEO OUT　COMPONENT VIDEO OUT　D1/D2 OUT

モニター（テレビ）背面

COMPONENT VIDEO IN　D1/D2 IN　VIDEO IN　S VIDEO IN

手順 3　手順 4

映像端子による画質について

接続する端子によって画像の質が異なります。できるだけ画質の良い上位の端子を使って接続されることをお勧めします。

画質の良い順
1. D 端子…①
   COMPONENT VIDEO 端子…②
2. S VIDEO 端子…③
3. VIDEO 端子…④

DSP-AX540

AC100V
コンセントへ

防塵キャップをはずします。

→ 信号の流れ

DSP-AX540 のみ　DSP-AX540 のみ

手順 2

スピーカーケーブルを接続する際は、プラス(+)とマイナス(−)、(L)と(R)を間違えないように注意してください。

サブウーファー　メインスピーカー (R) (L)　センタースピーカー　リアセンタースピーカー　リアスピーカー (R) (L)

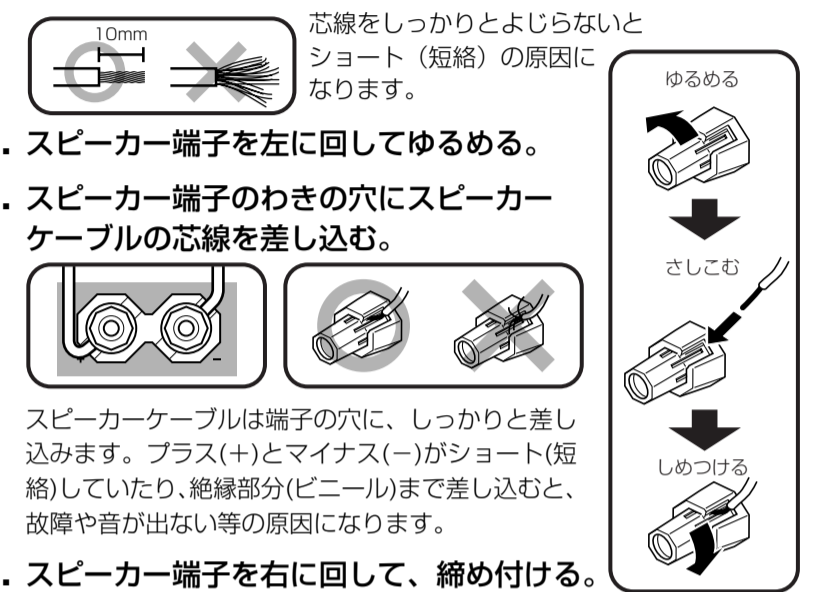
本機および接続するすべての機器の電源コードがACコンセントに接続されていないことを確認する。

手順 1 スピーカーの設置場所を決める

※取扱説明書の 17ページを参照

手順 2 スピーカーケーブルを接続する

1. スピーカーケーブル先端部の絶縁部を10mmくらいはがす。
2. 芯線をしっかりとよじる。

芯線をしっかりとよじらないとショート（短絡）の原因になります。

3. スピーカー端子を左に回してゆるめる。
4. スピーカー端子のわきの穴にスピーカーケーブルの芯線を差し込む。

スピーカーケーブルは端子の穴に、しっかりと差し込みます。プラス(+)とマイナス(−)がショート(短絡)していたり、絶縁部分(ビニール)まで差し込むと、故障や音が出ない等の原因になります。

5. スピーカー端子を右に回して、締め付ける。
6. サブウーファーはサブウーファー用ピンケーブルで本機と接続する。

手順 3 音声ケーブルを接続する

DVDプレーヤーのOPTICAL OUT端子を光ファイバーケーブルで本機のDIGITAL INPUT OPTICAL(DVD)端子に接続する。

※DVDプレーヤーのデジタル音声出力端子がCOAXIALタイプの端子の場合は、裏面の「端子の割り当てを変更する」をご覧ください。

手順 4 映像ケーブルを接続する

「映像端子による画質について」をご覧ください。

D 端子や COMPONENT VIDEO 端子で接続する場合
「手順 4」の図の ① または ② のように接続します。

S VIDEO 端子や VIDEO 端子で本機を接続する場合
「手順 4」の図の ③ または ④ のように接続します。

※ モニター（テレビ）に複数の端子を使って接続した場合には、モニター（テレビ）側で入力の選択を行ってください。

※ 裏面の「本体内部での映像信号の流れ」をご覧ください。

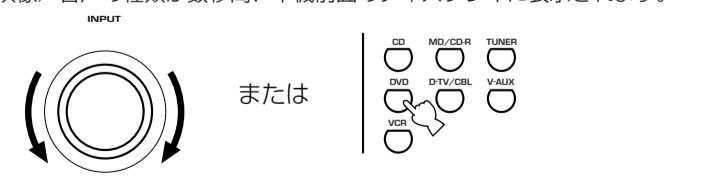
手順 5 DVD を再生する

1. DVD プレーヤー、本機、モニター（テレビ）の電源コードを AC コンセントに接続し、電源を入れる。
2. VOLUME コントロールを最小にします。
3. 本機の SPEAKERS A または B を押して、音を出すメインスピーカーを選ぶ。

※この図に従って接続した場合は A を押します。

4. 本機の INPUT セレクターを回すか、リモコンの入力選択キーを押して、DVD を選ぶ。

※選んだ映像／音声の種類が数秒間、本機前面のディスプレイに表示されます。

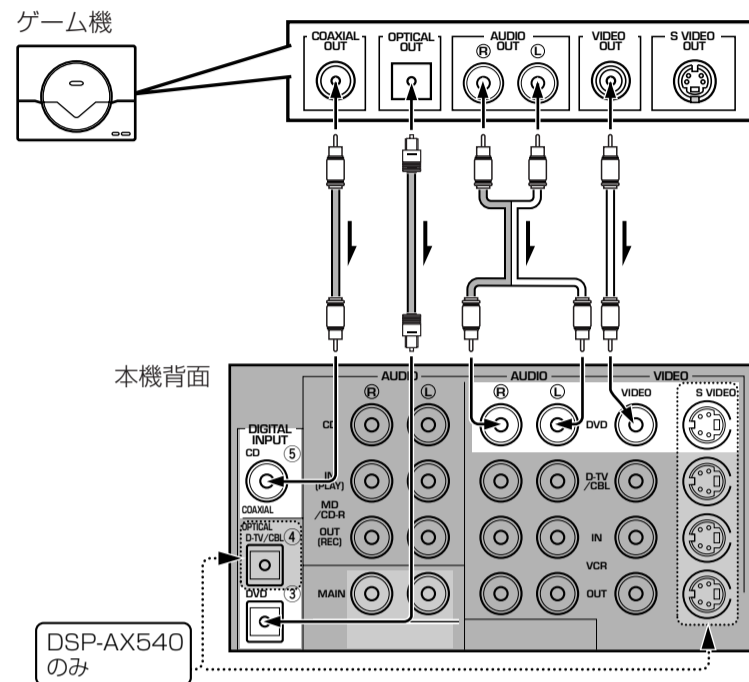
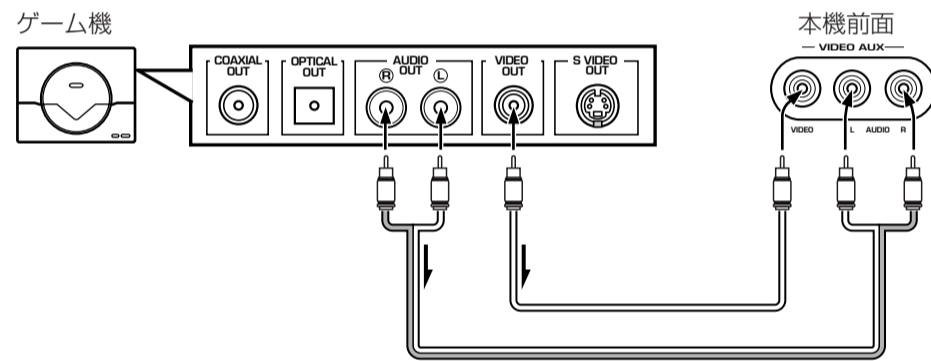
または

5. DVD を再生する。

※ VOLUME コントロールで音量を調節して DVD を再生します。
※音声が出ない場合には、DVD プレーヤーで音声の設定をします。

Printed in Malaysia　WA76910

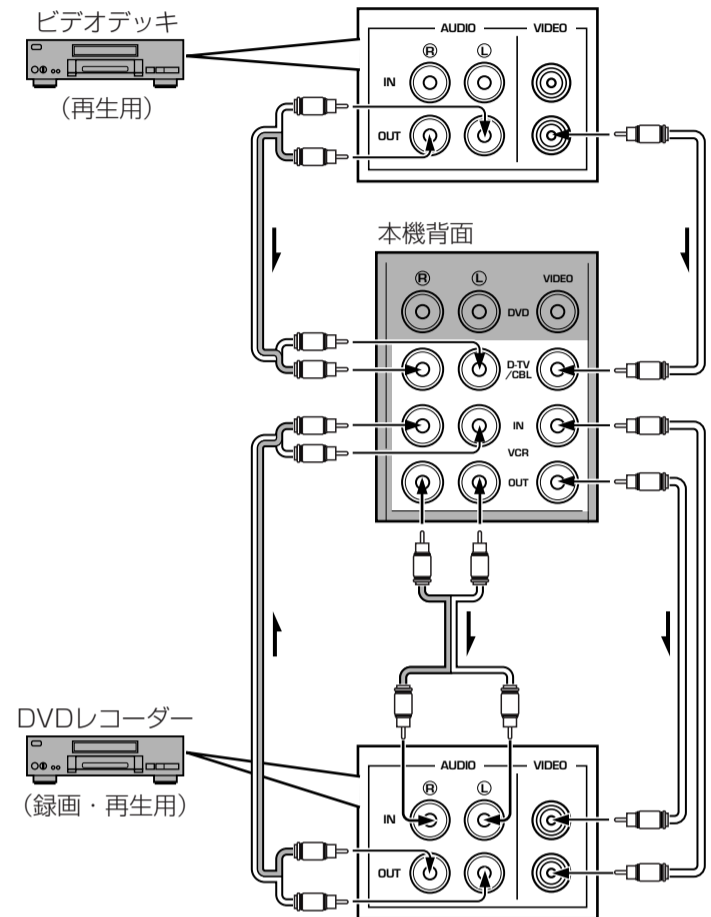
さまざまな機器を接続する

●DVD プレーヤー機能つきのゲーム機器を接続する

本機の DVD の端子に接続することができます。

本機前面からの接続

※ DSP-AX540 のみ
モニター（テレビ）に S VIDEO 端子がある場合には、S VIDEO ケーブルで接続すると VIDEO 端子よりも高画質な映像を再生できます。

※ CD 入力端子(COAXIAL)に入力する場合は、「端子の割り当てを変更する」を参照。

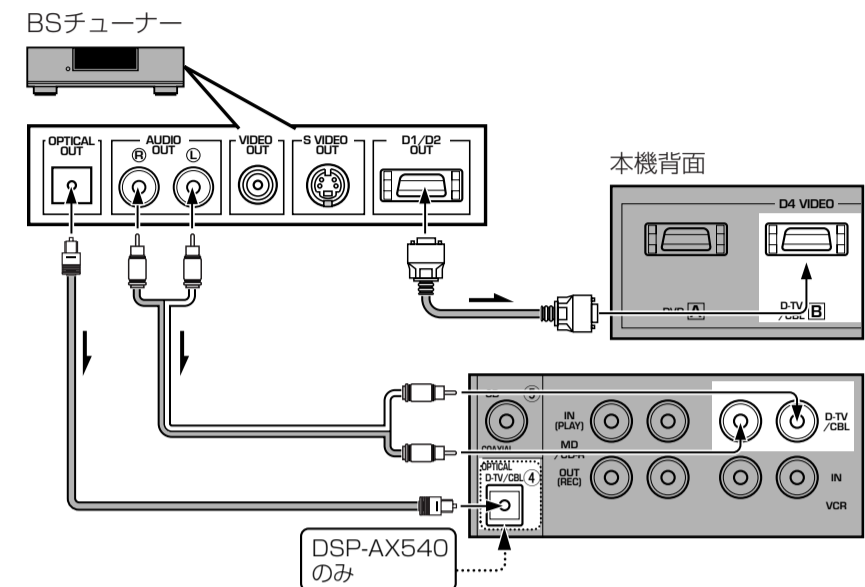
●複数の録画・再生機器を接続する

録画・再生用 DVD レコーダーは VCR (IN OUT) 端子に接続します。再生用デッキは D-TV/CBL 、DVD のいずれかの端子に接続します。ここでは D-TV/CBL 端子への接続例を示します。

※ DVD レコーダー（録画・再生用）の音声・映像を楽しむためには、本機の INPUT セレクターまたは入力選択キーで「VCR」を選択します。
ビデオデッキ（再生用）の音声・映像を楽しむためには、本機の INPUT セレクターまたは入力選択キーで「D-TV/CBL」を選択します。

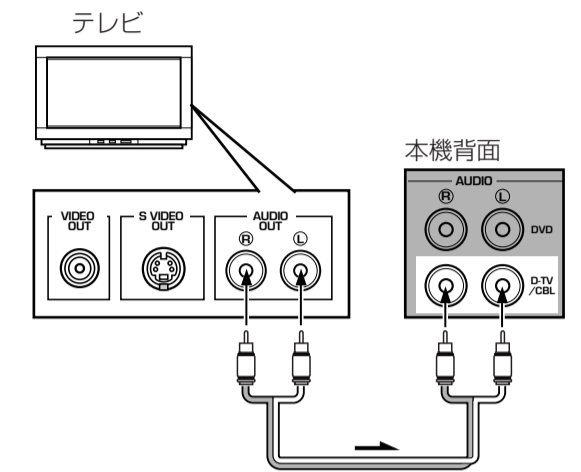
※ 再生側のビデオデッキの録画はできません。

※ DVR（DVD レコーダー／録画側）のかわりにビデオデッキを接続できます。

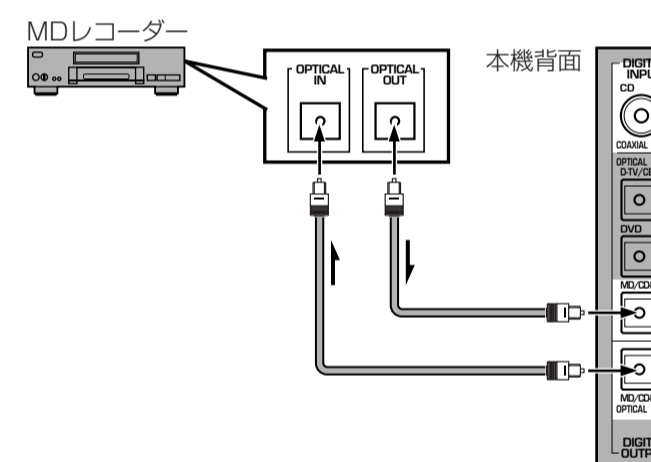
※ DSP-AX540 のみ
モニター（テレビ）、DVD レコーダー、ビデオデッキに S VIDEO 端子がある場合には、S VIDEO ケーブルで接続すると VIDEO 端子よりも高画質な映像を再生できます。

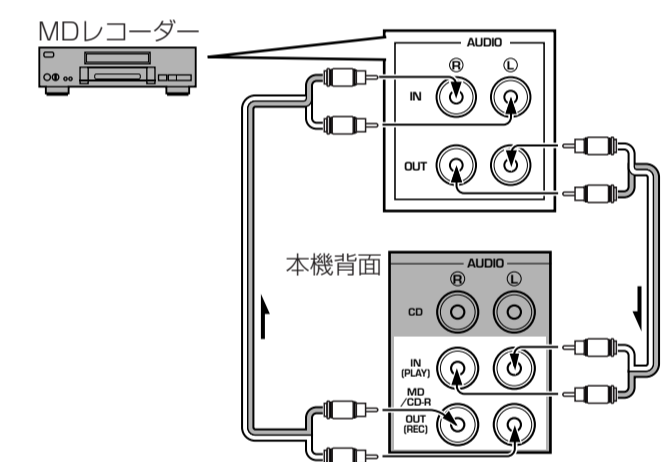
●BS チューナー、ケーブルテレビを接続する

※ BS チューナー、ケーブルテレビの音声を楽しむためには、本機の INPUT セレクターまたは入力選択キーで「D-TV/CBL」を選択します。

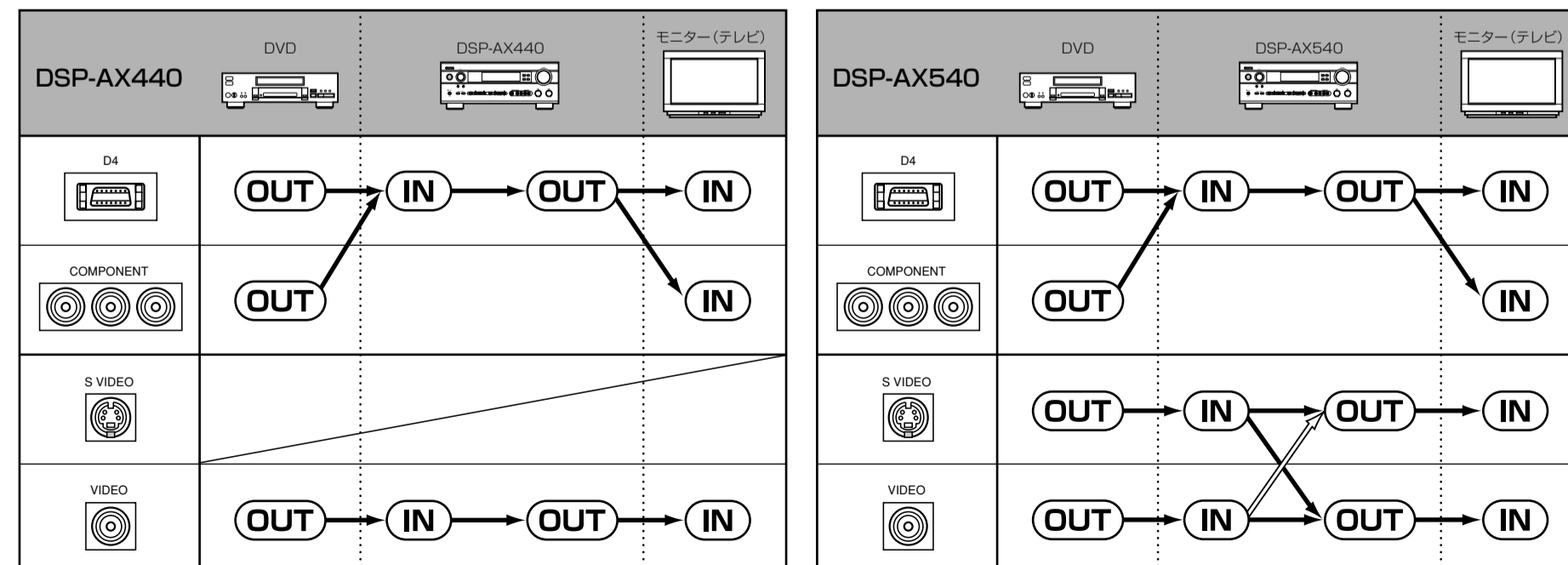
※ モニター（テレビ）に D 端子がない場合は、S VIDEO 端子（DSP-AX540 のみ）または VIDEO 端子で接続してください。

●テレビの音声を接続する

※ モニター（テレビ）の音声を楽しむためには、本機の INPUT セレクターまたは入力選択キーで「D-TV/CBL」を選択します。

●MD レコーダーを接続する

デジタル音声を録音します。(DSP-AX540 のみ)

アナログ音声を録音します。

※ CD レコーダーでも同様に接続できます。

本体内部での映像信号の流れ

接続する場合には、お手持ちのモニター（テレビ）の映像入力端子(IN)の形状に合わせてケーブルを選択し、正しく接続してください。

D4 VIDEO 端子について

本機の D4 VIDEO 端子には、D1 から D4 までの規格の機器を接続できます。接続する機器の取扱説明書をあわせてご覧ください。

※取扱説明書の 20 ページ、71 ページを参照

ビデオコンバージョン機能について

(DSP-AX540 のみ)

本機では VIDEO 入力端子に入力された信号を、VIDEO MONITOR OUT 端子と、S VIDEO MONITOR OUT 端子のどちらからでも出力できるようになっています。

⟹ ………「OPTION DISPLAY SET」の「V CONV」が ON の時のみ
※取扱説明書の 60 ページを参照

音声信号を切り替える

デジタル音声信号とアナログ音声信号を同時に入力した場合、デジタル音声信号が優先されます。入力モードを切り替えて、優先順位を選んだり、特定の信号に固定することができます。

※取扱説明書の 33 ページを参照

端子の割り当てを変更する

背面の「COAXIAL/OPTICAL（デジタル音声入出力）」端子や「D4 VIDEO（ビデオ入力）」端子には、あらかじめ機器名称が割り当てられていますが、表示されている名称以外の機器を接続したい場合に、I/O ASSIGN の機能で端子の割り当てを変更することができます。

※取扱説明書の 59 ページを参照

例：CD 入力端子（COAXIAL タイプ）に DVD プレーヤーを接続する場合

DVD プレーヤーのデジタル音声出力端子が COAXIAL タイプの場合、本機の「DIGITAL INPUT COAXIAL」（CD）端子に接続し、割り当てを変更します。

1D COAXIAL IN (＊)・・・・・CD を
1D COAXIAL IN (＊)・・・・・DVD に変更します。
(＊) ; DSP-AX540、の場合（5）、DSP-AX440 の場合（2）

DVD プレーヤーを楽しむには、本機の INPUT セレクターや、リモコンの入力選択で「DVD」を選択します。